

即チ休暇ノ文字ヲ以テ裁判所職員カ執務ヲ爲サ、ルノ日ト解セシカ裁判所構成法第二百二十七條ノ如キ長月日モ亦之レヲ含メリト爲サ、ルヘカラス更ラニ又臨時ノ事由ニ依リテ行政上ノ便宜ヲ以テ裁判所職員ニ與ヘラル、休日モ亦之レニ含メリトナサ、ルヘカラサルニ至ルヘシ期間ニ關スル法律ノ規定ハ常ニ幾多困難ノ問題ヲ伴ハサルヘカラサルニ至ルヘキナリ大審院ニ於ケル判例中明治二十六年第二百五十九號同年九月二十五日判決ノ競賣執行取消事件ニ關シテハ「年末年始ノ休暇ハ祝祭日ト認メタル法令慣行ナキヲ以テ一般ノ祝祭日ト爲スヘキ理由ナシ」トアリ明治二十八年第四十號同二月九日判決ノ土地讓與契約履行請求事件ニ關シテハ「國葬式ノ當日ハ民事訴訟法第六十六條第二項ニ所云一般ノ祝祭日ニアラス」トアリ右民事部ニ於ケル判例ハ以テ民事訴訟法第十五條ニ規定アル期間ノ延長ニ關スル法文ノ解釋ヲ定ムルニ於テ最モ有力ナル資料ナルヘシ即チ同條ノ所謂休暇トハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ヲ指セルモノニシテ年末年始ノ休暇若シハ暑中休暇等ハ之ニ含マスト解スヘキハ相當ナリト信ス右ノ理由ニ依リ原院カ本件ニ關シ與ヘタル判決ハ控訴期日終了ノ後ニ至リ不適法ニ提起セラレタル控訴ニ違ケル不法ニ歸スヘキコト明カニシテ原判決ノ全部ヲ破毀セラル、ト同時ニ控訴棄却ノ判決ヲ與ヘラルヘキヲ相當ナリト思料スト云フニ在レトモ○一月一日ヨリ三日マテ十二月二十九日ヨリ三十一日マテハ明治六年第二號太政官布告ヲ以テ休暇ト定ムル所ナレハ刑事訴訟法第十五條ニ所謂休暇中ニハ右休暇日ヲモ包含スルコト勿論ナレハ本論旨ハ理由ナシ」其第二點ハ原判決ハ法律ニ違背シタ

ル不法アリ原判決ニ於テハ「被告イシノ控訴及ヒステニ對スル檢事ノ控訴ニ付テハ刑事訴訟法第二百六十一條第二項イトニ對スル檢事ノ控訴ニ付テハ同第一項ニ則リ主文ノ如シ判決ス」トアリ然レトモ刑事訴訟法第二百六十一條ノ法文ニハ一項二項ノ區別存スルナシ即チ同法文ニ存セサル所ノモノヲ援ヒテ法律ニ關スル裁判ノ理由トセラレタルハ法律ニ違背シタル不法ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百六十一條ニハ一項二項ノ區別アルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ」其第三點ハ原院公判ノ始末書ヲ査閱スルニ原院ニ於テハ檢事ノ申立トシテハ其冒頭ニ「被告イト、ステノ兩名ニ對スル犯罪ノ證據充分ナルニ拘ハラス前判決ニ於テ無罪ノ宣告相成タルハ失當ナルニ付キ原廳檢事ヨリ控訴ニ及ヒタルヲ以テ更ニ審理ヲ求ム」ト述ヘ一件記録ニ依リ本案事實ヲ陳ヘ證據ヲ舉ケタリトノ記載アリ又證據調濟後ノ論告トシテハ同調書ノ末段ニ「イト、ステニ對シテモ證據十分ニ付キ結局前判決ハ取消ヲ免レサルモノトノ辯論ヲ爲シ各被告共ニ有罪ナリトノ趣旨ヲ辯論シ」トアルニ過キスシテ檢事カ本件ニ付法律ノ適用ニ關スル論告ヲ爲シタル形跡ノ認ムヘキモノナシ右ハ刑事訴訟法第一條同第二十二條ニ違背シタル不法アリ同法第二百六十九條第六號ニ該當スル破毀ノ原由アルモノト思料ス（判例參照明治二十七年十月十五日大審院判決同年第七一六號）ト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十條ニハ證據調濟ノ後檢事ハ事實及法律適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シトアルカ故ニ意見ヲ陳述スルハ檢事ノ職責タルヘシト雖モ裁判所ハ檢事ニ對シ意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フルヲ以テ足り之ヲ強ユル

ハ、要ナキモノトス。從テ檢事カ意見ヲ陳述セスト雖モ判決ノ瑕疵トナル可キモノニアラス。今原院公判始末書ヲ查スルニ原院ハ辯論ニ移ル旨ヲ告ケ檢事ハ意見ヲ陳述シアルヲ以テ其意見ハ法律ノ適用ニ及ハストスルモ之ヲ理由トシテ原判決ヲ攻撃シ得可キモノニアラス。其第四點ハ原院公判始末書ヲ查閱スルニ裁判長ハ被告人ニ對シ最終ノ陳述ヲ爲サシメ來ル十七日午前八時判決ヲ言渡スヘキ旨ヲ告ケタリトアリテ右ノ如ク被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲サシメタルニ際シ被告人カ如何ナル陳述ヲ爲セシヤ或ハ又陳述ヲ爲サ、リシヤスラ毫モ徵スヘキノ事跡アルナシ右ハ刑事訴訟法第二百八條第六項末段及ヒ同法第二百二十條第三項末段ノ規定ニ違背シ同法第二百六十九條ニ依リ破毀ノ原由アルモノト思料スト云フニ在レトモ。○刑事訴訟法第二百二十條第二項ノ但書ニハ辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシムヘシトアルヲ以テ辯護人ニ於テ最終ノ供述ヲ爲スニ於テハ特ニ被告本人ヲシテ最終ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ要セス。今原院公判始末書ヲ查スルニ辯護人ニ於テ最終ノ辯論ヲ爲シアルヲ以テ其辯論ハ刑事訴訟法第二百八條第六號ニ「被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト」トアルニ相當スルモノトス。而シテ同始末書ニ「裁判長ハ被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲サシメ」云々トアルハ前掲二百八條ノ規定ニ從ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコトヲ掲ケタルニ止マリ特ニ被告人ヲシテ供述セシメタル趣旨ニアラサレハ本論旨モ亦理由ナシ。

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス。

明治三十五年五月十六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○詐欺ニ依リ免狀ヲ取得シタル件

明治三十五年(レ)第八〇五號  
明治三十五年五月十六日宣告

○判決要旨

一 刑法第二百十四條ニ所謂免狀トハ之ヲ受クルト同時ニ或特殊ノ行為ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノヲ云フ從テ書記試験及第證書ノ如キ試験ニ及第シタルコトヲ證スルニ過キサルモノハ同條ニ所謂免狀ニ非ス

(参照) 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ(刑法第二)百十四條

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 大谷正三(外一名)

右詐欺ニ依リ免狀ヲ取得シタル被告事件ニ付明治三十五年三月三十一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢察長代理檢察事香坂駒太郎ハ上告ヲ爲シタリ  
依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ハ原判決中第二ノ事實ヲ以テ單ニ刑法第二百三十一條ノ氏名詐稱ノ罪ニ擬シ而シテ刑法第

二百十四條免狀詐取ノ罪ヲ構成セスト爲シタル理由ハ「免狀ハ之ヲ得ルヤ直ニ或權利ヲ實行シ得ルモノナラサルヘカラス然ルニ書記試験合格證書ノ如キハ唯資格ヲ得ルニ止マリ權利ヲ實行シ得ルモノコアラサレハ之ヲ得ルモ免狀詐取ニアラス」ト云フニ在リ然レトモ右ハ法意ヲ誤解シタルモノナリト信ス抑モ該條所謂免狀ナルモノハ「法律カ一私人ニ或行為ヲ行フコトヲ得ルノ資格ヲ付與シタル證明ナリ」トハ刑法學者ノ一般ニ認ムル定義ナリ此定義ニ依レハ直ニ權利ヲ實行シ得ル旅行免狀若クハ漁業免狀ノ如キハ勿論假令直ニ權利ヲ實行シ得サルモ或行為ヲ行フコトニ付テノ資格ヲ證明シ得ラル、モノニ在テハ總テ免狀ト稱スルヲ得ヘシ本件書記試験合格證書ノ如キハ之ヲ得ルヤ直ニ書記タルヲ得ルモノニアラサルモ之ニ依テ書記ニ登用セラル、ノ資格ヲ得タルヲ以テ書記ニ登用セラレノコトヲ其筋ニ請フコトヲ得ヘシ即チ之ヲ稱シテ免狀ト云フ固ヨリ不可ナルナシ今被告兩名ハ共謀シテ氏名ヲ詐稱シ此免狀ヲ詐取シタルモノナレハ刑法第二百十四條ノ罪ヲ構成スルコト明ナリ然ルニ原判決此ニ出テス單ニ氏名詐稱トシテ論シタルハ擬律錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百十四條ノ所謂免狀ナルモノハ之ヲ受クルト同時ニ或特殊ノ行為ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノナリ本件書記試験及第證書ノ如キハ之レト異リ唯單ニ書記試験ニ及第シタルコトヲ證シ得ルニ過キスシテ該證書ニ依リ或特殊ノ權利ヲ行ヒ得ヘキモノニアラサレハ同條ノ免狀ヲ以テ論スヘキモノニアラサルヤ明カナリ即チ原判決カ被告ノ所爲ヲ同條ニ問擬セサルハ相當ニシテ論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年五月十六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○罪人隱避ノ件

明治三十五年(九)第五八九號  
明治三十五年五月十九日宣告

○判決要旨

一 刑法第五百一十一條ノ犯罪人隱避ノ罪ハ自カラ隱避ノ行爲ヲ行ハサルモ犯罪人ニ隱避ノ便ヲ與ヘタルニ依リテ成立ス(判旨第二點)  
一 罪人隱避罪(刑法第五百一十一條)ハ犯罪人ナルコトヲ知リテ之ヲ隱避セシムルニ因リテ成立ス從テ隱避ノ所爲カ其犯罪人ニ對スル告訴又ハ豫審請求前ニ在ルヤ若クハ其後ニ在ルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ(判旨第四點)

(參照) 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ(刑法第百

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 島長五郎 辯護人 齋藤二郎

右罪人隱避被告事件ニ付明治三十五年三月一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

隱避ノ方法○罪人隱避罪ノ構成

上告趣意ハ原判決ハ被告ノ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シナカラ尙ホ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ畢竟不法ニ事實ヲ確認シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○原院ハ第一審判決ニ犯罪ノ場所ヲ明示セサルノ失當アルヲ以テ控訴ヲ理由アリトシタルモノニシテ被告ヲ無罪ナリト認メ控訴ハ理由アリトシタルニアラス故ニ其認定シタル事實ニ刑ヲ適用シタルハ相當ナリトス

辯護人齋藤二郎ノ擴張辯明書第一點ハ犯罪人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシムル犯罪ハ積極的ノ行爲ヲ必要トスルコトハ論ヲ俟タス現ニ御院ニ於テモ明治三十一年六月十日判決同年五七九號被告人曲庇事件ニ付此論旨ヲ認メラレタリ今本件ニ對シ原院ニ於テ上告人ノ行爲ニ對シ認メタル事實ハ其判文ノ理由ニ於テ(被告ハ其知合ナル久保忠吉カ詐欺取財被告事件ニ付福島地方裁判所檢事ノ捜査中ニ係ル犯罪人ナルコトヲ知リナカラ明治三十四年九月中福島町鹽六旅店ニ於テ同人ニ對シ福島地方ヨリ東京地方ニ隠避スヘキ旨指示シタルヲ以テ忠吉ハ其言ニ從ヒ同月中東京地方ニ隠避シタルモノナリ)トアレトモ該事實ノミニテハ積極的ノ行爲ヲ以テ上告人カ久保忠吉ヲ隠避シタリト云フヲ得ヘキカ上告人ノ信スル所ニヨレハ上告人ハ單ニ久保忠吉ヲシテ福島地方ヨリ東京地方ニ隠避スヘキ旨指示シタリトスルモ進テ福島地方裁判所檢事ノ捜査中ニ係ル犯罪人ヲ積極的行爲ヲ以テ該檢事ノ發見ヲ避ケシムルノ行爲ナリト速斷スルヲ得ス而シテ當該官吏ハ上告人ニ對シ明治三十四年九月三十日迄ハ一回ノ取調ヲモ爲シタルコトナシ果シテ然ラハ上告人ハ自己ノ管守外ニ於テ久保忠吉ヲシテ特ニ當該官吏ノ發見ヲ避

判旨第二點

ケシムル爲メ積極的ノ行爲ヲ行ヘルノ事實ナキモノナレハ從テ上告人ノ所爲ハ犯罪ヲ構成セザルモノナリト思料ス然ルニ原院ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑法第百五十一條ニハ犯罪人ナルコトヲ知テ之ヲ隠避セシメタル者トアリテ自カラ隠避ノ行爲ヲ行ハサルモ犯罪人ニ隠避ノ便ヲ與ヘタルトキハ其罪ヲ構成ス而シテ被告ハ犯罪ノ嫌疑ヲ以テ捜査中ニアル忠吉ニ助言シ同人ヲシテ捜査ヲ免カレル行爲ヲ爲サシメタルモノナレハ原院カ前記法條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリトス

第二點ハ原院判決中上告人カ久保忠吉ニ對シ福島地方ヨリ東京地方ニ隠避スヘキ旨指示シタル行爲ヲ以テ犯罪人ヲ隠避シタルモノト論斷スルヲ得ヘシトスルモ未ダ以テ積極的ニ久保忠吉ヲ上告人カ隠避シタリト認ムルニ由ナシ何ントナレハ判文中隠避ナル文詞ノ記載アリト雖モ之レ事實内容ノ記載ニアラスシテ一ツノ包括的ニ外ナラスシテ決シテ事實其者ヲ指示シタル文詞ニ非サレハナリ故ニ原院ニ於テハ少クトモ上告人ノ管守外ニ於テ久保忠吉ヲシテ當該官吏ノ發見ヲ避ケシムルノ積極的所爲ヲ以テ福島地方ヨリ東京地方ニ避クヘキ旨ヲ指示シタルモノナリトノ事實ヲ認定セサルヘカラス然ルニ原院ニ於テハ其認定ヲ爲サスシテ直チニ上告人ノ所爲ハ刑法第百五十一條第一項ヲ適用處斷スヘキモノト爲シタルハ不充分ナル事實ノ認定ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノニシテ結局裁判ニ理由ヲ付セサル違法アルモノトスト云フニ在レトモ○福島地方裁判所檢事ノ捜査權ヲ及ホスヘキ同裁判所管内ヲ立チ去リ東

京地方ニ行カシメタル事實ヲ判決ニ明示シアリテ其事實ハ即チ隠避セシメタルモノナルヲ以テ犯罪事實ノ理由ニ不備ナシトス

第三點ハ原院判文中上告人ハ明治三十四年九月中福島町鹽六旅店ニ於テ久保忠吉ニ對シ(中略)指示シタルヲ以テ云々ト判示シアレトモ本件ノ訴訟記録ヲ査閲スルニ久保忠吉等ニ對スル告訴狀ノ提起ハ明治三十四年九月三日ニシテ當該檢事カ豫審判事ニ對シ豫審ヲ求メタルハ同年九月三十日ナレハ少クトモ原院ニ於テハ上告人カ久保忠吉ニ對シ隠避スヘキ旨ヲ指示シタル日時ハ其以後ニ拘ルモノタルコトヲ判示セサルヘカラス然ルニ單ニ明治三十四年九月中云々トアルヲ以テ果シテ久保忠吉カ當時犯罪人トシテ當該官吏及上告人ニ於テ目セラレタルモノナルカ否ヤ之レヲ知ルニ由ナシ果シテ然ラハ原院ハ犯罪構成ニ關スル重要ナル事實ヲ判斷セサルモノニシテ結局理由不備アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○罪人隠避罪ハ犯罪人ナルコトヲ知リテ之ヲ隠避セシムルニ因リテ成立スルモノニシテ隠避ハ所爲カ其犯罪人ニ對スル告訴又ハ豫審請求前ニ在ルト若シハ其後ニ在ルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ而シテ原院ハ忠吉ヲ犯罪人ナリト認メ被告カ之ヲ隠避シタル所爲ハ九月中ニアリト判示シタルモノナレハ告訴又ハ豫審請求ノ日ノ如何ハ本件犯罪ノ構成事實ニ關係ナキモノナルヲ以テ其日ヲ判示セサルモ理由ノ不備ナシトス

第四點ハ本件ノ記録中明治三十四年九月三十日福島地方裁判所檢事ノ豫審請求書ハ刑事訴訟法第二十

判旨第四點

條ノ規定ニ違背シタル無効ノ起訴ナリ從テ本件ハ元來適法ノ起訴ナキ事件ナレハ原院ニ於テハ宜シク公訴不受理ノ判決ヲ下ス可キモノトス何トナレハ右豫審請求書ハ檢事加藤治之丞ノ署名ニアラサレハナリ而シテ加藤治之丞ノ筆跡ハ本件記録中豫審終結ニ對スル意見書及ヒ被告呼出請求書ニ署名セル筆跡ナリトス然ルニ第一審以來適法ノ公訴アリタルモノトシテ本件上告人ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○豫審請求書ノ檢事ノ署名ハ署名者本人ノ手記ニアラスト認ムルコトヲ得サルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年五月十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○官印盜用官文書偽造行使賄賂收受等ノ件

明治三十五年(九)第六三二號  
明治三十五年五月十九日宣告

○判決要旨

一 官吏ニシテ其官廳ノ取扱例ニ依リ記入スヘキ事項ヲ偽造スルトキハ官文書偽造罪ヲ構成ス(判旨第四點)

一 相被告ニ對スル件名ヲ併記シタル呼出狀ニ依リ召喚シタル證人ノ費用ト雖モ其證人ノ審問ニシテ相被告ノ事件ニ關係ナカリシトキハ其費用ハ審問ヲ必要トセシ事件ノ被告ノミニ於テ負擔スヘキモノトス(判旨第五點)

一 同一ノ文書ニシテ一面ハ私文書偽造トナリ一面ハ官文書偽造トナル場合ニ於テハ私文書偽造罪ハ自ラ官文書偽造罪中ニ包含ス(判旨第十一點)

第一審 札幌地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 山崎文男

右官印盜用官文書偽造行使賄賂收受公文書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年二月二十八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行

シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ヲ要スルニ第一ハ原院ノ認ムル如ク被告カ田村作次郎カ死亡ノ事實ヲ知悉シ居ルニ拘ハラズ同人及田利クマ(親子間)ノ賣買登記申請書ヲ受理シ之カ登記ヲ爲シタリトスルモ該登記ハ他人ヲ害シ又ハ將來害ヲ生スヘキモノニアラサルヲ以テ偽造罪ヲ構成セサルモノナルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○不動産ノ移轉カ相續ニ因ルト賣買ニ因ルト法律上其效力ヲ異ニスルモノナレハ被告カ相續ノ登記ヲ爲スヘキニ故ラニ賣買ノ登記ヲ爲シタル行爲ハ實害ヲ生シ得ヘキモノナルヲ以テ原院カ偽造罪ヲ成スモノトシテ處斷シタルハ相當ナリ

第二ハ函館區裁判所判事木村萬象カ函館控訴院ヘ填補シ陪席判事トシテ本件ノ豫審終結ニ對スル抗告決定ニ關與シタルハ職權ナキ判事ノ填補ニシテ結局定數ノ判事ナクシテ決定シタルモノニ歸シ其決定ハ裁判所構成法第四十條及憲法第二十四條ニ背キ無効ノ決定ナリ然ラハ第一第二審ハ豫審終結ノ確定セサル重罪事件ヲ審判シタル不法アリト云フニ在レトモ○右抗告ノ決定ハ對手方ヨリ抗告ナキヲ以テ既ニ確定シタルモノナレハ之ヲ論難シテ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

第三ハ共同被告天野浩ハ函館控訴院公判始末書ニ記載スル如ク同法廷ニ於テ豫審ノ申立ノ虛偽誤謬ナルコトヲ陳述シ變更ヲ爲シタルニ拘ハラズ原院カ其虛偽ノ陳述ヲ記載セル豫審調書ヲ採リ收賄罪ノ唯一ノ證トナシタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ

官文書偽造○證人費用ノ負擔○一文書中ノ二種ノ偽造

上告適法ノ理由トナラス

第四ハ登記申請書ニ受付年月日ヲ朱記スルコトハ登記法及同施行細則ニ規定ナケレハ官吏ノ作成スヘキ文書ナリト云フヲ得ス亦其部分ハ文書トシテ信憑力ヲ有スルモノニアラス然ルニ原院カ此朱記モ亦官文書ノ偽造ナリトテ間擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ「其登記申請書ニ取扱例ニ依リ明治三十二年十月二十一日受付第六一五ノ一ト記入シ云々」トアリテ官吏カ其官廳ハ取扱例ニ依リ記入スヘキ事項ヲ偽造スルニ於テハ偽造罪ヲ成スモノナルノミナラス不動産登記法第四十七條ニ登記官吏ハ申請書ニ受付年月日ヲ記載スヘキノ規定アレハ官文書偽造罪タルコト勿論ニシテ上告ハ理由ナシ

判旨第四點

第五ハ豫審ノ證人栗屋熊樾外五名ハ被告及天野浩ノ被告事件田中重善ノ詐欺取財事件ノ證人ナルコトハ各調書ニ於テ瞭カナリ而シテ浩及重善ハ既ニ有罪ノ判決ヲ受ケ確定シ居ルニ拘ハラス右證人等ノ旅費ノ全額ヲ被告一名ニ負擔セシメタルハ刑法第四十五條同第四十七條ニ違背シタル判決ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查スルニ證人栗屋熊樾遠藤サヲ藤田才市中島廣多後藤與五右衛門久保虎藏ハ相被告ニ對スル事件ト被告ニ對スル事件トトテ併セ掲ケテ召喚シアレハ其證人ニ關スル費用ハ相被告ニ連帶負擔セシムヘキカ如キモ右證人ハ被告文男ニ對スル事件ノミニ付審問シタルモノナレハ其喚問ニ要シタル旅費日當金十五圓七十五錢ヲ被告文男ノミニ負擔セシメタルハ不當ニアラス

判旨第五點

第六ハ原判決ハ豫第五號ノ五ナル登記申請書ヲ沒收シ收賄金三十圓ヲ追徴セリ然ルニ該部分ニ付テハ彙ニ函館控訴院ニ於テ「原判決中豫第五號ノ五ナル偽造文書ノ一部ノミヲ沒收シ其餘ノ偽造部分ヲ沒收セス且收賄金ヲ追徴セサルノ不法アリト雖モ本件ハ被告ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ被告等ノ不利益ニ變更セズ云々」ト判示セリ凡ソ被告ノ上告ハ利益ノ爲メニアラサレハ成立セズ故ニ被告カ函館控訴院ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルハ其不利益ノ部分ノミナルコト明瞭ナリ隨テ大審院カ破毀ノ上移送シタルモ被告ノ上告部分ノ範圍ニ外ナラス然ラハ函館控訴院カ被告ノ不利益ニ變更セズ云々ノ部分ハ業ニ已ニ確定シタルモノナリ然ルニ原院檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ前記部分ニ付再ヒ判決ヲ與ヘタルハ一事不再理ノ原則ニ反スル違法アリト云フニ在レトモ○附加刑及追徴ハ常ニ主刑ニ附從スルモノナルヲ以テ主刑ニ對シテ上訴アルトキハ沒收及追徴モ亦テ上訴ニ係リ主刑ニ關スル判決カ上訴ノ爲メ未確定ナルトキハ沒收又ハ追徴モ亦確定スルヲ得ス故ニ函館控訴院カ沒收及追徴ニ付不利益ニ變更セスト判決シタル點ハ該院ノ判決全部ニ對スル上告中ニ包含セラレ從テ大審院カ與ヘタル破毀ノ判決ハ右沒收及追徴ニ及ホスモノナレハ其事件ノ送付ヲ受ケタル宮城控訴院カ此點ニ判決ヲ與ヘタルハ相當ニシテ上告ハ理由ナシ

第一擴張書ノ趣旨ヲ要スルニ第一ハ原判決トハ第二審ノ場合ニ於テハ第一審判決ヲ指スモノニシテ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ事件ヲ乙控訴院ニ移シタル場合ニ於テハ甲控訴院ノ判決ハ原判決



ナル文字中ニ包含スヘキモノニアラス(御院判例二十九年第一八八號)乙控訴院ハ恰モ始メテ一審ノ控訴ヲ受ケタルト同一ノ地位ニアルモノナリ故ニ宮城控訴院ノ判決ニ於テ原判決ト稱スルハ札幌地方裁判所ノ判決ニシテ函館控訴院判決ハ包含セス而シテ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ甲控訴院カ無罪ヲ言渡シ已ニ確定シタルモノアルトキハ乙控訴院ハ其無罪ノ部分ニ對シ裁判スヘキモノニアラス(御院判例三十年第八一五號)然ルニ原院ノ所謂原判決(札幌地方裁判所)中ニハ既ニ函館控訴院カ賣買證書ト之ニ記載シタル登記簿ノ偽造ノ點ハ無罪ナリト言渡シ確定シタル部分ヲ包含シタルコト拘ハラヌ其無罪ノ部分ヲ除カスシテ單ニ「原判決ハ之ヲ取消ス」ト判示シタルハ不法ナリ假リニ函館控訴院ノ判決ヲ包含スルモノトセハ無罪ノ點ヲ除カスシテ其全部ヲ取消シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○函館控訴院ハ田利作次郎田利マ間ノ土地賣渡證書ヲ偽造シ之ニ官印ヲ盜捺シタル點ニ付キ無罪ヲ言渡シ而シテ該院ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルモノナレハ右無罪ヲ言渡シタル點ニ對シ上告ナカリシコトハ論ヲ俟タヌ從テ宮城控訴院ノ判決ニ第一審判決ヲ取消シタル中ニ右無罪ノ點ヲ包含セサルコトモ亦タ明カナリ依テ宮城控訴院ノ判決ニ第一審判決ヲ取消ストアルハ函館控訴院カ有罪ナリト判決シタル事實ノ範圍ニ於テ第一審判決ヲ取消シタルモノナルコト自カラ明白ナレハ判文ニ不備ノ點ナシトス

第二ハ原判決ノ事實理由ニ新十津川村土地登記第十三號第十四號ノ各甲區欄内ニ二番トシテ二個ノ賣

買登記簿ヲ偽造シタルコトヲ認メナカラ法律理由ニ至リ孰レカ重キカチ明示セスシテ刑法第百條ヲ適用シタルハ理由ヲ附セサル判決ナリ(御院判例二八年第八二三號、三〇年第四六號)ト云フニ在レトモ○原院ハ土地登記簿第一冊登記番號第十三號第十四號ノ偽造ヲ以テ一個ノ所爲ナリト判定シタルモノニシテ刑法第百條ヲ適用シタルハ他ニ數罪アルカ故ニシテ右二號ノ偽造ニ對シ適用シタルニアラス依テ原判決ニ於テ此偽造ノ間ニ於テ輕重ヲ判示セサルハ當然ナリ

第三ハ原判決主文ニ「押收書類中偽造又ハ變造ニ係ル部分ハ之ヲ官沒ス」トアリテ法律理由中ニモ其書類ノ明示ナク判決自體ニ於テ如何ナル部分カ沒收セラレタルカ物體ノ明示ヲ缺如セル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ノ事實理由ニ於テ書類ノ如何ナル部分カ偽造又ハ變造セラレタルカチ明示シアレハ主文ニ詳細ノ記載ナキモ沒收ノ物件ハ明白ナルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス

第四ハ原判決ニ第一審ノ別罪トシテ認メタル「土地賣買登記申請書偽造行使ノ點ニ付テハ其私文書偽造ノ點ハ自カラ官文書偽造中ニ包含セラルヘキモノニシテ云々」ト説明シ別罪トシテ問ハサル旨ヲ明示シナカラ主文ニ於テ何等ノ判決ヲ爲サルハ訴ヲ受ケタル事件ヲ裁判セサルノ不法アリ(御院判例二十九年第二九九號)ト云フニ在レトモ○刑ヲ言渡スニ付判決主文ニ表示スヘキモノハ執行スヘキ刑ニ止マリ所論ノ點ハ刑ヲ適用スルノ理由ニ外ナラサレハ之レヲ主文ニ表示スルモノニアラス故ニ理由ニ於テ説明シタル以上ハ判決ヲ與ヘサルノ欠點アリト云フヲ得ス

第五ハ登記申請書ハ官文書ニアラスシテ私文書ナリ而シテ被告カ之ニ無用ナル年月日番號等ノ朱記ヲ爲シタリトテ官文書トナル理由ナシ然ルニ原判決ニ賣買登記申請書ヲ相當簿冊ニ編綴シ置キタル所爲ハ云々ト説示シ之ヲ官文書偽造ナリト判示セリ然レトモ單ニ私書ヲ官簿ニ編綴シタリトテ其一事ヲ以テ官文書ニ變更スル謂レナシ假リニ變更スルモノナランカ其理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ニ之ヲ明示セサルハ擬律ノ錯誤若クハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○登記申請書ハ固ト私文書ナリト雖モ被告カ之ニ記入シタル虛偽ノ受付年月日番號ノ記入等ハ登記官吏ノ爲スヘキモノナレハ其虛偽ノ記入等ハ官文書ノ偽造ニシテ之ヲ相當簿冊ニ編綴シテ登記所ニ備付タル上ハ行使ノ行爲アルモノトス而シテ本件ノ如ク同一文書ニシテ一面ハ私文書偽造トナリ一面ハ官文書偽造トナル場合ニ於テハ原判決ニ説明スル如ク私文書偽造ハ自カラ官文書偽造罪中ニ包含セラル、モノトス故ニ原判決ニ理由不備又ハ擬律ノ錯誤ナシトス

第二擴張書ノ趣旨ヲ要スルニ第一前段ハ原院ノ採用シタル天野浩外三名ノ豫審調書ハ如何ナル資格ヲ以テ爲シタル供述ナルカ證人參考人又ハ被告人タルコトヲ判決自體ヲ以テ明ニスルコト能ハサレハ證據ノ明不チ欠キタルモノナリト云フニ在レトモ○供述者ノ資格如何ハ記錄ニ依リ知ルヲ得ヘキヲ以テ敢テ證據ノ明示チ欠キタルモノトセス」其中段ハ田利常太郎ノ明治三十三年五月六日附豫審調書ハ證人トシテ訊問ヲ受ケタルモノナルモ其後共犯トシテ訴追ヲ受ケタルモノナレハ證言ノ效ナキモノナル

ニ恰モ證言ノ如クコシテ採用シタルハ證據ノ明示チ缺クモノナリト云フニ在レトモ○公訴ヲ受ケサル以前ニ在リテハ證人タルノ資格ヲ有スルヲ以テ其當時ニ證人トシテ爲シタル供述ハ之ヲ證言トシテ採用スルモ違法ニアラス又其證言ヲ採用シタルコト及其内容ヲ説示アレハ證據ノ明示ナシト云フヲ得ス」其後段ハ被告ノ住所ハ北海道ニシテ千葉縣ニアラス然ルニ第一審判決ニ「據從シテ千葉縣云々ト虛無ノ住所ヲ掲ケ良シヤ被告ニ人違ナシトスルモ審理不盡ノ不法アリト云フニ在レトモ○被告ノ住所如何ハ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ原院カ認定シタル住所ヲ論難スルモ上告ノ理由トナラス

第二ハ原院ニ於テ沒收及收賄金追徴ノ點ニ付檢事カ附帶控訴ヲ爲シタルハ事實及證據調結了後ナルヲ以テ更ニ被告ヲ訊問シ證據調ヲ爲スニ非サレハ收賄金ハ既ニ費消シタルカ果シテ被告ノ手ニ存スルカヲ知ルニ由ナシ然ルニ原院ハ此手續ヲ爲サス且反證提出ノ告知ヲ爲サスシテ結審シ「其收賄金ハ既ニ費消シタルニ因リ云々」ト判示シ之ガ追徴ヲ言渡シタルハ審理不盡ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ原判決ニ認定シタル事實ヲ審理シ相當ノ證據調ヲ爲シアレハ收賄金ヲ費消シタル事實モ亦審理セラレタルコト勿論ナリ而シテ檢事ハ既ニ審理ヲ經タル事實ニ對シ沒收及追徴ヲ爲スヘシトノ附帶控訴ヲ爲シタルモノナレハ更ニ證據調ノ手續ヲ爲スノ要ナク要スルニ原院ニ於ケル審理ハ相當ナリトス

第三ハ原院ニ於ケル檢事ノ附帶控訴ハ事件全部ニ對スルモノナルカ一部ニ對スルモノナルカ判文ニ之

レカ明示ナク其制限ナキヲ以テ全部ニ對スルモノナリトセンカ事實ニ於テハ之ニ反ス旁以テ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○附帶控訴カ一部控訴ナルカ全部控訴ナルカハ公判始末書ニ依リ明カナルヲ以テ判文ニ之ヲ明示セサルモ違法ニアラス

第四ハ本件ハ母子間ニ於ケル遺産相續登記ヲ爲スヘキニ賣買登記ヲ爲シタルモノナレハ其手續ニ相違アルモ取得スヘキ權利アル者ヘ取得シタル行爲ヲ公示シタルモノナレハ實害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノニアラス從テ信用ヲ害スルモノト斷定スルヲ得ス又登記濟ナル文書ハ特リ其原證書ノミナラス登記原簿ヲ總稱スルモノニシテ函館控訴院カ判決シタル如ク登記濟ノ授受ハ共犯者間ニ止マリ第三者ニ對シテ利用シタル事實ナキヲ以テ法律上罪トナラストセハ登記簿及附屬書類ノ偽造ノ點モ亦罪トナルヘキモノニアラス然ルニ原判決カ之ニ反シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ノ偽造登記カ實害ヲ生スヘキモノナルコトハ趣旨第一點ニ對シ説明スル如クナルヲ以テ重ネテ説明セス又函館控訴院ニ於テ行使ノ事實ナシトシテ無罪ヲ言渡シタルハ土地賣渡證書ヲ偽造シ之ニ登記番號登記濟等ノ記載ヲ爲シ官印ヲ盜捺シタル點ニアリテ登記簿及附屬書類ノ偽造ト同一ノ行爲ニアラス而シテ此偽造文書ニハ行使ノ事實アルヲ以テ原院カ偽造行使罪アリトシテ處斷シタルハ相當ナリ

第五ハ上告趣意第二點ヲ敷衍スルニ過キサルヲ以テ重ネテ説明セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月十九日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

○詐欺取財委託金費消ノ件

明治三十五年(乙)第六七〇號  
明治三十五年五月十九日宣告

○判決要旨

一 検事ノ肩書ニ裁判所ノ名ヲ記載シアリテ別ニ書類作製ノ場所ノ記載ナキ以上ハ作製ノ場所ハ其裁判所ナリト解スヘキモノトス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 深尾治郎兵衛 辯護人 高木祖來

右詐欺取財委託金費消被告事件ニ付明治三十五年三月十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ハ縷々陳辯スル所アルモ之ヲ要スルニ第一ハ深尾銀藏カ同人ト山口平兵衛トノ間ノ債權讓渡ニ關シ前後矛盾ノ申立及ヒ被告ノ申立ナ一切排斥シテ之カ説明ヲ與ヘサリシハ採證法ヲ誤リタル判決ナリト云フニ在レトモ  
○判決ニハ罪トナルヘキ事實之ヲ證據ニ依リ認メタル理由及法律ノ適用ヲ明示スレハ足レルモノニシテ證據ヲ排斥シタル理由ヲ説明セサルモ理由ノ不備ニアラス  
第二ハ原判決ニ被告ノ豫審調書中「先方カ金融惡キ云々」ノ記載ヲ引用シアルモ右調書ニ其記載アルコトナシ斯ク虛無ノ事柄ヲ松田嘉市ノ豫審調書ニ對照シ事實ヲ認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ  
○原判決ニハ「先方カ金融惡シキ云々」ト云ヒシ點ハ被告ノ豫審調書ニ記載アリト説示シタルモノ

ニアラス畢竟本論旨ハ原判文ノ誤解ニ外ナラスシテ上告ノ理由ナシ  
辯護人高木祖來ノ理由申立書第一點ハ原判決ヲ認定シタル事實ハ(前後合計九百圓ヲ引渡シ終ニ銀治ヨリ受取リタル金一千圓中一百圓ヲ清藏ニ交付セス之ヲ詐取シタリ)ト云フニ在リ此文旨ヨレハ一百圓ヲ清藏ニ交付セサルコトハ看得ルモ詐欺ノ手段ニヨリ横領シタルコトハ毫モ之レナシ只詐取シタリトノ術語ヲ以テ結ヒタルモ其事實ハ説示ナシ但シ中段ニ(先方カ金融惡キ旨申詐リ)トアリテ詐欺ノ手段ノ如キモ其次句ニ(兎モ角九百圓ヲ受取ツテ置テ吳レ後ハ追々ニ渡スト云ヒ置キ)トアツテ絶對ニ九百圓ヨリ渡サ、ル意思ニアラサルコトヲ見ルニ足レリ要スルニ原判決ハ千圓中百圓ヲ渡サ、ルシコトハ確定セルモ渡サ、リシ其百圓ヲ詐欺ヲ以テ横領シタリトノ點ニ於テハ何等ノ説示ナシ然ラハ騙取又ハ詐欺ノ所爲アルモノト云フヲ得ス然ルニ詐取シタリトノ説示ハ理由齟齬ノ不法アリト云フニ在レトモ  
○原判決ニ依リ被告カ銀治ヨリ清藏ノ爲メ金一千圓ヲ受取リナカラ先方カ金融惡キ旨申詐リ銀治ヨリ九百圓受取タルモノ、如ク欺キ百圓ヲ横領シタル事實明白ナレハ事實理由ニ齟齬ノ點ナシトス  
第二ハ原判決ニ於テハ千圓中ノ百圓ハ「金融惡キ旨申詐ハリ」タルトキ百圓ヲ詐取シタリヤ又ハ「合計九百圓ヲ引渡シ」終リタルトキ詐取シタリヤ分明ナラス要スルニ犯罪成立ノ時期ヲ示サ、ル不法アリト云フニ在レトモ  
○一千圓ノ委託ヲ受ケ其中ノ幾分ヲ數度ニ交付シ合計九百圓ヲ引渡シタルトキ百圓ノ詐取ハ成立シタルコト判文上明白ナレハ論旨ノ如キ違法ナシトス  
第三ハ原判決證據ノ説明ニ

(松久慶助ニ云々先方カ金融悪キ云々ト云ヒシトノ點ト詐取ノ意思及詐取シタリトノ點トテ除クノ外ハ被告カ豫審判事ニ判示ノ旨趣ヲ供述シタル旨被告ノ豫審調書ニ記載シアリ)トアレトモ被告ノ豫審調書ニハ(金一千圓ヲ借受ケタル)旨ノ供述ハ之ナキノミナラス終始九百圓ヨリ借受ケタルコトナキ旨供述セリ然ルニ一千圓ヲ借受ケタルコトヲ自白シタル調書ノ記載アルモノ、如ク説明シ事實ヲ認定シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○本件ハ一千圓ヲ銀治ヨリ借受ケナカラ九百圓受取リタリト詐リテ之ヲ渡シ百圓ヲ詐取シタルモノナレハ若シ一千圓ヲ借受タルコトヲ被告カ自供スルトキハ即チ詐リテ自供シタルモノナル筋合ナリ然ルニ被告ハ九百圓借受タリト主張シ一千圓ノ借受チ自認セサルヲテ原判決ニハ詐取シタル點ハ自認セサル旨ヲ説明シアリテ論旨ノ如ク一千圓ヲ借受タルコトヲ自認シタリトノ判示ニアラサレハ本論旨ハ理由ナシ

第四ハ檢事ノ豫審請求書公判請求書檢事正ノ控訴申立書ハ總テ書類作成ノ場所ノ記載ナシ尤モ氏名ノ上ニ岐阜地方裁判所檢事又ハ檢事正ト記載シアルモ是所屬官署ヲ記シタルモノナリ然ラハ此等ノ書類ハ刑事訴訟法第二十條ニ牴觸スル無効ノモノニシテ隨テ公訴又ハ控訴ナキニ歸シ之ニ對スル原判決ハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○檢事ノ肩書ニ裁判所ノ名ヲ記載シアリテ別ニ作製ノ場所ハ記載ナキ以上ハ作製ノ場所ハ其裁判所ナリト解スヘキハ當然ナルヲ以テ所論ハ文書ハ刑事訴訟法第二十條ニ背戾シタルモノト云フヲ得ス從テ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年五月十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十五年(九)第八三三號  
明治三十五年五月二十日宣告

○判決要旨

一 刑事訴訟法第五十九條ノ被告人ヲ逮捕引致シタル巡查憲兵卒ト其被告人ヲ受取り調書ヲ作ルヘキ司法警察官トハ別人ナルコトヲ要ス

(參照) 巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ(刑事訴訟法)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 谷口新太郎

右賭博被告事件ニ付明治三十五年四月十日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ原院カ警部代理巡查長谷川順治ノ作成シタル逮捕及告發調書ヲ本件斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信ス元來長谷川順治ナルモノカ巡查ニシテ警部代理ヲ爲スモノタルコトハ該調書ニ徴シテ明ナレハ長谷川順治ハ巡查ニアラスシテ司法警察官ノ職ヲ執レルモノト云ハサルヘカ

ス既ニ司法警察官タル以上ハ同人カ賭博ノ現行犯ヲ瞳見シ其被告人ヲ逮捕シタル場合ニハ刑事訴訟法第四百七十七條ノ規定ニ基キ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ逮捕シタル被告人ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘキモノニシテ決シテ刑事訴訟法第五十九條ノ規定ニ準據スヘキモノニアラス蓋シ同一人ニシテ一面ニハ逮捕巡查トシテ告發ヲ爲シ他ノ一面ニハ司法警察官トシテ其告發ヲ受ケテ逮捕及告發ニ付テノ調書ヲ作ルカ如キハ管ニ事理ニ於テ穩當ナ欠キ信認ヲ措ク能ハサルノミナラス抑モ又不必要不適法ノ行爲ト云ハサル可ラサルナリテナリ翻テ刑事訴訟法第五十八條ヲ按ズルニ司法警察官及巡查憲兵卒ニ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ現行犯罪アル場合ニ於テ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スヘキ職責ヲ負ハシメ而シテ巡查憲兵卒カ被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分方法ハ刑事訴訟法第五十九條ニ規定シアルモ司法警察官カ被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分方法ハ該條ニ規定シアラサルコトハ明白ナル所ナリ左レハ此場合ニ於ケル處分方法ハ之ヲ如何ニスヘキモノナリヤ是レ即チ刑事訴訟法第四百七十七條ノ規定アル所以ニシテ該條ニ據リ處分スヘキモノタルヤ論ナキナリ夫レ然リ然ラハ則チ本件ニ於テ司法警察官ノ職務ヲ執行スル巡查長谷川順治カ賭博ノ現行犯ヲ瞳見シ其被告人ヲ逮捕シタル場合ニ際シ刑事訴訟法第四百七十七條ノ規定ニ據ラスシテ強テ同法第五十九條ノ規定ニ準據シ一身ニシテ一面ニハ巡查トシテ逮捕及告發ヲ爲シ一面ニハ司法警察官トシテ之カ調書ヲ作成シタルハ背法ノ行爲ト云ハサルヘカラス既ニ其行爲カ背法タル以上ハ其作成シタル逮捕及告發調書ヲ本件斷罪ノ資料ニ

供セラレタルハ失當ト云ハサルヲ得スト云フニ在リ。○按スルニ刑事訴訟法第五十九條ニハ「巡查憲兵卒、被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス」其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テハ調書ヲ作ルヘシトアリテ被告人ヲ逮捕引致シタル巡查憲兵卒ト其被告人ヲ受取り調書ヲ作ルヘキ司法警察官トハ素ヨリ別人ナルコトヲ要スルヤ論ナキナリ。今本件原判決ノ援用シタル逮捕及ヒ告發書ヲ見ルニ「當署詰巡查長谷川順次ハ本職ノ面前ニ云々左ノ逮捕及ヒ告發ヲ爲セリ云々右讀聞カセタルニ相違ナキ旨申立ルニ付共ニ署名捺印ス。右逮捕巡查長谷川順次警部代理巡查長谷川順次」トアリテ即チ同一人ナル巡查長谷川順次被告人ヲ逮捕及ヒ告發ヲ爲シ同一人ナル警部代理巡查長谷川順次其被告人ヲ受取り調書ヲ作リタルモノニシテ背法ノ措置タルヲ免カレヌ然ルニ原判決カ該告發書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ上告論旨ハ結局其理由アルモノトス。

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス。明治三十五年五月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス。

○酒造税法違犯ノ件

明治三十五年(九)第八三九號  
明治三十五年五月二十日宣告

○判決要旨

一 酒造税法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ナリトス從テ併科スヘキ案件ニ同條ヲ適用セサルトキハ法律ノ明示ヲ欠ク不法アリ

(參照) 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井  
ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス(酒造税法第三十一條)

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 藤村精一 辯護人 中村徳重郎

右酒造税法違犯被告事件ニ付明治三十五年四月十七日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
辯護人中村徳重郎上告趣意擴張書第一點ハ本件ノ如ク刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井スシテ各所爲ニ對シ格別ニ併科スヘキ場合ハ其併科スル法律ノ正條タル酒造税法第三十一條(新舊同シ)「此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ云々(中略)數罪俱發ノ例ヲ用井ス」トノ規定ヲ明示セサル可ラス然ラサレハ何故ニ刑法ノ原則タル吸收主義ニ依ラスシテ特ニ例外タル被告ノ不利益ニ歸スヘキ併科主義ニ依テ各別ニ處斷

セラレタルヤ其理由ヲ知ルニ由ナシ然ルニ原判決ハ上告人ノ所爲ヲ二罪ト認メ其第一所爲ニ對シ罰金二千二百八十七圓六十九錢九厘ヲ科シ第二所爲ニ對シ罰金十圓ヲ科セラレタルモ其併科スヘキ前掲酒造税法第三十一條ノ適用ヲ缺キタルハ法律上ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ酒造税法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ニシテ若シ併科スヘキ案件ニ之レヲ適用セサルトキハ即チ法律ノ明示ヲ欠キタルモノニシテ原院カ本件ニ付キ同條ヲ適用セサルハ辯護士所論ハ如ク不法ノ判決タルヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ付破毀ノ原由アルモノト認ムル上ハ爾餘ノ論旨ニ對シ逐一説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ移付ス

明治三十五年五月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○財産藏匿脱漏ノ件

明治三十五年(九)第六八八號  
明治三十五年五月二十二日宣告

○判決要旨

一文字ノ挿入削除ノ箇所ニハ認印ナキモ其欄外ニ挿入シタル字數並ニ削除シタル字數ヲ記載シ之ニ官印ノ押捺アル以上ハ其挿入削除ハ有效ナリ

第一審 秋田地方裁判所大曲支部 第二審 宮城控訴院

被告人 白石貞治 辯護人 高木益太郎

右國稅滯納者財産藏匿脱漏被告事件ニ付明治三十五年四月一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ自分ハ酒造稅ヲ免脱スルノ意思ヲ以テ財産ヲ藏匿シタルモノニアラス自己ノ債務ニ充當センカ爲メ債權者ニ交付シタルモノナリ然ルニ原院ニ於テ不當ニ事實ヲ確定シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノト信スト云フニ在レトモ○右ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第一ハ原院ハ刑法上絶無ノ刑ヲ科シタリ原院判決原本ヲ見ルニ「重禁一年云々」ト記載シ禁ノ字ト一ノ字トノ横間ニ錮ノ字ヲ挿入シタレトモ相當官吏ノ認印ナク從テ錮ノ

挿入削除ノ認印



字挿入ハ刑事訴訟法第二十一條ニ因リテ何等ノ效力ナク上告人ハ重禁一年ニ處セラレタルモノニシテ之ヲ善意ニ解釋スルモ其重禁錮タルト重禁獄タルトハ知ルヘキ方法ナキノミナラス刑罰法令中絶無ノ刑ヲ言渡シタルハ不法ナリト云ヒ」其第二ハ原院ノ適用セシ法條不明ナリ原院判決原本ヲ見ルニ「國稅徵收法第三十二條ニ該當シ」云々ト記載シ條ノ字ノ横下ニ第一項ノ三字アレトモ是亦相當官吏ノ認印ナキ無効ノ挿入ナリ果シテ然ラハ其第一項ヲ適用シタルモノナリヤ二項ヲ適用シタルモノナリヤチ知ルニ由ナク又第三十二條全體ヲ適用スルノ不法ナルハ論ヲ俟タス是其法律ヲ適用セサルト同一ニ歸着スル不法アルモノナリト云ヒ」其第三ハ原判決ハ其主文ト其理由ト全然背馳スル不法アリ原院判決原本ヲ見ルニ「被告ノ控訴ハ其理由アリトス因テ刑事訴訟法第二百六十一條一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス」ト記載シ其理由ノ文字ノ下ニアル(アリ)ノ二字ニ圈ヲ附シ其傍ラニ(ナシ)ノ二字アリト雖モ是亦相當官吏ノ認印ナク刑事訴訟法第二十一條ニヨリ挿入削除ノ效力ナク從ツテ被告ノ控訴ヲ理由アリト記載セシモノト言ハサルヲ得ス果シテ然ラハ刑事訴訟法第二百六十二條二項ヲ適用セサルヘカテサルニ原院ハ事茲ニ出テス其一項ヲ適用シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ理由ト主文ト全然背馳スル不法アルモノナリト云フニアリ○依テ原判文ヲ閱スルニ其末尾ニ於テ「國稅徵收法第三十二條」トアル部分ニ「第一項」ハ三字ヲ挿入シ「重禁」ハ下ニ「錮」ハ一字ヲ挿入シ「其理由」ハ下ナル「アリ」ハ二字ヲ削除シテ「ナシ」ハ二字ヲ記入シ且ツ其挿入削除ハ箇所ニハ認印ナキコトハ所論ノ如クト雖モ

其欄外ニ於テ右挿入シタル字數並ニ削除シタル字數ヲ記載シ之レニ判事齋藤字一ハ官印ヲ押捺シアルヲ以テ其挿入削除ハ共ニ有效ナルモノト認メサルヲ得ス果シテ然ラハ右上告論旨ノ第一點ニ謂フ所ノ重禁一年ハ重禁錮一年ナルコト其第二點ノ國稅徵收法第三十二條ハ同法第三十二條第一項ナルコト其第三點ノ「其理由アリトス」ハ「其理由ナシトス」ナルコト明白ナルヲ以テ原判文ニハ所論ノ如キ違法ナク上告論旨ハ何レモ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ判決スル左ノ如ク  
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○誹毀ノ件

明治三十五年(己)第六九八號  
明治三十五年五月二十二日宣告

○判決要旨

一 公訴事實中ニ包含セラレタルモノニシテ獨立ノ犯罪ニ非サル以上  
ハ其一部ニシテ罪トナラサルモノニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘ  
キモノニ非ス(判旨第五點)  
一 控訴申立ヲ爲シタル檢事ノ署名カ自署ナルヤ否ヤノ如キハ上告審  
ニ於テ訴訟記録外ノ新ナル證據ニ依リ之ヲ調査スヘキモノニ非ス  
(判旨第七點)

第一審 横浜地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人

ビービー、クラーク

辯護人

佐藤博愛

右誹毀事件ノ控訴ニ付明治三十五年三月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上  
告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ハ原院カ誹毀罪構成ノ事實ト認メタル「ダウンライト、スインドラ」ナル語ハ「ヒドイ  
ゴマナリ」トモ譯スヘキ意味ニシテ一場ノ惡口タルニ止マリ決シテ惡事ノ摘發ニアラス然ルニ原院カ  
此惡口ヲ爲シタル事實ニ依リ誹毀罪ヲ構成スルモノト爲シタルハ法律ニ違背シタル裁判ナリト思料ス

其他公訴不受理ノ申立ヲ不當ニ却下シ又必要ナル證據方法ヲ却下シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ何レモ法  
律ニ違背シタルモノナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ紅葉旅館株式  
會社内ニ公開セル同會社臨時株主總會ノ席上ニ於テ米國人シエー、エツチ、レンジャヤーニ對シ英語ニテ  
「ダウンライト、スウ井ンドラー」即チ疑ナキ詐欺漢ナリト呼ビ尙ホ同人ハ種々ノ手段ヲ以テ會社ヲ詐  
欺シ何人モ之ヲ發見シ得サル程巧妙ナル手段ヲ用ヒタリ吾人ハ只坐視スルノミコテ其詐欺漢ヲ捕ヘ得  
サルモノナリトノ意味ノ演說ヲ爲シ以テシエー、エツチ、レンジャヤーヲ誹毀シタルモノナリト云フニ在  
リテ右ハシエー、エツチ、レンジャヤーヲ誹毀スヘキ一ノ意思ヲ以テ或ハ同人ヲ「ダウンライト、スウ井ン  
ドラー」ト呼ビ或ハ尙ホ同人ハ種々ノ手段ヲ以テ會社ヲ詐欺シ云々トノ意味ノ演說ヲ爲シ同人ノ惡事  
ヲ摘發シテ之ヲ誹毀シタルモノニシテ其誹毀罪ヲ構成スルハ勿論ナルノミナラス證據調ノ程度ヲ定メ  
且ツ證據ニ依リ事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ被告ノ申立タル證據方法ヲ採用セ  
ス他ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタルハ違法ニアラス其他原院カ公訴不受理ノ申立ヲ不當ニ却下シタリ  
トノ點ニ付テハ其不當ナル所以ヲ指示セサルヲ以テ之レカ說明ヲ與フルニ由ナシ  
辯護人佐藤博愛上告擴張書ノ要旨第一點ハ告訴狀ノ要旨ハ「右被告人ハ右臨時總會ノ座長トシテ英語  
ヲ以テ告訴人ハ「ダウンライト、スウ井ンドラー」ナリト云ヒ且右株主會社ヲ被告人其他ノ人々ノ爲メ告  
訴人カ株式會社ニ組織シ之カ資本ヲ募集スルニ付詐欺不正ナル處分アリタル者ナルコトヲ意味スルノ

演説ヲ爲シタリ」ト謂ヒ「誹毀罪ヲ組成スルニハ事實ノ有無ヲ問フノ要ナシ只摘發シタル事實ニシテ惡事醜行ナレハ足レル者ナリト思考候處被告人ハ漫ニ告訴人ヲ以テ詐欺奴ナリト云ヒタルハ即チ法律ノ罰スル行爲ノ名ヲ以テ稱スルモノナルカ故人ノ惡事醜行ヲ摘發シタル者ト云フノ外ナキナリ右被告人ノ漫ニ人ヲ稱スルニ惡事醜行アリタル者ト世人ニ疑ハルヘキ言語名詞ヲ以テシタルハ刑法ノ許スヘキ所ニアラス」ト謂ノ點ニ在リ其他ハ信用ノ重スヘキコト新聞ノ效力アルコトヲ誇張シタルニ過キス故ニ告訴ノ事實ハ「ダウンライト、スフィンドライ」ト呼ビタルコト而シテ其語ハ法律ノ罰スル行爲ノ名ナルコト從テ惡事醜行ノ摘發ナルコト又其語ハ惡事醜行アリタル者ト世人ニ疑ハルヘキ言語名詞ナルコト且ツ株式會社組織資本募集ニ就テ爲シタル詐欺的行爲ヲ意味シタルモノナリト爲スニアルヤ明白疑ナシ然ルニ一審ノ檢事カ公廷ニ於テ陳述シタル公訴事實ハ同會社株主ノ一人ニシテ會テ同會社取締役ヲ勤メ目下上海在住米國人「ジエー、エツチ、レンヂヤ」ニ對シ英語ニテ「ダウンライト、スフィンドライ」即明カナル詐欺者ナリト呼ビ尙引續キ同人ハ該會社ニ屬スル風車ポンプ等ヲ賣却セル代金ヲ會社ニハ一錢モ支拂ハスト云ヒ「尙又會社ハ「レンヂヤ」トノ爲ニ「右左リ」ニ詐欺セラレ何人モ之ヲ發見シ得サル程巧妙ニ爲サレ吾人ハ只坐視スルノミ其詐欺ヲ押ヘ得サル者ナリト謂フニ在リ控訴審檢事モ亦之ヲ以テ公訴ノ事實ト爲シタリ右公訴事實中「ダウンライト、スフィンドライ」ト呼ビタル點ヲ除キ其他ノ事實中風車ポンプ等ニ付テハ告訴人カ取締役中之ヲ賣却シ一錢ヲモ支拂ハストハ證據品

ヘラルド新聞記事中株主「マンロー」カ風車ポンプ等ヲ賣却ノ事實ヲ語り被告人ハ其代金ハ一錢モ會社ニ受取リアラサル旨ヲ述ヘタル一節ニ係リ被告ハ後任取締役トシテ計算ニ關スル報告ヲ爲シタルニ止マリ告訴人カ之レヲ竊取若シハ不正ニ費消シタリト言ヒタルニアラサルヲ以テ誹毀ノ事實タルヘキ者ニアラス又會社カ右ヨリモ左ヨリモ詐欺セラレ來リタルノ一句ハ會社ハ諸方ヨリ詐欺サレ來リタルコトヲ言ヒタル者ニシテ毫モ告訴人ニ關係ナキ言語ナリ故ニ告訴狀中自己ノ指シタル惡事醜行ナリトシテ列舉セサリシ者ナリ加之此二事タル會社組織資本募集ノ際ニ起リタル事ニアラス即告訴以外ノ事實ナリ一審起訴狀ニハ公訴ノ事實ハ告訴狀記載ノ事實ナリト明言シタルニ係ラス公訴ノ進行中告訴以外ノ事實ナル風車ポンプニ關スルコト及會社カ演説ノ當時迄諸方ヨリ詐欺セラレ來リタリトノ點(之レハ現在體ナルヲ以テ演説ノ當時迄ニ亘ル者ナリ從テ會社組織資本募集ニ關セリト云フヲ得ス)ヲ審理セラレタルヲ以テ辯護人ハ公訴不受理ノ申立ヲ爲シ且ツ會社設立ニ關スル不正行爲ハ別ニ存在スルコトノ證據方法ヲ申出テタルニ係ラス原院ハ之ヲ却下シナカラ告訴狀中ニ右株式會社ヲ被告人其他ノ人々ノ爲ニ告訴人カ株式會社ニ組織シ之カ資本ヲ募集スルコト付キ詐欺不正ナル所業アリタル者ナルコトヲ意味スルノ演説ヲ爲シタリトノ記載アレトモ告訴ノ主趣タルヤ「レンヂヤ」カ會社ニ對シ詐欺不正ノ所業アリタリトノ意味ノ演説ヲ爲シタル點ニ在ルコトハ告訴狀添附ノ告訴第一號證末尾ニ前記演説ノ記事ヲ掲ケ以テ之レカ立證ニ供シアルニ徴シテ明白ナリト説明シ公訴不受理ノ申立ヲ却下セリ

凡ソ親告罪ハ親告セラレタル特別ノ所爲ニ就テノミ公訴ヲ提起シ得ヘキ者ナルコト論ヲ待タズ會社組織資本募集ノ際ノ惡事醜行ヲ摘發シタリトノ告訴ニ據リ會社ノ組織資本募集ニ關係セサル他ノ惡事醜行ノ摘發ニ對シテ親告アリト爲スヲ得ス是不法ノ一也凡ソ解釋ナル者ハ言語文字ノ明白ナル意義ヲ變更スルカ爲メニ使用スルヲ得ス解釋ノ必要ナクハ解釋スルヲ得ストハ解釋學ノ原則ニシテ自然ノ條理タリ告訴狀中ニ「右株式會社ヲ被告人其他ノ人々ノ爲メ告訴人カ株式會社ニ組織シ之レカ資本ヲ募集スルニ付キ詐欺不正ノ所業アリ」トノ文詞ハ其意義明々瞭々何等ノ疑惑アルコト無シ之ヲ解釋シテ會社ノ組織資本募集ニ關係ナキ他ノ會社ニ對スル不正ノ所業ヲ指ス者ナリト解釋スルハ解釋ノ法則ヲ無視スル者ニシテ解釋ニアラスシテ顛倒ナリ此ノ如キ解釋ヲ許サンカ誹毀ノ親告ハ姦通ノ親告ナリト解釋セラレ竊盜ノ公訴ハ詐欺取財ノ公訴ナリト解釋セラル、ニ至ラントス是レ不法ノ二也原判決カ解釋ノ資料ニ供シタル告訴狀添付ノ告訴第一號ナル者ハヘラルド新聞ノ翻譯ニシテ告訴狀「ダウンライト、スギンドラー」ニ云々ノ記事ヲ證明スルカ爲メ其前後ヲモ翻譯シタルニ過キサレノミナラス此告訴第一號ハ事實上被告人ニ讀ミ聞カセラレザリシ者ニシテ又讀聞カスヘキ必要ナカリシ者ナリ何トナレハ直ニ「ヘラルド」新聞自身ヲ示シ訊問セラレタレハナリ而シテ公判始末書ニハ朗讀ヲ經タル書類中「ゼー、エツナ、レンヂヤ」ノ告訴狀竝ニ附屬書類トアルモ書類ノ二字欄外ニ記入セラレ而シテ認印ヲ欠ケリ是レ刑事訴訟法第二十一條ニ從ヒ無効ノ文書ナリ即チ被告ニ示サ、ル證據ヲ援キ斷罪ノ資ニ

供シタル者ニシテ是不法ノ三也要スルニ公訴不受理ノ申立チ不法ニ却下セラレタルモノナリト云フニ在リ○因テ按スルニ告訴狀ニハ「且右株式會社ヲ被告人其他ノ人々ノ爲メ告訴人カ株式會社ニ組織シ之レカ資本ヲ募集スルニ付詐欺不正ナル所業アリタルモノナルコトヲ意味スルノ演說ヲナシタリ」ト掲ケ檢事ノ論告ニ付テハ原院公判始末書ニ檢事ハ原判決記載ノ通り事實ノ陳述ヲ爲シタリトアルヲ以テ第一審判決ヲ查スルニ同判決ニハ「尙引續キ同人ハ該會社ニ屬スル風車ポンプ等ヲ賣却セル代金ヲ會社ニハ一錢モ支拂ハスト云ヒ尙又會社ハレンヂヤノ爲メニ右キ左リニ詐欺サレ何人モ之ヲ發見シ得サル程巧妙ニ爲サレ吾人ハ只坐視スルノミ其詐欺者ヲ押ヘ得サルモノナリトノ旨ヲ陳述シ云々」トアリテ檢事ノ論旨ト告訴狀記載ノ文辭トハ相符合セサルヲ以テ檢事ノ論告ハ告訴事實ノ範圍外ニ逸出シタルノ觀ナキニアラスト雖モ告訴狀添付ノ告訴第一號證ノ末尾ニ會社ハレンヂヤノ爲メ右キ左リニ詐欺サレ何人モ之ヲ發見シ得サル程巧妙ニ爲サレ吾人ハ只坐視スルノミ其詐欺者ヲ押ヘ得サルモノナリトノ旨ヲ陳述シ云々トノ記事ヲ掲ケ之レヲ立證ノ用ニ供シタルヲ以テ見ルモ告訴狀ノ趣旨ハレンヂヤノ旨ト對シ詐欺不正ノ所業アリタリトノ意味ノ演述ヲ爲シタルコトヲ親告スルニ在リテ其枝葉ノ點ニ至リテハ檢事ノ論告ト相異スル所ナキニアラサルモ其重要ノ點ニ於テハ全ク同一ノ趣旨ニ歸着スルヲ以テ原院カ檢事ノ論告ヲ告訴ノ事實中ニ在ルモノトシテ公訴不受理ノ申立チ却下シタルハ不法ニアラサルノミナラス前示ノ如ク告訴狀ノ記事カ檢事ノ論告及ヒ告訴狀添付ノ書類ト其文辭上相符

合セテ其文意ニ疑ヒアル場合ニ於テハ之ヲ解釋シテ其趣旨ヲ定ムルハ固ヨリ當然ノコトナルヲ以テ原院カ告訴狀ヲ解釋シテ其趣旨ヲ定メタルハ不法ニアラス又原院公判始末書中「此時左ノ書類ヲ朗讀シタリゼー、エツチ、レンジャーノ告訴狀」トアル下ニ挿入セル「竝ニ附屬ノ書類」ノ七字ニハ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ從ヒ書記ノ捺印ヲ施シアルヲ以テ末段ノ論旨ハ其謂ハレナシ

第二點ハ原院判決ハ明治三十四年六月二十五日刊行ノヘラルド新聞ヲ援キ其紅葉旅館株式會社ト題スル記事ヲ斷罪ノ證ト爲セリ該新聞紙ニ依ルニ當時總會ノ議長タリシ被告ハ諸君ニ報導スヘキコトアリトテ已ニ記述シタル相殺云々報告ヲ爲スニ當リ偶然告訴人ヲ呼フニ「ダウンライト、スギンドラー」ノ語ヲ以テセリ此語ハ正銘ノ「ゴマスリ」トモ意譯スヘキ惡口ニシテ毫モ惡事醜行ノ摘發タルヘキニアラス其後マンロー、グラン其他諸人等種々ノ雜談ヲ爲シ居リタル後議長タリシ被告ハ再ヒ發言シテ會社ハ右ヨリモ左ヨリモ詐欺セラレタリ云々ノ陳述ヲ爲シタリ其種々ノ方面ヨリ詐欺セラレタリト云ヒ又詐欺者ノ何人タリシヤヲ發見（「ツカマイル」ノ邦語及「ホールド」ナル英語ハ共ニ發見ノ意義アリ此場合ニ用キラレタル「ホールド」ハ是也）シ得スト言ヒタルニテモ告訴人ヲ指シタルニアラサルコト明ナルノミナラス此「ダウンライト、スギンドラー」ニ係ル一段ト右ヨリ左ヨリノ一段ハ連續シタル談話ニアラス中間數多ノ時間、數多ノ話題、數多ノ談話者ヲ介在セリ然ルニ原院判決ハ「ダウンライト、スギンドラー」ナリト呼ビ尙又同人ハ種々ノ手段ヲ以テ會社ヲ詐欺シ云々ノ意味ノ演說ヲ爲シタリト

云ヒ連續セル一場ノ演說ノ如ク斷定シタリ此ノ如ク數時ノ所爲カ貫聯シテ一個ノ犯罪ヲ構成スルニハ犯罪意思ノ連續シタル場合ナラサルヘカラス然ルニ原院カ果シテ意思ノ連續シタル者アリヤ否ヤヲ說明セシテ漫然一所爲ト認定セシハ理由不備ノ裁判ナリトス是不法ノ一也前記新聞紙ニ依レハ被告ハ告訴人ヲ呼フニ「ダウンライト、スギンドラー」ナル代名詞ヲ用キタル者ニシテ彼ノ「ダウンライト、スギンドラー」ニ對スル唯一ノツカマイ所ナリト陳述シタルコト明ナリ然ルニ原院判決ハ被告カ告訴人ニ對シ「ダウンライト、スギンドラー」ナリト呼ビタリト認メタルハ證據ニ基カサル事實ノ認定ナリトス人ヲ指シテ「彼ハ盜賊ナリ」ト説明スルト「彼ノ盜賊ニ對シテ斯ル報復アリ」ト云フカ如ク單ニ惡言ヲ加フルトハ決シテ同意義ニアラス前者ハ往々誹毀タルコトアルヘキモ後者ハ斷シテ誹毀タルコトヲ得サレハナリ是不法ノ二也ト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ「エツチ、レンジャー」ヲ誹毀スヘキ一ノ意思ヲ以テ或ハ同人ヲ「ダウンライト、スギンドラー」ト呼ビ或ハ尙ホ同人ハ種々ノ手段ヲ以テ會社ヲ詐欺シ云々トノ意味ノ演說ヲ爲シ同人ノ惡事ヲ摘發シテ以テ之ヲ誹毀シタルモノニシテ其誹毀罪ヲ構成スルハ論ヲ竣タサルノミナラス其所爲タルヤ固ヨリ一個ニシテ時ヲ異ニシタル數個ノ所爲ニハアラサルヲ以テ原院カ意思ノ連續シタルヤ否ヤノ說明ヲ爲サ、ルモ理由不備ノ裁判ナリト云フヲ得ス又證據ノ趣旨ヲ判斷シテ事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院ハ前記ヘラルド新聞紙ノ記事及ヒ被告ノ檢事廷ノ聽取書ニ於ケル陳述ノ趣旨ヲ判斷シテ之ヲ證據ト爲シ以

テ被告カ告訴人ニ對シ「ダウンライト、スフィンドラー」ナリト呼ヒタリトノ事實ヲ認定シタルモノニシテ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタルモノニハアラス畢竟本論旨ハ原院ト事實ノ認定及ヒ證據ノ判斷ヲ異ニシ原判決ヲ攻撃スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第三點ハ「是ダウンライト、スフィンドラーニ對スル唯一ノツカマイ所ナリ」ト呼ヒタル所謂「ダウンライト、スフィンドラー」ハ惡言、罵詈雑言タルニ過キス又被告カ此相殺ニ關スル報告ヲ爲ス際ニ當リ風車ボンブニ關スル報告、會社ハ右ヨリモ左ヨリモ詐欺セラレタリトノ報告ヲ爲サント企圖シタル者ニアラサルヲ以テ毫モ惡事醜行ノ摘發タルヲ得サル者ナルヲ以テ「ダウンライト、スフィンドラー」云々ノ一段ハ誹毀罪構成ノ事實タルヲ得ス」然ルニ原院ハ之ヲ以テ誹毀罪ナリト認メタルハ刑法ノ所謂惡事醜行ノ摘發ト惡言罵詈ト同一視シタル者ニシテ擬律ノ錯誤ニ陥リタル者ナリ是不法ノ一也此一段タルヤ告訴代理人増島六一郎ノ要求ニ從ヒ被告カ新聞紙上ニ於テ取消ヲ爲シタルコトハ原院ノ認ムル所ナリ從テ此一段カ假リニ惡事醜行ノ摘發タリトスルモ告訴權ノ拋棄ニ基キ公訴不受理ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ辯護人ノ申立タル公訴不受理ノ申立ヲ却下シタルハ是不法ノ二也ト云フニ在レトモ○被告カ新聞紙上ニ其取消ヲ爲シタル事實アリトスルモノヲ以テ告訴人カ其告訴權ヲ拋棄シタルモノナリトハ云フヲ得サルヲ以テ原院カ告訴權ハ消滅セサルモノトシテ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタルハ不法ニアラス又前段ノ論旨ノ理由ナキコトハ第二點ノ論旨ニ對スル説明ニ依リ了解ス可シ

判旨第五點

第四點ハ「ダウンライト、スフィンドラー」云々ノ一段ト風車ボンブニ關スル一段ト會社ハ右ヨリ左ヨリ詐欺セラレタリトノ一段ハ異ナリタル話題、異ナリタル時間ノ陳述ニシテ三個ノ所爲ナリ風車ボンブニ關スル一段ノ如キハ「マンロー」ノ談話ニ附隨シテ被告ハ其賣却代金ノ壹錢モ計算セサルコトヲ陳述シタル者ニ過キス而シテ何レモ公訴事實ノ一ニシテ又公訴不受理ノ申立ヲ爲シタル一部ナリ然ルニ風車ボンブ等ニ關スル點ニ就テハ一言ノ判斷ヲ與ヘス此一段カ罪ヲ構成セスノハ無罪ノ言渡ナカルヘカラス親告外ノ事實ナラハ公訴不受理ノ言渡無カルヘカラス是請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ルノ不法ニ陥リタルモノトスト云フニ在レトモ○獨立シタル親告罪ニシテ其告訴ナク又ハ其所爲罪トナラサル場合ニ於テハ無罪若クハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラスト雖モ本件風車ボンブ等ニ關スル事項ノ如キハ元ト告訴人カ會社ニ對シ詐欺不正ノ所業アリタリトノ意味ハ演述中ノ一節ナリトシテ檢事ハ之レヲ論告シタルモノニシテ其告訴ノ事實中ニ包含セラレタルモノナルコトハ勿論ナレハ原院カ此點ニ對シ公訴不受理ノ判決ヲ爲サ、ルハ相當ナルハミナラス右ハ本件公訴事實ノ一部ニシテ獨立シタル犯罪ニハアラサルヲ以テ已ニ本件ニシテ一ノ誹毀罪ヲ構成スル以上ハ其一部カ誹毀トナラサルモノ之レニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニアラサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第五點ハ告訴人ハ上海ニ奔リ米國領事裁判ノ保護ノ下ニ在リシ者ナリ米國ノ法律ニ於テハ他ノ惡事醜行ヲ摘發スルモ其事實ノ眞實ニシテ職務上德義上斯ク爲スコトヲ相當トスル場合ニハ法律ニ於テ惡意

ヲ推定スヘカテサルコトヲ命スルヲ以テ犯罪ヲ構成セス一方ヨリ見レハ斯ル場合ニハ誹毀ヲ受ケタル者ノ名譽ハ之ヲ保護セサルナリ告訴人ニ不正ノ行爲アリシコトハ辯護人ヨリ證明方法ヲ申立タルニ原院ハ之レヲ却下セラレタルヲ以テ其事實ハ存在スル者ト認メサルヘカラス從テ告訴人ノ名譽ハ其本國ノ法律ニ於テ保護セサル所ニシテ誹毀罪ノ物體タルコトヲ得ス即犯罪物體ノ不能ニ基ク不能犯ナリトス然ルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ不法アル者也ト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ本件ハ被告カ神奈川縣橫濱市山手町八十五番地紅葉旅館株式會社内ナル公開ノ席上ニ於テ米國人シエー、エツチ、レンシヤールヲ誹毀シタルモノナレハシエー、エツチ、レンシヤールハ則チ我刑法ニ所謂被害者ナルヲ以テ同人カ我カ法律ノ規定ニ從ヒ告訴ヲ爲スノ權アルハ勿論ナリトス故ニ所論ノ如ク縱令ヒ同人ノ本國タル米國ノ法律ニ從ヒハ斯ル場合ニ於テハ告訴人ヲ保護セサルモノナリトスルモ之レカ爲メ我カ刑法ノ適用ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキ謂ハレナキヲ以テ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス

第六點ハ本件控訴申立書中申立人タル橫濱地方裁判所檢事正小林芳郎ノ署名ハ其自署ニアラス此事實ハ上告審ニ於テモ尙之レヲ證明スルヲ得ヘシト信スルヲ以テ同檢事正又ハ同檢事局書記森井光陰ヲ證人トシテ檢事正ノ自署ナリヤ否ヤヲ訊問セラレシコトヲ申立ツヘシ其自署ニアラサルコトノ證明ヲ得ルコト必然ニシテ從テ刑事訴訟法第二十條第一項ニ違背シタル無効ノ控訴申立書タルニ歸着スヘシト

云フニ在レトモ○控訴申立人ノ署名カ自署ナルヤ否ヤノ如キハ上告審ニ於テ訴訟記録外ノ新ナル證據ニ依リ之ヲ調査スヘキモノニアラサルヲ以テ右證人訊問ニ關スル論旨ハ之ヲ採用スルニ由ナシ而シテ訴訟記録ヲ閱スルニ本件控訴申立書ニ於ケル申立人タル橫濱地方裁判所檢事正小林芳郎ノ署名カ同人ハ自署ニアラサルコトヲ認ムヘキ事跡ナク從テ右ハ同人ハ自署ト認ムルハ外ナキヲ以テ後段ノ論旨ハ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年五月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十五年(レ)第七(レ)三號  
明治三十五年五月二十二日宣告

○判決要旨

一 警察官ニ賭博ノ現行犯ヲ認知逮捕セラレタル以上ハ其認知逮捕シタル者ノ巡查ナルト警部ナルトハ賭博罪ノ構成ニ影響ヲ及ホサス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 西尾友吉

右賭博被告事件ニ付明治三十五年三月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ第一原判決書ヲ見ルニ被告ハ博奕ノ手合中現場ヲ巡查ニ認メラレタル旨記載シアルモ訴訟書類ノ全部ヲ閱スルニ巡查ニ認メラレタル形跡アルヲ見ス然ルニ巡查ニ認メラレ云々ト判決サレタルハ所謂無據ノ認定ニシテ不法アルヲ免レヌト云ヒ」第二證人栗原平太郎ハ警部ニシテ巡查ニアラス然ルニ巡查ニ認メラレ云々ト前段ニ記載シテ後段ニ栗原平太郎カ原審廷ニ於テ判示ト同趣旨ノ供述ヲ爲シタルニヨリ云々ト判示サレタルハ前後理由ノ齟齬スルモノナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ原判決ノ事實ハ證人栗原平太郎ノ第一審廷ニ於ケル證言ニ依リ認定シアルヨリ第一審公判始末書ヲ查スルニ右證人ハ警部ニシテ巡查ニアラス而シテ同人カ賭博ノ現行犯ヲ認知逮捕シタルモノナレハ原判決ニ

巡查ニ認知セラレタルモノ、如ク判示シタルハ穩當ナラスト雖モ既ニ警察官ニ賭博ノ現行犯ヲ認知逮捕セラレタル以上ハ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニシテ其認知逮捕シタル者カ巡查ナルト警部ナルトハ本件犯罪ノ構成ニ影響ナキヲ以テ右ノ瑕瑾ハ原判決ヲ破毀スルノ原由トスルニ足ラス

第三第一審判決書ニハ包紙ト記載シアリ第二審ノ判決ニハ之ヲ變更シテ包紙トセラレタリ包紙ナルモノハ元來犯罪ノ用ニ供シタル物件ニアラサルヲ以テ斯ルモノヲ沒收スルハ其不當ナルコト論ヲ竣タザレトモ今ヤ原院ハ第一審ニ於テ包紙トセラレタルモノヲ包紙ト變更シテ其理由ヲ明示サレサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第二審ノ判決ニハ「原判決ハ賭具ニアラサル風呂敷眞田紐等ヲ沒收シタル失當アルヲ以テ云々」ト判示シアリテ其眞田紐等トアルハ包紙ヲモ指稱スルモノニシテ即チ包紙ヲ沒收シタルヲ失當ナリトスル旨ヲ掲擧シアレハ本論旨ハ謂ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十五年五月二十二日於大審院第二刑事部公延檢事奥宮正治立會宣告ス



○官吏侮辱恐喝取財未遂及誹毀ノ件

明治三十五年(乙)第七五一號  
明治三十五年五月二十三日宣告

○判決要旨

一被告事件ニ關シ又ハ其事件ニ牽聯シタル被告事件ニ關シ作成セラレタル文書ハ凡テ證憑書類ナリ犯罪證明ノ具トシテ押收セラレ若クハ領置セラレタルモノハ文書タルト物品タルトナ問ハス凡テ證憑物件ナリ而シテ證憑物件ハ其文書タル場合ト雖モ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムルノ外朗讀ノ要ナキモノトス

第一審 山口地方裁判所

第二審 廣島控訴院

被告人 得富太郎

辯護人 〔江木 高木益太郎〕

右官吏侮辱恐喝取財未遂及ヒ誹毀被告事件ニ付明治三十五年三月二十九日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ第一ハ上告申立人カ山口縣都濃郡徳山町株式會社周陽銀行監査役河野清一ヲ經テ同銀行ノ頭取矢島作郎ヲ恐喝シ名ヲ新聞廣告料ニ藉リ金錢ヲ騙取セントシ之レヲ遂ケサルモノト原院ニ於テ判決セラレタルモ上告申立人ニ於テハ決シテ右等ノ行爲ヲ犯シタルモノニ非ス然ルニ罪アリトセラレタ

ルハ不當ナリト云ヒ」其第二ハ原院カ警部篠原總一ヲ侮辱シタリトシ有罪ノ判決ヲ爲シタルモ上告申立人ハ彼レヲ侮辱スルノ意思ナシ尙ホ篠原警部ハ保安課長ヲ去リタル後チナレハ犯罪ヲ構成セサルモノトス故ニ原判決ハ不當ナリト云フニ在レトモ○第一及ヒ第二ノ前段ハ原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ論難スルモノナレハ上告ノ理由トナラス其後段ハ保安課長タリシトキノ事實ヲ掲ケ當時警察署長タル篠原總一ニ對シ侮辱シタル上ハ其事實ト侮辱トノ間ニ同人ノ轉職アリシトテ之ヲ以テ犯罪ヲ構成セサルモノト云フヲ得ス

辯護人江木衷擴張書ノ第一點原院ハ被告ハ株式會社周陽銀行ノ監査役河野清一ヲ經テ同銀行ノ頭取矢島作郎ヲ恐喝シテ金錢ヲ騙取セントシ企テタルモノトセラレタレトモ被告ハ果シテ何人ヨリ之ヲ騙取セントシタルカ銀行ヨリ騙取セントシタルカ果タ一個人タル清一ヨリ騙取セントシタルカ原判決ハ此點ニ於テ何等事實ヲ明示セス從ツテ其證據ヲ示サス恐喝セラル、所ノ人ト金錢ヲ騙取セラル、人トハ必スシモ同一ナラサルヲ以テ原判決ハ此點ニ於テ判決ニ必要ナル事實及ヒ證據ヲ明示セサルノ不法アリト云フニ在レトモ○銀行頭取矢島作郎ヲ恐喝シ同人ヨリ金員ヲ騙取セントシタルノ事實ハ載セテ原判文ニ明カナル所ニシテ其事實ニ對シテ特ニ領置品第二號ノ手東ヲ罪證ニ供シアレハ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ」其第二點ハ原判決ハ被告ハ名ヲ新聞廣告料ニ籍リ金錢ヲ騙取セントシタルモノト認定セラレタレトモ所謂名ヲ廣告料ニ籍ルトハ始メヨリ新聞紙上ニ廣告ヲ登載スルノ意ナキニ之ヲ廣告

スト詐リテ其金額ヲ騙取スルノ義ナルヘシ然ルニ原判決ハ被告カ始ヨリ廣告ヲ登載スルノ意ナカリシ  
 コトニ付テハ何等ノ證據ヲ示サ、ルハ重要ナル證據ノ明示ヲ欠クノ不法アルヲ免レスト云フニ在レト  
 モ○名ヲ新聞廣告料ニ籍リ云々トアルハ原判文列記ノ各證據ヲ綜合シテ之レカ事實ヲ推認シタルモノ  
 ナレハ特ニ之レニ對スル證據ヲ明示セサルヲ以テ不法ト云フヲ得ス』其第三點ハ原判決ハ騙取ノ手段  
 ニ付キ前後抵觸ナル事實ヲ認メタリ前已ニ述ヘタルカ如ク原判決ハ被告ハ廣告ヲ登載スルノ意ナキニ  
 名ヲ廣告ニ籍リテ金錢ヲ騙取セントセシモノト明言シ乍ラ又周陽銀行ニ對シテハ同銀行内部ノ不始末  
 ヲ暴露シ大ニ筆誅ヲ爲スヘキ筈ナリト恐喝シテ金錢ヲ騙取セントセルモノトセリ是レ判決理由ノ不備  
 ノ甚ダシキモノニシテ前後齟齬セル事實ヲ認メタルノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○同銀行内部ノ  
 不始末ヲ暴露シ大ニ筆誅ヲ爲スヘキ筈云々ノ申掛ケハ即チ被害者ヨリ廣告料ノ名ノ下ニ出金セシメン  
 トスルニ至ラシムルノ第一着手ニシテ是ヨリ漸次歩ヲ進メ遂ニ金員騙取ノ目的ニ達セントスルニ至リ  
 タルモノナレハ其騙取ノ手段ニ於テ毫モ前後ノ抵觸アルヲ見ス』其第四點ハ原判決ハ被告ヲ騙取ノ未  
 遂トシ他ノ新聞即チ防長馬關兩新紙ニ於テ其犯行ヲ暴露セラレタルヲ以テ未遂ノ原因即チ意外ノ障礙  
 トセラレダレトモ被告ハ未ダ之レカ爲メニ刑事ノ訴追ヲ受ケタルニアラス唯タ他ノ新聞ニ其犯行ヲ暴  
 露セラレ之レカ爲メニ金錢ヲ騙取スルニ至ラザリシハ被告カ被告ノ意思ヲ以テ之ヲ中止セルニ外ナラ  
 ス原院カ之ヲ以テ意外ノ障礙トセラレタルハ法律ヲ誤解セルノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○他新

聞紙ニ自己ノ犯行ヲ暴露セラレ爲メニ金員騙取ノ目的ヲ達シ得ラレサルハ未遂ノ原因即チ意外ノ障礙  
 タルハ言ヲ俟タサルナリ而シテ原判文中被告ハ自己ノ意思ヲ以テ金員騙取ノ所爲ヲ中止スルニ至リタ  
 リトノ事實ヲ認メアルコトナケレハ本件ノ未遂ヲ中止犯ナリトノ論争ハ謂ハレナシ』其第五ハ原院ハ  
 被告ハ周陽銀行ノ内部ノ不始末ヲ暴露シ其信用ヲ害セントセルヲ以テ之ヲ一ノ恐喝トスレトモ所謂恐  
 喝ナルモノハ人ノ生命身體自由財產及名譽ニ對シ損害ヲ加ヘントスルノ行爲ニシテ信用ニ對スル恐喝  
 ナルモノアルヘカラス信用ト名譽ト之ヲ同視スヘカラサルハ茲ニ喋々ノ辯ヲ待タサルノ定論タリ原判  
 決ハ此點ニ於テ法律ノ適用ヲ誤解セリト云フニ在レトモ○恐喝取財トハ或ル手段ヲ以テ人ヲ畏怖セシ  
 メ財物ヲ騙取スルノ犯罪ナレハ其恐喝ニシテ苟モ人ヲ畏怖セシムルニ足ルヘキモノナル上ハ其手段方  
 法ノ何タルヲ問フノ要ナシ故ニ本件事實ハ所論ノ如ク信用ニ對スル恐喝ナリトスルモ法律ノ適用上毫  
 モ瑕疵アルヲ見ス』其第六點ハ原判決ニ云フ「清一ハ益憂慮ノ念ヲ増シ大ニ之ヲ恐レ矢鳥作郎ニ告ケタ  
 ルニ同人モ亦之ヲ恐レテ周陽銀行ノ重役會議ヲ開キテ協議シタルニ該會議ニ於テハ被告ノ申込ニ應セ  
 サルコトノ決議ヲ爲シタルモ作郎ハ尙同銀行ノ爲メ憂慮ニ堪ヘス廣告料トシテ多少ノ金錢ヲ被告ニ交  
 渉セシメタル折柄云々」ト此判決理由ヲ推讀スレハ被害者ハ周陽銀行ノ如クナルモ周陽銀行ノ其重役  
 會議ノ決議ノ如ク毫モ恐怖ノ念ヲ生セス又欺罔錯誤ヲモ生シタルコトナケレハ同銀行ニ對シテハ恐喝  
 取財ノ犯罪ヲ構成スルコトナカルヘク又右判文ノ後段ノ如ク作郎カ被害者ニシテ作郎ノミ獨リ恐怖ノ

念ヲ生シタリトスルモ多少ノ金錢ヲ被告ニ交付セントノ交渉ハ全ク作郎ヨリ清一ヲシテ被告ニ申込マシメタルモノニシテ毫モ被告ヨリ之ヲ申込タルモノニアラス故ニ此點ニ於テハ原院ハ銀行ヲ被害者トスレハ何等ノ犯罪ヲ構成セサル行爲ヲ有罪トシ作郎ヲ被害者トスレハ何等ノ金錢ヲモ要求セサル被告ニ對シテ金錢騙取シタルモノトスルノ不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○本件ノ被害者ハ周陽銀行ノ代表者タル頭取矢鳥作郎タリシコトハ第一點ニ說明スル如クナルノミナラス恐喝取財ノ未遂犯ハ被恐喝者ノ畏怖セシト否トニ依リ犯罪ノ消長ヲ來スヘキモノニアラス苟モ恐喝取財ノ實行ニ着手セシ上ハ即チ該犯罪ノ成立スヘキモノトス故ニ本件周陽銀行ニ於テ會議ノ上被告ノ申込ニ應セサルコトノ決議ヲ爲シタリトテ犯罪ノ構成上何等ノ影響アルコトナシ後段ノ論旨ニ付原判文ヲ查スルニ「先社員ノ協議ヲ覆ヘスノ手段トシテ云々一今年間料金五百五十圓ヲ拂込ムヘシ若シ之ヲ願ミス打捨テ置キ編輯員ノ爲ス所ニ放任セハ終ニ銀行破滅ニ立至ルヘキ旨ヲ記載シタル書狀ヲ送付シ云々」トアリテ被告ヨリ金錢ノ要求アリシ事實ヲ認定シアレハ本論旨ハ原判旨ニ副ハサルモノトス」其第七點ハ原判決ハ前ノ山口縣保安課長ニシテ當時豐浦警察署長タル警部篠原總一ヲ侮辱シタルモノトセラレタレトモ其所謂當時トハ明治三十四年九月八日即チ關西日報發行ノ當時ヲ指スカ將タ同警部カ侮辱トナルヘキ言辭ヲ發シタル當時ヲ指スカ判決理由ノ不備ヲ免レスト云フニ在レトモ○當時トハ明治三十四年九月八日關西日報發行ノ當時ヲ指示シタルコトハ原判文上自カラ明晰ナリトス

辯護人高木益太郎辯明書ハ(一)本件ノ第一審裁判言渡ハ明治三十四年十二月二十八日ニシテ之ニ對スル檢事ノ控訴ハ同三十五年一月四日ナルヲ以テ其控訴ハ刑事訴訟法第二百五十二條ニ控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日ト定メタル期間ヲ經過シタル後ニナシタル申立ナレハ原院ハ檢事ノ控訴ヲ排斥スヘキ筈ナルニ之ヲ採用シタルハ法則ニ違反セリト云フニ在レトモ○明治六年第二號太政官布告ニ依リ一月一日ヨリ三日迄十二月二十九日ヨリ三十一日迄休暇ナルコト明カナリ而シテ右布告ハ同年第二百二十一號布告及明治九年第二十七號達ニ依テ一六ノ日ヲ日曜日トシテ六月二十八日ヨリ三十日迄ノ休暇ハ取消サレタルノ外今日ニ實施セラル、コト明カナリ故ニ原院カ本件檢事ノ控訴ヲ期間内ノ控訴トシ受理審判セシハ相當ニシテ本論旨ハ相立タス(二)原院ハ上告人カ「山口縣警察本部、時ノ保安課長今ノ豐浦警察署長篠原警部ハ河野清一ニ向テ此際關西チヤソチヤルカラ事實ハナクトモ構ハヌツイ君カ得富カラ脅迫サレタト言ヘハ夫レテ充分タカラ」トノ記事ヲ關西日々新聞ニ掲記シタルヲ以テ直チニ官吏侮辱罪ナリト斷シタレトモ元來官吏侮辱罪ハ其職務ニ對スルモノナルニ原院カ認メタル事實ハ直チニ以テ其職務ニ對スルモノナリト云フヲ得ス寧ロ私人行爲ニシテ一種ノ放任行爲ヲ公示シタリト云フコト止マリ其結果罵詈又ハ誹毀ノ犯罪ヲ構成スルハ格別決シテ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノニアラス然ルチ原院カ該條ニ間擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○新聞社ヲ處分スルト否トハ一人ノ行爲ニ屬スヘキモノニアラス即チ職務ニ關スル行爲ナレハ原院カ本件被告ノ行爲ヲ官吏侮辱罪ト

シテ處分セシハ不法ニアラス』(三)原院ハ本件ノ證據書類中一號二號ノ書狀ニ記載アル文詞ヲ採テ被告ニ對スル斷罪ノ證據ニ援用シタリ斯ノ如キ證據書類ノ内容ヲ證據ニ援用スル場合ニハ公判審理ノ際之ヲ朗讀シタルコトヲ要ス然ルニ原院ハ公廷ニ於テ其文詞ヲ朗讀セスシテ突然有罪ノ證據ニ引用シタルハ口頭審理ノ定則ニ違反セリト云フニ在レトモ○凡ソ證據ニハ書類ト物件トノ別アリテ被告事件ニ關シ又ハ其事件ニ關聯シタル被告事件ニ關シ作成セラレタル文書ハ證據書類ニ屬シ犯罪證明ノ具トシテ押收若クハ領置セラレタルモノハ文書タルト物品タルトヲ問ハス總テ之ヲ證據物件ト云フヘキモノトス而シテ其證據書類ニ付テハ朗讀ヲ以テ證據調ノ結果ヲ得ル能ハサル場合ハ格別其他ニ在テハ總テ之ヲ朗讀スヘキモノトス而シテ其證據物件ニ至テハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシトハ刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定スル所ニシテ之レヲ示シテ被告ニ辯解ヲ求メタル場合ニ於テ其物件ノ文書タルトキハ被告ニ於テ其内容ヲ朗讀シ辯解ノ如何ヲ考量スヘキ充分ノ餘地ヲ有スヘキモノナレハ其證據物件ノ文書タル場合ト雖モ裁判所ハ此規定ニ從ヒ之レヲ示スノ外朗讀ヲ爲サシムルノ要ナシ故ニ原院カ此手續ニ據リ證據調ヲ爲シ之レヲ罪證ニ供シタルハ相當ノ措置ナリトス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年五月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十五年(九)第八〇八號  
 明治三十五年五月二十三日宣告

○判決要旨

一 判決ハ被告事件全體ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ其事件中  
 一部判決ヲ受ケサル點アルモ之ニ對スル控訴ハ被告事件ノ全部ニ  
 涉ルヘキモノトス

第一審 神戸地方裁判所豊岡支部 第二審 大阪控訴院

被告人 小林 藤助

辯護人

上嶋山和夫  
 原鹿造  
 太田莊九郎

右藤助ニ對スル私印盜用私書偽造行使事件ニ付明治三十五年三月十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
 上告趣意書ハ原判決ハ裁判ニ理由ヲ附セス且擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ査閱スルニ事實及ヒ法律ノ理由ヲ附シアリ且ツ其擬律ニ於テ更ニ錯誤アルコトナキヲ以テ論旨ハ謂ハレナシ

辯護人嶋山和夫上原鹿造上告理由擴張書ノ第二點ハ假リニ原判決ノ說明セル如ク私印盜用委任狀偽造

行使ノ點ハ第一審裁判所カ審理判決シタルモノニ非ストセハ其審理判決セサルモノニ對シ控訴審カ第一審ニ代リテ之レカ審理ヲ爲シ而カモ第一審ニ於テ判決セシ他ノ事實ト牽連シテ判決スル如キハ尤モ不當タルヲ免レヌ何トナレハ控訴審ニ於テ第一審裁判所ニ代リテ或事ヲ爲スニハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ外之レヲ認ムルコトヲ得サレハナリ然ルニ原院カ二箇ノ所爲ニ對シ第一審裁判所カ之レヲ遺脱シタリトノ理由ヲ以テ自己ノ職權ニ屬スルモノ、如ク誤解シ之レカ審理判決ヲ爲シタルハ前掲法條ノ趣旨ニ違背スルノミナラス不告不理ノ原則ヲ無視シタルモノナリトスト云ヒ」辯護人太田莊九郎上告趣意擴張書ノ第一點ハ原裁判所ノ判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ違背セル不法ノ判決ナリ其理由ハ本件ハ第一審裁判所ニ於テ被告藤助ヲ私書偽造行使ノ所爲ニ依リ重禁錮六月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ附ス押收物件ノ内一千七百二十圓ノ抵當權設定契約證ノ偽造ニ係ル部分ハ之レヲ沒收シ其他ノ書類ハ各被押收者ニ還附ス公訴裁判費用金八圓七十四錢ハ被告ノ負擔トスト言渡サレタル判決ニ對シ被告人ノミ控訴申立ヲ爲シタルモノニ係リ檢事ヨリ控訴又ハ附帶控訴ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原判決法律適用ノ理由ニ於テ被告カ右金借證書及ヒ委任狀ヲ偽造行使シタル犯行ハ各刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ印影ヲ盜用シタル犯行ハ各同法第二百八條第二項第二百十二條ニ該リ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條ニ依リ犯狀尤モ重キ金借證書偽造行使ノ犯行ニ從ヒ處斷シ云々第一審裁判所ニ於テ被告カ委任狀ヲ偽造シタリ又印影ヲ盜用シタリトノ豫審決定ヲ受理シナカラ其點ニ付

何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ失當ニシテ控訴ハ理由アルニ歸スルカ故ト説明シ以テ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲナシタリ然リ而シテ第一審裁判所ニ於テハ被告ノ犯罪事實ヲ單ニ金借證書偽造行使ノ一個ノミ認定シタルコトハ第一審判決及ヒ原判決ノ文旨ニ徴シテ明カナリ而カモ第一審判決ニ對シ控訴ヲナシタルハ被告人ノミナルニモ拘ハラヌ原裁判所ニ於テ被告ノ犯罪事實ヲ金借證書偽造行使ノ外委任狀偽造行使及ヒ私印盜用ノ所爲ナリトシ三個ノ犯罪ヲ認メ數罪俱發ノ法則ヲ適用シ處斷シタルハ當サニ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナシタルモノナルコトハ甚タ明瞭ナリ此點ニ付キ原裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂被告人ノ不利益ニ變更トアルハ刑ノミニ關スルモノニシテ一罪ヲ數罪ト變更スルモ刑ヲ重カラシメサル限り該條ニ違背スルコトナシト解釋シタルモノナルヘシト雖モ該條ノ法意ハ爾カク狹隘ニ解釋スヘキニ非ラサルノミナラス御院ノ判例ニ於テモ上告論旨ヲ是認セラレタル所ナリ之レヲ要スルニ原判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ヲ無視シ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ニ歸セシメタル違法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○判決ハ被告事件全體ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ假令其事件中一部ノ判決ヲ受ケサル點アルモ該事件ニ付既ニ終局判決アリタル場合ニ於テハ之レニ對スル控訴ハ該事件即チ被告事件ノ全部ニ渉ルモノト謂ハサルヲ得ス若シ此場合ニ於テ一部ニ付判決ナキモノトセハ遂ニ之レカ終局ヲ見ル能ハサルニ至ルヘシ是則チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ與ヘサルモノトノ理由ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシ積極的判

決、ナ、キ、ニ、拘、ハ、ラ、ス、上、訴、ヲ、許、シ、タ、ル、所、以、ナ、リ、故、ニ、本、件、ノ、如、ク、豫、審、決、定、ニ、於、テ、公、判、ニ、付、シ、タ、ル、委、任、狀、借、金、  
 證、書、偽、造、行、使、私、印、盜、用、被、告、事、件、ニ、付、借、金、證、書、偽、造、行、使、ノ、點、ハ、ミ、ニ、對、シ、判、決、ヲ、下、シ、委、任、狀、偽、造、行、使、及、私、  
 印、盜、用、ノ、點、ニ、付、判、決、ヲ、下、サ、ル、第、一、審、判、決、ハ、即、チ、請、求、ヲ、受、ケ、タ、ル、事、件、ニ、付、判、決、ヲ、與、ヘ、サ、ル、不、法、ノ、裁、判、  
 ナ、ル、ニ、依、リ、其、裁、判、ニ、對、シ、控、訴、ア、リ、タ、ル、ト、キ、ハ、第、二、審、ニ、於、テ、ハ、豫、審、決、定、ニ、於、テ、公、判、ニ、付、シ、タ、ル、被、告、事、件、  
 全、體、ニ、對、シ、審、理、判、決、ス、ヘ、キ、ハ、當、然、ナ、リ、ト、ス、又、刑、事、訴、訟、法、第、二、百、六、十、五、條、第、一、項、ニ、所、謂、原、判、決、ヲ、變、更、シ、  
 テ、被、告、人、ノ、不、利、益、ト、爲、ス、コ、ト、ヲ、許、サ、ス、ト、ハ、原、判、決、ヨ、リ、重、キ、刑、ヲ、言、渡、ス、コ、ト、ヲ、許、サ、ス、ト、ノ、律、意、ナ、ル、ヲ、以、  
 テ、第、一、審、ニ、於、テ、一、罪、ト、シ、テ、判、決、シ、タ、ル、ヲ、第、二、審、ニ、於、テ、數、罪、ト、ス、ル、モ、其、刑、期、ヲ、重、シ、セ、サ、ル、以、上、ハ、被、告、人、  
 ノ、不、利、益、ニ、變、更、シ、タ、ル、モ、ト、云、フ、ヲ、得、ス、故、ニ、論、旨、ハ、執、レ、モ、上、告、ノ、理、由、ト、ナ、ラ、ス、

第、二、點、ハ、原、裁、判、所、カ、私、印、盜、用、ノ、事、實、ヲ、認、定、ス、ル、ニ、方、リ、證、據、ノ、一、ト、シ、テ、證、人、小、林、サ、ト、ノ、豫、審、調、書、ノ、一、部、  
 ヲ、採、用、セ、ラ、レ、タ、リ、即、チ、原、判、決、證、據、說、明、ノ、部、ニ、同、人、豫、審、調、書、中、「前、申、ス、通、リ、私、ハ、印、ヲ、持、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、  
 ア、ル、陳、述、ヲ、」印、ヲ、掌、握、シ、居、ラ、ス、ト、ノ、意、ヲ、ラ、ン、ト、註、釋、ヲ、加、ヘ、證、人、小、林、サ、ト、カ、前、申、ス、通、リ、印、ヲ、持、ツ、テ、居、リ、  
 マ、セ、ン、ト、ノ、陳、述、ハ、サ、ト、ノ、印、ハ、之、レ、ナ、キ、ニ、ア、ラ、ス、現、實、ニ、同、人、カ、掌、握、セ、サ、ル、旨、意、ナ、リ、ト、想、像、的、認、メ、ラ、レ、タ、  
 リ、然、ル、ニ、證、人、小、林、サ、ト、ノ、同、一、豫、審、調、書、中、前、申、ス、取、リ、私、ハ、印、ヲ、持、ツ、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、ア、リ、テ、此、問、答、ト、後、ニ、問、證、  
 人、ノ、判、ハ、證、人、カ、始、終、持、ツ、テ、居、タ、カ、答、自、分、ハ、印、形、ハ、作、ツ、タ、事、ハ、ア、リ、マ、セ、ン、ト、ア、リ、テ、此、問、答、ト、後、ニ、問、證、  
 人、ノ、判、ハ、證、人、カ、始、終、持、ツ、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、ノ、答、ト、ヲ、綜、合、ス、レ、ハ、即、チ、印、ヲ、持、ツ、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、ノ、證、人、ノ、陳、述、  
 申、ス、通、リ、私、ハ、印、ヲ、持、ツ、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、ノ、答、ト、ヲ、綜、合、ス、レ、ハ、即、チ、印、ヲ、持、ツ、テ、居、リ、マ、セ、ン、ト、ノ、證、人、ノ、陳、述、

ハ、絶、體、ニ、印、ヲ、所、持、シ、タ、ル、コ、ト、ナ、シ、ト、ノ、意、味、ニ、シ、テ、印、ハ、ア、ル、モ、現、實、ニ、掌、握、セ、サ、ル、ノ、意、味、ニ、ア、ラ、サ、ル、コ、ト、  
 誠、ニ、炳、然、タ、リ、此、二、個、ノ、相、關、聯、セ、ル、前、後、ノ、問、答、ア、ル、ニ、モ、拘、ハ、ラ、ス、證、人、ノ、真、意、ニ、反、シ、不、當、ニ、陳、述、ヲ、認、メ、證、  
 據、ニ、供、セ、ラ、レ、タ、リ、抑、モ、事、實、ノ、認、否、證、據、ノ、採、否、ハ、原、裁、判、所、ノ、職、權、ニ、屬、ス、ル、コ、ト、ハ、論、ヲ、俟、タ、ス、ト、雖、モ、既、ニ、  
 採、用、シ、タ、ル、證、人、ノ、陳、述、ニ、シ、テ、前、後、相、對、照、セ、ハ、陳、述、ノ、真、意、明、瞭、ナ、ル、場、合、ニ、於、テ、後、ノ、陳、述、ノ、ミ、ニ、依、リ、前、  
 陳、述、ヲ、無、視、シ、而、カ、モ、後、ノ、陳、述、ノ、ミ、ニ、テ、ハ、其、真、意、不、明、ナ、ル、カ、爲、メ、ニ、陳、述、ノ、旨、意、ヲ、臆、測、假、定、シ、以、テ、證、人、ノ、  
 真、意、ニ、反、シ、タ、ル、意、義、ニ、認、メ、斷、罪、ノ、資、料、ニ、供、シ、タ、ル、ハ、不、當、ニ、證、據、ヲ、採、用、シ、以、テ、不、當、ニ、事、實、ヲ、確、定、シ、タ、ル、  
 違、法、ノ、裁、判、ナ、リ、ト、信、ス、ト、云、フ、ニ、在、レ、ト、モ、○本、論、旨、ハ、畢、竟、原、院、ノ、職、權、ニ、屬、ス、ル、證、據、ノ、解、釋、判、斷、ニ、對、ス、ル、  
 批、難、ニ、外、ナ、ラ、サ、ル、ヲ、以、テ、上、告、適、法、ノ、理、由、ト、ナ、ラ、ス、  
 辯、護、人、鳩、山、和、夫、上、原、鹿、造、上、告、理、由、擴、張、書、ノ、第、一、點、第、三、點、同、太、田、莊、九、郎、上、告、趣、意、擴、張、書、ノ、第、三、點、ハ、執、モ、  
 之、ヲ、取、消、シ、タ、ル、ニ、付、說、明、ヲ、付、セ、ス、

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年五月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○官文書偽造行使詐欺取財及恐喝取財ノ件

明治三十五年(乙)第六二四號  
明治三十五年五月二十六日宣告

○判決要旨

一 豫審終結決定書ノ送達ニ關シ違法ノ點アリトスルモ被告人ニシテ  
公判ニ出廷シ異議ナシ審判ヲ受ケタル以上ハ後ニ至リ其送達ノ違  
法ヲ論争スルヲ得ス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大橋雅太郎 辯護人

外五名

今村力三 高田澤井卓  
高木金之太 新高木太  
高木要太郎 高木要太郎  
岡本照太郎 岡本照太郎

右雅太郎才藏春水ニ對スル官文書偽造行使詐欺取財信一郎元一郎友吉ニ對スル恐喝取財事件ニ付明治  
三十五年三月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟  
法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

雅太郎上告趣意書第一ハ原判決説明中「前署雅太郎ハ其擔任中ニ係ル到着貨物賃割戻調書(原調)ヲ  
作成スルニ當リ明治三十年三月ヨリ明治三十一年二月迄ノ連月内容ニ於テ千圓内外ヨリ四千圓内外ヲ

増加スル方法ヲ以テ新神合資會社ノ納方ニ對シ二萬四千五百二十六圓九十六錢ヲ増加シタル虛偽ノ納  
高チ登載シ之ヲ偽造シ云々」ト記載シナカラ法律ノ適用ニ付其偽造ニ係ル文書ヲ沒收スルノ言渡ヲ爲  
サ、ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ沒收ノ言渡ヲナサ、ル物件ニ對シ尙ホ沒收スヘキモノナ  
リトノ論旨ハ結局被告ノ不利益ニ歸着スルヲ以テ被告ノ上告トシテハ其理由ナシ  
第二ハ原判決説明中「(ハ)元ト賃銀割戻ノ成規タル貨物ノ託送人ニ割戻スヘキ筋合ナレハ山陽ノ鐵道  
會社カ託送人タル場合ニハ新神合資會社ニ割戻スノ理由ナク當局役所ノ意見モ亦タ然ル旨當公廷ニ於  
ケル波多野彌藏カ其旨ノ證言アリ然ラハ此等ノ申立ハ被告カ徒ラノ苦情ニ過キスシテ云々トセシハ不  
法ナリ如何ントナレハ再調主任波多野彌藏ト割戻方法ニ付聊カ其解釋ヲ異ニセリ同人ノ豫審調書中  
「前署只注意マテニ申立置キマズカ私線中山陽鐵道線ハ尤モ荷物多キ故鐵道局ト運賃ノ割引特約アリ  
而シテ同線ヨリ局線ニ跨リ發送シタル貨物ヲ山陽鐵道會社カ新神會社ノ代理店ヘ頼ミタル場合ニハ夫  
ノ割戻ヲ鐵道會社ヘ爲スヘキカ正當ナルニ誤テ新神會社ヘ仕タコトカアルカモ知レヌ乍憚大橋ハ左様  
ノ誤解ナク正當ニ解釋シテ居タカモ知レマセンカ只私ノ注意ノ爲チ申述ヘタ云々」ト之レ解釋ヲ異ニ  
スルヨリ生スル巨額ノ違算アルヲ認メナカラ單ニ其増加金額ハ不正ナリトシテ漫然被告ニ罰責ヲ負ハ  
シメタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ判斷ニ對シ漫ニ論  
争スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス

第三ハ原判決押收調書(原調)中二十九年九月分ノ四日市横濱三五〇六トアル以下ニ列舉シタル證據ハ第一審ニ於テ採用セラレサル證據ナルニ原院ハ更ニ證據トシテ採用シナカラ被告ノ控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨ハ各審級ノ事實裁判官ノ職權ニ在ルヲ以テ假令第一審判決ニ採用セサル新ナル證據ヲ採用シタレバトテ第一審判決ヲ取消スヘキ理由ナキヲ以テ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却セシハ相當ナリトス

第四ハ原判決説明中「其二ノ字ハ被告雅太郎ノ筆癖アルニノ字ト認ム」云々トアレトモ被告ハ加筆セシ事實ナシ然ラハ筆跡ノ鑑定ヲ爲スヘキモノナルニ其鑑定ヲモ爲サス單ニ想像ヲ以テ之レヲ認メタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○鑑定ヲ爲サシムルト否ハ原院ノ職權ニアルヲ以テ假令鑑定ヲナサ、レハトテ不法ニアラス又原院ハ其掲舉シタル各證據ニ依リ之ヲ認メタルコトハ判文上明カニシテ想像ヲ以テ認メタルモノニアラス

第五ハ原判決ハ割戻賃銀調書(原調)ヲ官文書ナリトセラレタルモ原調ナル名稱ハ再調主任波多野彌藏カ被告ニ名命シタルモノニシテ法令ニ基キ作成シタル官文書ニアラス被告手控迄ニ作成シタル覺書タルニ過キス然ルニ此文書ヲシテ官文書ナリト速斷シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○假令法令ニ基キ作成シタル文書ニアラスト雖モ苟クモ官廳ノ事務取扱上ニ關シ作成シタル所ノ文書ハ亦以テ官ノ文書タルコト論ヲ待タス而シテ原院ハ該原調ナルモノハ被告ノ手控覺書ナリトノコトハ之ヲ認メサル

所ナレハ本論旨ハ理由ナシ

擴張書第一ハ原判決ニ「前畧貨物納金割戻原簿ニ納付高及ヒ割戻金等ノ合計高ヲ記入セシメ才藏ハ右原簿ニ基キ發スル通達ヲ受ケ之ニ基キ鐵道作業局運輸部ニ請求シ」トノミアリテ其通知書ナル文書ハ官私何レノ文書ナルヤ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ「右原簿ニ基キ發スル通達ヲ受ケ」云々トアリテ其通達スルニ付文書ヲ以テ爲シタリトノコトハ原院ノ認メサル所ナレハ本論旨ハ謂レナシ

第二ハ原判決ニ「前畧被告雅太郎ノ全部調製シタル部分ノ四日市三宮ノ(二〇六六四)トアル以下ハ何レモ百圓ツ、加ヘタルモノナルコトハ押收ノ旬間報告書ニ依リ明白ナリ」トセラレタルモ連帶到着貨物賃割戻調ノ如キハ複雑ニ複雑ナ極ムルモノニシテ何人カ之ヲ爲スモ誤謬ナシト明言シ得サル事情アリ殊ニ山陽線ノ如キハ毎月七千圓以上ノ増額ナリ然ルニ單ニ想像ヲ以テ被告ノ所爲ナリトセシハ不法ナリト云ヒ」第三ハ原判決ニ「又姫路京都(二三七五二)トアル以下數筆ハ何レモ全ク虛無ノモノヲ記入シタルモノニシテ本件原調ハ被告カ故意ニ之ヲ偽造シテ行使シタルヲ認ム」トセラレタレドモ假令虛無ノ記入アリトスルモ其下調ノ如キハ擧テ部下ニ任せ置キ殆ント被告ハ手ニモ觸レサル事務ナレハ被告ノ所爲ニアラス要スルニ右等ノ相違ハ到底停車場ヨリノ送付洩レノ送狀ヲ一纏メニ記入セシモノト信ス且證人鈴木省吾ノ證言ニ據ルモ被告カ有心故造ニアラサルコト明瞭ナリト云ヒ」第四ハ



原判決ニ「(イ)送狀ノ紛失等之レナキ旨ト」云々トアレトモ割戻ヲ調査スルニハ期限アルカ故ニ送狀ノ着未着ニ拘ハラヌ又旬間報告表ト突合セテ爲サス現在ノ分ヲ以テ原調ヲ作成スルモノナレハ其月ノ送狀ニ不足モアリ或ハ前月ノ分モ混同シアリテ其計算ノ確實ナラサルコトハ證人ノ證言スル所ナリト云ヒ」第五ハ原判決ニ「(ロ)代理店ハ詳細ニ其届書ニ依リ之ヲ調査シ」云々トアレトモ代理店ノ如キハ日ニ月ニ異動アルモノニシテ其代理店ノ調ニ依リテ作成シタル再調表ハ信用スルニ足ラス故ニ被告ハ故意ニ金額ヲ増加シタルモノニアラサルニ原院ハ被告ノ所爲ナリトシテ罪責ヲ負ハシメタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ判文ニ掲擧シタル各證據ニ依リ犯罪事實ヲ認メタルモノニシテ單ニ想像ヲ以テ認メタルモノニアラサルコトハ判文上明カナリ要スルニ以上ノ論旨ハ原院カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由ナシ

才藏上告趣意書ハ本件ノ原調及ヒ原簿ハ官文書ニアラス鐵道局運輸部長平井晴次郎ノ證言ニ依レハ部員カ事實ノ便宜ニ依リテ作成シタルモノ、如ク且原調及ヒ原簿ヲ一度割戻金ノ精算ヲ完結シタル後ハ敢テ保存ノ必要ナク之ヲ破リテ捨ルモ差支ナシトノ陳述ニ依リ明カナリ然ルニ官文書ナリト裁斷セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原調及ヒ原簿ノ官文書ナルコトハ雅太郎上告趣意第五點ニ於テ説明シタル如クナレハ右ニテ了解スヘシ

春水上告趣意書ハ原判決ハ被告カ鐵道作業局雇ヲ奉職シ書記村岡太一擔任ノ下ニ貨物賃銀割戻原簿ノ

記入ヲ擔當シ居リ(中畧)春水ハ其擔當ニ係ル前記原簿ニ記入ヲ爲スニ當リ云々虚偽ノ納付高ヲ記入シ偽造セシトノ事實ヲ認メ官吏管掌ニ係ル官文書偽造行使セルモノト判定セシハ誤認ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○雇員ニシテ書記ノ部下ニ屬シ原簿ニ記入スル事務ヲ擔當シタルトキハ該原簿ハ即チ管掌ニ係ル文書ナルコト勿論ナリ而シテ被告ハ該原簿ヲ偽造行使シタルモノナルヲ以テ原院カ官吏ノ管掌ニ係ル官文書偽造行使罪ニ處罰シタルハ相當ナリトス

信一郎上告趣意書ハ被告ハ元一郎友吉ノ兩名共謀シテ逸見才藏ヲ恐喝シテ金百圓ヲ騙取シ三名ニテ之ヲ分配シタリトノ事實ヲ認メラレタルモ其分配シタル場所及ヒ日時ニ關シテハ何等ノ證據ヲ示サス且ツ三名通謀シテ恐喝手段ヲ用ヒタリトノ證據ヲ説明セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ諸般ノ證據ニ依リ被告等三名共謀シテ恐喝取財ヲ犯シタル事實ヲ認メアリテ證據ノ理由ニ欠クル所ナシ又金員ヲ騙取シタル後ニ於テ其金員ヲ分配シタル如キハ罪トナルヘキ事實ニアラサルヲ以テ之カ證據ノ説明ヲ爲サルモ不法ニアラス

元一郎上告趣意書ハ原院ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ有罪ニ處斷シタルモ被告カ他人ヲ恐喝シタルコトナキハ一件記録ニ依リ明カナルニ恐喝取財ノ事實アリトセラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ

友吉上告趣意第一ハ原判決ニ曰ク「前段ノ趣旨ヲ以テ脅喝シ同人カ恐怖ノ念ヲ生シタルヲ見被告信一

郎ノミ居残り(中畧)金百圓ヲ騙取シ同夜被告三名ニテ之ヲ分配シタリ云々」ト事實ヲ認定シ而シテ「此等ノ證憑ハ押收ノ(中畧)明治三十二年一月十三日附志村友吉ヨリ黒澤信一郎宛ノ書狀ノ實ニ舊冬ノ事柄ニ付テ云々茲ニ復活的方法ヲ講シ度トノ文詞ハ被告共ハ仍ホ鐵道局不正事件ヲ追究シ求ムル所アラントシタルノ狀ヲ見ルニ足ルコト明治三十二年一月元旦附志村友吉ヨリ黒澤信一郎宛ノ書狀中舊冬中ハ一方ナラス御厚情ヲ蒙リ幸ニ越年ノ運ニ至リ候是レ全ク閣下ノ賜トシテ紀念罷在候トアル文詞ハ信一郎主張ノ如ク實ニ其舊冬ニ於テ金圓ノ受授アリシヲ云々シタルト解釋シ得ラル、トヲ綜合シテ前掲第三ノ事實ハ之ヲ確認スルニ足ルモノトス」ト説明セリ然レトモ何等本件ニ干係セル文詞ナキノミナラス舊冬ノ事柄ト云ヒ舊冬中ハ一方ナラス御厚情ヲ蒙リ云々ト云ヒ共ニ何ヲ指スモノナルカ極メテ不確實ノ文詞タルナリ要スルニ金圓ノ受授ノ事實ヲ確認スルニ足ラサルモノニシテ理由不備ノ不法ヲ免カレズト云ヒ」第二ハ又原判決ニ由レハ「被告三名ハ才藏ニ對シ出金セサレハ曲事ヲ暴露シ從テ壯士團體モ不穩ノ舉動ニ出ルモ知ルヘカラスト恐喝シ金圓ヲ騙取センコトヲ共謀シ云々」トアリ然レトモ被告三名カ偶々同行セシ故ヲ以テ直チニ脅喝取財ニ干スル意思ノ疏通アルモノト斷シ難ク結局之レカ説明ナキハ之レ亦理由不備ノ不法タリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ判斷ニ對シ漫ニ論争スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ

雅太郎第一上告趣意追加書第一ハ原院ハ第一審カ採用シタル證據中證人山本キン同細野正文中西八百

吉等ノ證言ヲ除去シナカラ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨ハ各審級事實裁判官ノ職權ニ在ルヲ以テ假令第一審判決ニ採用シタル證據ヲ排斥スルモ其證據ニシテ違法ノモノニアラサル已上ハ第一審判決ヲ取消スヘキ理由ナキヲ以テ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法コラス」第二ハ上告趣意書第三ト結局同一ナルヲ以テ重テ説明ヲ要セス」第三ハ第一審判決ノ理由中ニ其財計ノ基ヲ出所ヲ明細シ得ス云々金七十圓ヲ受授シタル事トアレトモ被告ハ第二審ニ於テ財計ノ出所ヲ明示シ又其七十圓ノ受授ハ權利株ノ賣買ナリト辯解シタルニ漫然控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ」第四ハ原院カ罪證ニ供シタル旬間報告書並貨物送狀ハ公廷ニ於テ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメサルモノナルニ之ヲ證據トセシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ裁判長ハ本件押收目錄列記ノ證據悉皆ヲ示シ被告ヲシテ辯解セシメタリトアリ而シテ旬間報告書貨物送狀ハ該押收目錄中ニ記載シアレハ本論旨ハ謂レナシ」第五ハ上告趣意書第二ヲ敷衍スルニ過キササルヲ以テ重テ説明セシ」第六ハ原院ハ押收ニ係ル證據書類ノ全部ヲ採用シナカラ一部ノミヲ示シ辯解セシメタルハ不法ナリ且ツ證人小牧キン水野タツ矢島タミ土方キヌ町田徳三郎山本キン古澤謙吉森島六一郎等ノ調査ハ被告ニ讀聞ケ辯解セシメサルモノナルニ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ押收ノ證據ハ悉皆之ヲ示シ以テ被告ヲシテ辯解セシメタル旨記載アリ又右各證人ノ

豫審調書ハ總テ朗讀セシメ被告ヲシテ辯解ヲ爲サシメタルコトノ記載アレハ本論旨ハ謂レナシ』第七  
 ハ辯論ノ最終ニ被告人ヲシテ陳述ヲ爲サシメサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原告判始末書ヲ查ス  
 ルニ裁判長ハ被告人等ニ最終トシテ申立ルコトアルヤト問フタリ被告雅太郎ハ最早他ニ申立ルコトナ  
 シト述ヘタリトアルヲ以テ本論旨モ謂レナシ

同第二上告趣意擴張追加書第一ハ原判決ハ官文書偽造行使ノ事實ニ付テハ其理由ノ説明アルモ詐欺取  
 財ノ點ニ付テハ如何ナル手段方法ヲ以テ其目的ヲ達セシヤ其理由ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在  
 レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ才藏ト通謀シテ金員ヲ騙取セント企テ被告カ擔任ニ係ル到着貨物賃割  
 戻調書(原調)ヲ作成スルニ當リ連月ノ内容ニ於テ千圓内外ヨリ四千圓内外ヲ増加スル方法ヲ以テ虚偽  
 ノ納高ヲ登載シ之ヲ偽造シ該調書ヲ原簿主任村岡太一ニ回付シ以テ鐵道作業局計理部ノ手ヲ經テ金員  
 ヲ騙取シタル事實ニシテ被告カ金員ヲ騙取シタル方法手段ハ之ヲ明示シアリテ判決ノ理由ニ欠ルコ  
 トナケレハ本論旨ハ其理由ナシ』第二ハ上告趣意書第二ヲ敷衍スルニ過キサレハ重テ説明ヲ要セス』第  
 三ハ原院ハ田中金次ノ豫審調書ヲ證據ニ供セラレタルモ同人ノ陳述ハ事實ニ反スルコト多クシテ信ス  
 ルニ足ラスト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ  
 理由トナラス』第四ハ擴張書ノ第三ノ趣意ヲ敷衍シ第五ハ上告趣意書第五ヲ敷衍スルニ在ルヲ以テ重  
 テ説明セス』第三上告趣意擴張追加書第一ハ原判決ニ「前畧虚偽ノ納付高ヲ登載シ之ヲ偽造シ該調  
 書」ヲ云々トアレトモ該調書トハ如何ナル文書ヲ指示シタルモノナルヤ之ヲ明示セサルハ不法ナリト  
 云フニ在レトモ○原判決ニ該調書トアルハ其前文ニ掲ケタル到着貨物賃割戻調書(原調)ヲ指示シタ  
 ルコト明瞭ナレハ本論旨ハ理由ナシ』第二ハ原院ハ森島友三郎ノ豫審調書ヲ證據トセラレタルモ同人  
 ハ證人ナルヤ將タ參考人ナルヤヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○記録ニ徵スレハ證人ナリ  
 ヤ參考人ナルヤハ自ラ知り得ルヲ以テ特ニ之ヲ示サ、ルモ不法ト云フヲ得ス』第三ハ原院ハ相被告西  
 川春水ニ對シテ第一審判決ヲ取消サレタルニ拘ハラヌ被告ニ對スル控訴ハ理由ナキ旨ヲ以テ棄却セラ  
 レタルハ頗ル偏頗ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○相被告ノ控訴ハ被告ノ控訴ニ何等ノ關係ナキヲ以テ  
 假令原院カ春水ノ控訴ハ理由アルモノト認メ第一審判決ヲ取消シ又被告ノ控訴ハ理由ナシト爲シタレ  
 ハトテ之ヲ以テ偏頗ノ裁判ナリト云フヲ得ス』第四ハ原判決ニ毎月五分ノ割戻ヲ鐵道局運輸部ニ請求  
 シ云々トアレトモ單ニ鐵道局トノミアリテ鐵道作業局ナルヤ將タ鐵道局ナルヤヲ明示セサルハ不法ナ  
 リト云フニ在レトモ○原判決ニハ鐵道作業局運輸部トアレハ本論旨ハ謂レナシ』第四上告趣意擴張追  
 加書第一ハ結局上告趣意書第三ト同一ニ歸スルヲ以テ重テ説明セス』第二ハ被告ハ上訴ノ爲メ判決書  
 ノ謄本ヲ求メタルニ原院ハ二十四時内ニ下付セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○縦シヤ所論ノ如キ  
 事實アリトスルモ之レカ爲メ原判決ニ何等ノ影響ナキヲ以テ上告ノ理由トナラス』第三ハ第一審判決  
 ニ於テハ原調ヲ偽造シ之ヲ原簿主任ニ廻付シトアリ然ルニ原判決ニハ之ヲ偽造シ該調書ヲ原簿主任ニ

送達ノ違法

云々トアルニ依レハ第一二審ノ理由ニ齟齬アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ニモ原調ヲ偽造シ該調書ヲ云々トアリテ一二審ノ判決理由ニ毫モ齟齬アルコトナシ』第四ハ原判決ニ鐵道局ニ於テハ出荷獎勵ノ爲メ云々トアレトモ單ニ鐵道局トノミコテハ遞信省中ノ鐵道局ナルヤ將タ鐵道作業局ナルヤヲ知ル能ハス之レ理由不備ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ鐵道作業局ト記載シアレハ本論旨ハ謂レナシ

才藏辯明書第一ノ前段ハ雅太郎上告趣意書第五ト同一ナルヲ以テ重テ説明セス右ノ説明ニ依リ了解スヘシ後段ハ原院ハ被告カ相被告ト共謀シテ官文書ヲ偽造シ割戻金ヲ増加シタル者ト判決セラレタルモ被告ハ全然森島友三郎ノ請求ニ依リ代理店ノ利益ヲ謀ル爲メ無意ニシテ其意ニ從ヒタルモノナルヲ以テ第二審ニ於テ全ク犯意ナキ旨ヲ陳述シ且ツ森島友三郎ヲ證人トシテ喚問ヲ請求シタルニ之ヲ採用ナクシテ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人申請ヲ許スルハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ假令許容セサリシトテ不法ニアラス他ハ事實ノ認定ヲ非難スルコト過キサレバ上告ノ理由ナシ』第二ハ原院ニ於テ會社ヨリ鐵道局ニ差出シタル請求書ヲ示サレンコトヲ請求シタルニ該書ハ會計検査院ニ假下アルヲ以テ之ヲ示スコト能ハストノコトニテ甚ダ遺憾ナレハ何卒會計検査院ニ照會セラレ取寄セアラシコトヲ願フト云フニ在レトモ○本院ハ事實ノ審理ヲ爲ス所ニアラサルヲ以テ證據物取寄セノ申請ノ如キハ採用スルニ由ナシ』第二ハ原院ハ被告カ新神合資會社ノ支配人トシテ割戻金ヲ

受取居ルコトヲ自認セシモノ、如ク判決セラレタルモ被告ハ終始受取居リタリト自認シタルニアラス然ルニ自認セシモノトセシハ事實ノ誤認ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ被告ハ新神合資會社ノ支配人ニシテ鐵道局ヨリ割戻金ヲ受取り居ル趣旨ノ自認アルコト明カナレハ本論旨ハ謂ハレナシ』第四ハ原院ハ波多野彌藏ノ證言ヲ採テ證據トセラレタルモ同人ノ陳述ハ被告ニ對シテ不利益ナルモノナルニ之ヲ證據トセシハ失當ナリ又「原調ニ記載アル文字ハ概シテ大橋ノ筆ニ成リ居」ト爲シ被告カ大橋ト共謀シテ原調ヲ偽造シタルモノト認定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ』第五ハ被告カ西川ヲ誘惑シテ内外結託シテ割戻金ヲ増加シテ金錢ヲ騙取シタル者ト認定セラレタルモ西川ノ第二審ニ於ケル供述ニ依レハ被告ハ同人ト共謀シタルコトナク又誘惑シテ割戻金ヲ増加シタルモノニアラサルコト明白ナリ又原院ハ田中金治等ノ證言ヲ證據トセシモ同人ハ自己ノ利益ヲ得ンカ爲メ被告ヲ中傷スル目的ヲ以テ虛言ヲ申立タルモノナルニ之ヲ罪證トシテ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定採證ノ當否ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ

同辯明擴張書前段ノ要旨ハ原院ハ被告ノ所爲ヲ以テ官文書偽造行使詐欺取財罪ナリトシテ其罪ヲ第一第二ニ區別シ刑法第百條ヲ適用シテ重キ第二ノ罪ニ從ヒ處斷ストセラレタルモ相被告タル大橋西川コ

少元調ヲ偽造シ金員ヲ騙取シタルモノナレハ同人等ニ對シテモ刑法第百條ヲ適用スヘキモノト思料スト云フニ在レトモ○他人ニ對スル擬律ノ當否ハ被告ノ原判決ニ何等ノ影響ナキヲ以テ上告理由ト爲スヲ得ス」其後段ハ被告カ第一審ニ於テ供述シタル事柄ハ眞實ナルニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不服ニ付控訴セシニ原院ハ尙ホ被告ハ不正ノ行爲ヲ爲シタルモノト認メ控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在リテ○要スルニ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス

雅太郎辯護人今村力三郎擴張書第一ハ原判決ハ(第一)鐵道作業局ニ於テハ出荷獎勵ノ爲メ一个月ノ賃銀納高所定ノ金額ニ達スル貨物託送人ニ對シ其賃銀納高ノ五歩ヲ割戻ス制規ナルヨリ云々又此事實ニ對スル證據説明ノ部ニ「以上事實中第一第二ノ貨物賃銀割戻ノ成規アルコトハ被告雅太郎才藏春水ノ其旨ノ自認ニ依リ之ヲ認ムトアリ然レトモ鐵道作業局カ賃銀ノ割戻ヲ爲スヘキ所定ノ金額ハ果シテ幾リナルヤヲ明示セス故ニ原判決ニ掲ケタル事實ノミニテハ上告人ノ行爲ニ由リ割戻ヲ受クヘキ金高ニ達セシメタルヤ否ヲ知ル能ハサルモノコシテ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ一个月ノ賃銀納高所定ノ金額ニ達スル云々納高ノ五歩ヲ割戻スヘキ制規ナルヨリ云々連月内容ニ於テ千圓内外ヨリ四千圓内外ヲ増加スル方法ヲ以テ云々二万四千五百二十六圓九十六錢ヲ増加シタル虛偽ノ納高ヲ登載シ云々右増加高ノ五歩合計千二百二十六圓三十四錢八厘ヲ割戻サシメ之ヲ騙取シタリトアリテ被告カ詐欺ノ方法手段ヲ以テ金員ヲ騙取シタル事實理由ヲ明示シタル已上ハ特ニ所定ノ金額

ヲ示サ、ルモ詐欺取財罪ノ成立ニ何等ノ影響ノ及フヘキモノニアラサルヲ以テ原判決ハ理由不備ニアラス」第二ハ原判決ニ明治三十年三月ヨリ明治三十一年二月迄ノ連月内容ニ於テ千圓内外ヨリ四千圓内外ヲ増加スル方法ヲ以テ新神合資會社ノ納高ニ對シ二万四千五百二十六圓九十六錢ヲ増加シタル虛偽ノ納高ヲ記載シ云々トノミアリテ増加シタル方法ノ事實ヲ明示セス抑本件ニ於ケル納金高増加ノ方法ハ犯罪ノ成立要素ニシテ若シ其方法不正ナラサル時ハ或ハ上告人ニハ刑事上ノ責任ヲ生セサルヤ未ダ知ルヘカラス故ニ其方法ハ如何ナル所爲ナルカヲ明示シ然ル後之カ罪ノ有無ヲ判定スヘキモノトス原判決ノ爰ニ出テサリシハ理由不備ノ不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ其擔任ニ係ル到着貨物賃割戻調書(原調)ヲ作成スルニ當リ云々新神合資會社ノ納高ニ對シ二万四千五百二十六圓九十六錢ヲ増加シタル虛偽ノ納高ヲ登載シ之ヲ偽造シ該調書ヲ云々トアリテ其増加シタルコトヲ明示シタル以上ハ其方法ノ詳細ハ犯罪ニ影響ナキヲ以テ之ヲ示サ、ルモ理由不備ニアラス」第三ハ本件ノ豫審終結決定ハ明治三十二年五月二十七日被告へ送達セラレタルモノナリ然ルニ其送達書ニ署名セル執達吏大竹廣作代理河合與平ノ文字及ヒ之ヲ受取リタル鍛冶橋監獄署長典獄藤澤正啓ノ文字ハ共ニ印刷ニシテ自署ニアラス故ニ該送達ハ刑事訴訟法第二十條ニ背キタル文書ニシテ送達ノ效ナキモノトス抑被告人及檢事ハ刑事訴訟法第七十二條ノ規定ニ從ヒ豫審終結決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘシ而シテ其期間ハ有效ノ送達アリタル時ヨリ起算スヘキモノナレハ本件ノ如ク豫審終結決定正本送達

無効ナル時ハ今日ニ至ルモ該決定ハ被告人ニ對シ確定ノ效力ヲ生セサルモノナリ故ニ第一二審ノ裁判所カ未タ被告人ニ對シ送達セラレサル豫審終結決定ニ依リ公訴ヲ受理シタルハ違法タルヲ免レヌ御院ニ於テ直チニ公訴不受理ノ判決アルヘキモノト確信スト云フニ在レトモ○假令豫審終結決定書ハ送達ニ付論旨ノ如キ違法アリトスルモ被告人ニ於テ第一審公判ニ異議ナク出廷シテ審判ヲ受ケタル以上ハ今日ニ至リ該送達ハ當否ヲ論争スルモ上告ノ理由ト爲スナ得ス

雅太郎辯護人花井卓藏今村力三郎擴張書ハ第一審判決理由第二項中鐵道局ニ於テハ出荷獎勵ノ爲メ運送人ヨリ一ヶ月納金高五千圓以上ニ達スルモノハ其納金高ノ五分ヲ割戻ス成規ニシテ云々之ニ對スル證據説明ノ部ニ第二項ハ被告雅太郎才藏各之ヲ自認シ云々トアリ然レトモ上告人雅太郎ハ豫審以來會テ斯ル自認ヲナシタルコトナシ(三十二年二月二十一日豫審調書「問割戻ノ部合ハ如何答當時ハ一万圓以上五分テアリマシタ」トアリテ五千圓以上五歩トノ自認ナシ)則第一審判決ハ此點ニ於テ虛無ノ證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルニ拘ハラヌ原院ニ於テ此欠點ヲ看過シ(原院ハ此自認ヲ認メサリシ)被告ノ控訴ヲ理由ナシトシ棄却ノ判決ヲナシタルハ刑事訴訟法第二百六十一條後段ノ法則ニ背キタル不法アリト云フニ在レトモ○第一審判決ノ旨趣ハ主トシテ被告等カ五分ノ割戻ヲナスコトヲ自認シタルト云フニ在リテ五千圓ト一万圓トノ金額ハ犯罪構成ニ必要ナラサル問題ナルヲ以テ此金額ヲ自認シタルモノト判定シタルモノト認メ難ク從テ原院ガ第一審判決ヲ取消サ、ルハ相當ナリト

大

雅太郎辯護人花井卓藏擴張書第一ハ原判決ニハ被告ハ云々明治三十年三月ヨリ明治三十一年二月マテノ連月内容ニ於テ千圓内外ヨリ四千圓内外ヲ増加スル方法ヲ以テ云々右増加高ノ五歩合計一千二百二十六圓三十四錢八厘ヲ割戻サシメ之ヲ騙取シタリ」ト判示スレトモ其各月ノ増加額ハ何程ナリシヤ之ヲ判示セサルノミナラス原判決證據説明ノ部ヲ見ルモ其割戻金ノ確然一千二百餘圓ナリシヤ否ヤニ付テノ之ニ關スル説明ナキヲ以テ被告カ果シテ右金員ヲ騙取シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ從テ原判決ハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ其増加額ニ付テハ雅太郎才藏等ノ陳述及ヒ森島友三郎波多野彌藏等ノ證言ヲ援用シ以テ二万四千五百二十六圓九十六錢ノ増加額ナルコトヲ判示シ從テ之ニ對スル五分ノ割戻金合計千二百十六圓三十四錢八厘ヲ騙取シタルモノト認メアリテ證據ノ説明ニ於テ欠クル所ナシ而シテ本件ハ繼續犯ナルカ故ニ増加額ノ合計ハ二万四千五百二十六圓九十六錢ナリトノ理由ヲ示シタル上ハ各月ノ増加額ノ何程ナルヤノ如キハ特ニ之レヲ示サ、ルモ犯罪構成ニ何等ノ影響アルコトナケレハ本論旨ハ理由ナシ」第二ハ原判決ハ本件被告カ犯罪ノ證據ヲ列舉スルニ當リ被告雅太郎ト被告才藏トハ共ニ本件犯罪ノ行ハレタル時期間ニ盛シニ遊興シタル事實ハ小坂キノ云々ノ各豫審調書ニ其旨記載アリ」ト判示シ被告犯罪當時遊興シタリトノ事實ヲ以テ本件斷罪ノ證據ニ供セラレタリ然レトモ遊興ノ事實ハ犯罪ノ證據ニアラス然ルニ原判

決ハ之ヲ以テ犯罪ノ證據ナリトシ「箇ハ是レ惡錢身ニ付カザルノ狀況タルコト云々」ト判示シ一ノ狀況ニ因リ被告ノ罪ヲ斷セラレタルハ證據ノ法則ニ違背スル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○假令狀況ト雖モ心證ノ資料ニ供スルハ妨ケナキヲ以テ原判決ハ不法ト云フヲ得ス」第三ハ文書ニシテ官文書ノ性質ヲ有スルヤ否ヤハ法律ニ依リテ之ヲ決セサルヘカラス官廳ニ存在スル文書ト雖モ執務者カ事務取扱上ノ便宜的ニ之ヲ作成シタルニ止マリ法律上其作製ノ義務ナキモノ、如キハ之ヲ官文書ナリト云フヲ得ス從テ文書ノ官ノモノナリヤ私ノモノナリヤハ事實問題ニ非スシテ法律問題ナリトス原判決證據説明ノ部ヲ見ルニ「本件割戻賃銀調書(原調)ノ官ノ文書ナルコトハ第一審公判始末書中名倉竹次郎ノ證言ニ官廳所管ノ事務執行ノ爲メニ作成シ來リシ旨録取シアリテ單純ノ下書若クハ手控ニアラサルコト明白ナルニ依リ云々」ト判示シ右賃銀調書ヲ以テ官文書ナリト判定シタルハ(一)法律ヲ以テ解決スヘキ問題ヲ證人ノ證言ニ依リ決シタル不法アリ(二)事務執行ノ爲メニ作成シタル文書ト雖モ執務者ノ便宜ニ作成シタルモノ、如キ官文書ノ性質ヲ帶ヒサルモノナルニ事務執行ノ爲メニ作成シタルモノハ悉ク官文書ナリト誤解シタル不法アリト信スト云フニ在レトモ○官ノ文書トハ官吏カ官廳ノ事務ヲ掌理執行スル爲メ職務上作成スル所ノ文書帳簿等ヲ稱スルモノニシテ法令上特ニ規定セル文書ニアラサル限りハ其文書ノ官文書ナルヤ否ヤハ事實問題トシテ解決スヘキモノトス而シテ本件ノ原調ナル文書ハ假令法令ニ基キタルモノニアラスト雖モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ作成シタル所ノ

文書ナレハ其文書ノ性質タルヤ官廳ノ文書ナリト云ハサルヘカラス故ニ原院カ證人ノ證言ヲ援用シテ該原調ハ官文書ナリト判斷シタルハ相當ナリトス」第四ハ原判決ハ本件第一第二ノ事實ニ對スル證據ヲ説明スルニ當リ(ハ)元ト賃銀割戻成規タル貨物託送人ニ割戻スヘキ筋合ナレハ山陽鐵道會社カ託送人タル場合ニハ新神合資會社ニ割戻スノ理由ナク當局役所ノ意見モ亦タ然ル旨ナル趣旨ハ當公廷ニ於ケル波多野彌藏カ其旨ノ證言アリ」ト説示シ原審ニ於ケル波多野彌藏ノ證言ヲ罪證ニ供シタルモ原審公判始末書ヲ見ルニ山陽鐵道會社ニ關スル供述ナク從テ右ハ全ク虛無ノ證據タルニ之ヲ以テ罪證ニ供シタルハ不法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ波多野彌藏カ原判決ニ掲ケタル趣旨ノ陳述ヲ爲シタルコト明カナリ而シテ其陳述中參陽鐵道會社トアル參ノ字ハ山ノ字ノ誤記ナルコト亦以テ明カナレハ原院ハ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタルモノニアラス」第五ハ本件裁判所カ各被告人及辯護人ニ發シタル呼出狀ハ悉ク送達吏ノ氏名印刷ニ係ルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第三十條ニ違背シタル無効ノモノナリ特ニ明治三十二年十一月十四日辯護人土橋金司ニ發シタル同年同月二十二日公判開廷ノ期日呼出狀(記錄五八六葉)ノ如キモ同様違法ノモノニシテ同日同辯護人ハ出廷セサルニ拘ハラス公判ヲ開廷シタリ左レハ第一審判決ハ此ノ如ク訴訟手續ニ違背シタル違法ノ公判ニ基クモノナルカ故ニ第二審判決ハ之ヲ取消スヘキ筈ナルニ原院ノ判決爰ニ出テ全然被告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ○記錄ヲ查スルニ辯護人土橋金司ニ對シ明治三十二年十

一月十四日附テ以テ同年同月二十二日公判開廷ノ期日呼出狀ヲ送達セシモ同日ハ延期トナリ開廷ヲ爲サ、ルモノナレハ送達ノ違法ハ何等審理ニ關係アルコトナシ故ニ原院カ被告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ニアラス

才藏辯護人田澤鎮太郎擴張書第一ハ本件ノ告發書及豫審請求書ニ依レハ公訴ノ被告人ハ逸見才藏ニアラス逸見才三ナリ是レ逸見才藏ニ對シテハ適法ノ公訴手續ナシト看做スヘクシテ而カモ逸見才藏ニ對シ公訴ノ裁判アルハ不法ナリ少クトモ其才藏ノ才三ニ相違セサルヤ否ヲ判明セサル原裁判ハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○假令告發書及ヒ豫審請求書ニ才三ト記載シアレハトテ苟モ人違ヒニアラサル已上ハ是等ノ相違ハ原判決ニ何等ノ影響アルコトナケレハ上告ハ理由ナシ』第二ハ又原裁判ノ證據說明ノ部第二項五十行目ニ左ノ記載アリ云ク四日市三宮ノ二〇六六四四日市神戸ノ一二〇九四ハ何レモ百圓ツ、加ヘタルモノナルコトハ押收ノ旬間報告書ニハ前者ハ一〇六六四後者ハ二〇九四ナルニ依リ明白ニシテ云云』ト右前者ノコトハ暫ク之ヲ措キ後者ノ二〇九四チ一二〇九四ニ變シテ百圓ヲ増シタリトノ原裁判ノ理由ハ前後齟齬ナリ何トナレハ右數字ノ上位ニ壹ヲ加フレハ千ヲ増スヘク又其下位ニ屬スル四ノ位チ下ストキハ減額ト爲レハナリ設令之ヲ右ノ論法ニ依リ理由齟齬ト做スヘカラサルモ理由不備ノ不法ヲ免レス何ントナレハ右二〇九四又ハ一二〇九四ノ數字ハ其位ノ取方ニ依リ金額ノ多少ヲ致スヘケレハナリ約言セハ文字ヲ以テ右金額ヲ示サズ之ニ代フルニ數字ノミチ以テセシ原裁判ハ不

明ノ瑕瑾アリト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○金額ヲ示スニ當リ文字ヲ以テスルモ又ハ之レニ代フルニ數字ヲ以テスルモ何等ノ妨ケナキモノトス而シテ原判決ヲ查スルニ旬間報告書ニ云々後者ハ二〇九四トアルチ被告カ原調ヲ作成スルニ當リ一百圓ヲ増加シ一二〇九四ト虚偽ノ記載ヲ爲シタルモノトアレハ毫モ理由ニ齟齬又不備アルコトナシ』第三ハ又被告カ割戻調書ヲ偽造シタルコトハ原裁判ノ認定スル所ナレトモ之ヲ行使シタルコトハ該裁判ノ說明セサル所ナリ何トナレハ右裁判ハ「該調書ヲ原簿主任ノ村岡太一ノ管掌内ニ回付シ云々」トノ說明シ別言セハ該偽造ノ調書ヲ差回ハシタルノミニテ偽リ示シタルコトヲ說明セサレハナリ殊ニ原裁判ノ第二ニ係ル偽造事件ニ對シテ右裁判ニ左ノ說明アリ云々虚偽ノ納付高ヲ記入シ之ヲ偽造シ才藏ハ該原簿ニ基キ通達ヲ受ケ前項同様右増加高ノ五歩云々ヲ騙取シタリ要之偽造ノ割戻調書ニ基キ割戻金ヲ騙取シタルコトハ明白ナルモ其偽造ノ割戻調書ヲ差出シタルコトノ說明ナキ原裁判ハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○割戻調書（原調）ナルモノハ官廳ニ於テ常ニ備付ケアル所ノ文書ナレハ之ヲ偽造スレハ即チ同時ニ行使罪ノ成立スルモノニシテ第三者ニ交付シテ始メテ行使罪ノ成ルヘキモノニアラサレハ原判決ハ理由不備ニアラス

春水辯護人高木金之助擴張書第一ハ春水ノ上告趣意書ヲ敷衍スルニ過キサルヲ以テ重テ說明セス』第二ハ原判決ハ被告才藏ノ密書ナルモノヲ援用シ被告春水ノ犯罪ハ被告才藏ノ誘導ニ原由シタルモノト認定セラレタリ然レトモ此密書ナルモノハ被告才藏ニ對シ訊問ヲ爲シ且ツ讀聞ケラレタルニ止マリ被



告春水ニ對シテハ之ヲ示シ若クハ辯解セシメラレタルコトナシ原判決ハ法律ニ違背シテ犯罪關係事實ヲ認定シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ裁判長ハ茲ニ於テ檢事提出ノ密書ヲ被告ニ讀聞ケラレタリトアリ而シテ其末尾ニ於テ意見アルヤ否ヲ糺シタルコトノ記載アレハ本論旨ハ謂レナシ

信一郎辯護人花井卓藏新井要太郎擴張書第一ハ或ル所爲ヲ刑法第三百九十條ニ所謂恐喝ノ所爲ナリト斷定センニハ主觀的ニ加害者カ被害者ノ恐怖スヘキ所爲ヲ行ヒタルコト及ヒ客觀的ニ被害者カ之ニ恐怖シタル事實アルコトヲ要ス苟クモ此二箇ノ事實ニシテ完備スルニアラサレハ其所爲タル決シテ恐喝取財罪ニアラス而シテ原判決ハ事實ノ部ニ於テ被告元一郎友吉ハ云々信一郎ト共謀シ同人カ恐怖ノ念ヲ生シタルヲ見被告信一郎ノミ居残り同人ニ對シ壯士ハ彼ノ如ク騒キ居ルニ困ル之ヲ鎮撫スルニハ金カ必要ナレハ至急出金スヘシト迫リ云々金百圓ヲ騙取シ同夜被告三名ニテ之ヲ分配シタリト判示シ其末段證據ニ依リテ之ヲ認めタル理由ヲ掲ケルニ際シ單ニ被告等カ鐵道局不正事件ヲ追究シ求ムル所アラントシタルノ事實及金圓ノ授受アリシ事實ヲ認ムルニ足ルヘキ證據及ヒ理由ヲ掲ケタルニ止マリ毫モ被告等ノ不正事件追究ノ所爲ニ依リ被害者カ恐怖シタリシ事實即チ刑法上恐喝ノ客觀的要件タル事實ヲ認めタル證據ヲ明示セス是レ罪トナルヘキ事實ヲ證據ニヨリテ認めタル理由ノ明示ヲ欠ケルモノニシテ乃チ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル不法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ依

レハ茲ニ被告三名ハ才藏ニ對シ出金セサレハ曲事ヲ暴露シ隨テ壯士團體モ不穩ノ舉動ニ出ツルモ知ルヘカラスト恐喝ニ金員ヲ騙取セント共謀シ云々逸見才藏方ヘ押シ寄せ才藏不在ナルニ拘ハラヌ奥座敷ニ上リ込ミ才藏ノ歸宅ヲ待テ受ケケ同人ニ對シ前段ノ趣旨ヲ以テ恐喝シ同人ハ恐怖ノ念ヲ生シタルヲ見被告信一郎ノミ居残り云々金百圓ヲ騙取シタリトアリテ即チ才藏ハ被告等ノ爲シタル恐喝ノ爲メ恐怖シ遂ニ金員ヲ騙取セラレタルモノニシテ原院ハ其判文ニ掲舉シタル數多ノ證據ヲ綜合シテ右ノ事實ヲ認めタルコト判文上明白ナレハ證據ノ理由ニ於テ欠ケル所ナシ」第二ハ原判文ハ志村友吉ヨリ黒澤信一郎ニ宛テタル書簡ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリト雖モ其文詞ニ反シ「其舊冬ニ於テ金圓授受アリシナ云云シタルモノト解釋シ得ラルトナシ」云々ト判示シタルハ證據說明ノ理由ヲ缺ク違法アリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ志村友吉ヨリ黒澤信一郎ニ宛タル書狀ノ内容ヲ詳記シ以テ其末尾ニ於テ右ノ文詞ハ信一郎主張ノ如ク實ニ其舊冬ニ於テ金圓ノ授受アリシナ云々解釋シ得ラルト證據判斷ノ理由ヲ示シタルモノニシテ證據ノ說明ニ欠ケル所ナシ」同第二擴張書第一ハ或行爲ニ酬ユル謝金若クハ之レカ實費ヲ任拂フハ民事上ノ問題ニシテ刑律ヲ擬スヘキ事實ニアラス本件ニ於テ逸見才藏カ被告信一郎ニ金百圓ヲ贈呈シタルハ壯士鎮撫ノ效ニ酬ユル才藏ノ微意ニ過キス從テ一件記録中才藏カ壯士團體ノ行動ヲ厭ヒタル形跡アルモ金百圓ハ信一郎等ノ恐喝ニ畏怖シ其レカ爲メ騙取セラレタリトノ確ナル證據存在セス故ニ原裁判カ被告等ハ恐喝ノ手段ニ依リ金圓ヲ騙取シタリトノ認定ニ供スル

證據説明ニ至リテハ甚タ其當ヲ得サルモノアリ特ニ重要ナル證據中逸見才藏ノ豫審調書「才藏第三回」ヲ援用シテ「云々三十一年十二月三十一日ニ壯士宮澤外一名押掛ケ自分留守中自宅ニ上リ込ミ其内ニ自分歸宅シ壯士ニ面會シタル處新聞ニ演説ニ曲事ヲ暴露スヘシ考ハ如何ト脅迫サレタル處ニ黒澤カ來リ壯士ヲ歸シ云々」ト判示シタリト雖モ同調書ニハ「云々新聞ニ演説ニ暴露スヘシ於前ノ考ハ如何ト申シマスカラ自分モ如何ト考ヘテ居リマス内ニ黒澤カ來リ壯士ヲ歸シ云々」ト記載アリテ才藏ト平和ノ談話ヲ爲シタルコトハ疑ヒ無ルヘシト雖モ才藏ニ對シ刑事問題ト爲ルヘキ脅迫ヲ加ヘタリトノ證據更ニ看得ヘキ文言無シ是レ原院カ強テ被告ノ行爲ヲ恐喝取財ト判定セント欲シタルヨリ起リシ欠點ト謂ハサルヘカラス原裁判カ此記載無キ調書ノ文詞ヲ援用シテ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アル以上ハ其判決ノ不法タルヤ論ヲ俟タスト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷ニ付キ其解釋ヲ異ニシテ原院カ爲シタル事實ノ認定ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス」第二ハ原裁判ハ逸見才藏ノ第一審公判始末書ノ或部分ヲ援用シテ證據ニ供シタレトモ逸見才藏等ノ一審調書ハ第一回「十一月二十二日」第二回「十二月一日」第三回「十二月十一日」第四回「十二月十八日」第五回「三月十三日」共之ヲ作リタル年月日場所及ヒ係リ官吏ノ署名捺印ヲ缺キ悉ク刑事訴訟法第二十條ニ違背セル無効ノ書類ナリ該無効ノ書類ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ不法ナリ」第三點原院ニ於ケル公判調書ハ第一回「二月十三日」第二回「二月十八日」第三回「二月二十二日」共其結尾ニ書記並ニ裁判

長ノ署名捺印アリテ優ニ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ適合スト雖モ第四回「二月二十七日」最終ノ公判ニシテ辯論終了ノ日ノ公判調書ニハ「云々夫々下戻サレタリ」トノ文詞ヲ結尾ト爲シ何時何者カ何處ニ於テ調製セラレシヤノ記載無シ又之レヲ作リタル者ノ署名捺印無シ是レ刑事訴訟法第二十條ニ違背セル不法ノ手續ト謂ハサルヘカラス但同法第二百九條ハ特ニ公判始末書ニ記載セサルヘカラサル事項ヲ示シタル規定ニシテ第二十條ノ例外ニアラス第二百九條第二三項ニ該當スル事柄アルトキハ刑事訴訟手續ニ變更ヲ來スナ常トスルカ故ニ之ヲ特記スヘキ旨ヲ規定シタルナリ裁判所ニ於テ作ルヘキ調書ハ必ズ刑訴第二十條ニ從フヘクシテ他ニ例外ノ規定ナシ是レ刑事訴訟ノ散漫ヲ防ク訴訟法ノ精神ニ外ナラス既ニ原裁判ニ斯ノ如キ手續ニ違法アル以上ハ其判決モ亦全部違法タルヲ免レズト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ヲ查スルニ一回ヨリ五回ニ繼續シタル始末書ニハ一回毎ニ裁判所書記ノ契印ヲ爲シ最後ニ於テ明治三十三年三月二十日東京地方裁判所第三刑事部裁判所書記笹川慶次郎裁判長判事藤波元雄等ニ於テ各署名捺印シアリテ毫モ違法ノ點アルコトナシ又原院ノ第四回公判始末書ヲ觀ルニ其空白ノ所ニハ横線ヲ畫シ之ニ裁判所書記ノ認印ヲ施シ其末尾ニ於テ明治三十五年三月十一日東京控訴院ニ於テ裁判所書記北川銓總裁判長判事柿原武熊等ニ於テ各署名捺印シアレハ是亦違法ノ點アルコトナシ

信一郎元一郎辯護人高木益太郎辯明書第一ハ證人武田豐次郎ノ豫審調書（明治三十二年二月二十四日

附)ノ冒頭ニハ「村岡太一郎外四名及黒澤信一郎外二名被告事件ニ付證人武田豊次郎ニ對シ取調ヲ爲ス左ノ如シ」ト記載アリテ豫審掛ハ證人ニ對シ第一被告村岡太一ノ氏名ヲ誤ツテ村岡太一郎ト告知シタルヲ以テ被告太一ト證人トノ身分關係ノ有無ヲ調査シタルモノト見做ス能ハス第二右訊問ノ當時ニアリテ太一ノ共同被告ハ西川春水、逸見才三、森島友次郎、田中金次、大橋雅太郎ノ五名アリシニモ不拘豫審掛カ之ヲ太一他四名ノ被告ナリト誤解シタルヲ以テ證人ト被告全體トノ身分干係ヲ調査シ了リタルモノト認ムルヲ得ス果シテ然ラハ豊次郎ノ供述ハ之ヲ適法ノ證言ト看做スコト能ハサルニ原院カ輒シ證言ノ效アルモノトシテ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右證人ノ豫審調査ヲ查スルニ論旨ノ如ク村岡太一郎外四名トアレトモ其次ニ黒澤信一郎外二名ノ被告事件トアリテ同人ハ信一郎等ノ恐喝取財罪ノ事件ニ付訊問セラレタルコトハ其調査ニ徴シテ明カナリ而シテ原院ハ信一郎等ノ恐喝取財事件ノ證人證言トシテ之ヲ援用シタルコトハ判文上亦以テ明白ナリ左レハ其調査ニ假令村岡太一郎外四名トアリテ一名ヲ欠クモ右ハ證人ノ關係セサル事件ノ被告人ナレハ之カ爲メ豊次郎カ恐喝取財事件ノ爲メニ爲シタル證言ノ無効ニ歸スヘキ謂レナキヲ以テ原院カ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス」第二ハ野原よねハ黒澤信一郎宮澤元一郎等ノ恐喝取財事件ニ就テハ證人ノ資格アルモノナルニ豫審掛カ同事件ニ付宣誓ヲナサシメスシテ訊問シタルハ違法ナルヲ以テ其供述ハ有效ノモノニアラス故ニ之ヲ罪證ニ供シタル原裁判ハ不法ナリト云フニ在レトモ○假令證人タル資格ヲ有スルモノト

雖モ之ヲ參考人トシテ訊問スルハ法ノ禁セサル所ナルヲ以テ原院カ野原よねノ供述ヲ罪證ニ採用シタルハ不法ニアラス」第三ハ原院ハ證據書類中ノ葉書ニ記載アル文詞ヲ罪證ニ供シタルモ原公廷審問ノ際ニ於テ之レカ朗讀ヲナサハリシハ口頭審理ノ定則ニ違反セリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ該郵便葉書ハ被告才藏ヨリ反證トシテ提出シタルモノナレハ之ヲ朗讀シテ辯解セシムルノ要ナシ故ニ原院カ右葉書ヲ證據トセシハ不法ニアラス

元一郎辯護人弦間照太郎擴張書第一ハ原院ニ於テハ「被告元一郎友吉信一郎ハ才藏ニ對シ(中略)恐喝シテ金圓ヲ騙取セシコトヲ共謀シ明治三十一年十二月三十一日午後四時頃三人同道ニテ東京市芝區愛宕町一丁目十五番地逸見才藏方ニ押寄せ云々」ト判示セラレタルモ本件事實ヲ認メタル證據中一モ被告等三名カ才藏方ニ同道シタル旨ノ證據徵憑アルコトナシ否却テ被害者本人タル才藏ノ供述其他ニ於テモ元一郎友吉兩人ノミ才藏方ニ同道シタル旨記載セリ證據ノ取捨ハ固ヨリ原院ノ職權ニ屬スルモ證據ナクシテ事實ヲ妄斷スルノ權ナキハ言ヲ俟タス然ルニ原院ハ全ク證據ナクシテ元一郎等三名才藏方ニ同道シタルト判定セルハ不法ノ裁判ナリト信ス」第二本件ニ於テ金圓ヲ受取リタルハ黒澤信一郎ニシテ元一郎ノ如キハ毫モ金圓授受ニ關係セサルコトハ原院ノ認ムル所ナリ故ニ元一郎カ恐喝取財犯タルニハ信一郎等ト共謀セルノ理由ヲ明カニセサルヘカラス然ルニ原院ハ元一郎ヨリ信一郎ニ宛テタル本件成立後即チ明治三十一年二月八日附ノ端書ヲ以テ「被告共ハ鐵道局不正事件ヲ追究シ求ムル所

アテントシタル狀ヲ見ルニ足ル」云々ト説明シ以テ元一郎ト信一郎トノ間ニ他日何事ヲカ爲サントスル豫備ノ状態アルコトヲ知ルニ足ルヘキモ本件ニ於テ信一郎ト元一郎トカ共謀セリトノ理由ヲ説明セラルモノトスル能ハス從ツテ共謀ノ事實ニ付テハ全ク理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ列舉シタル各證據ニ依リ被告等三名カ共謀シテ共ニ才藏方ヘ押寄せタル事實ヲ認メタルモノニシテ其認メタル理由ハ明示シアレハ證據ニ依ラスシテ漫ニ事實ヲ認メタルモノニアラス」第三ハ被告元一郎カ黒澤信一郎ニ宛タル一月八日附ノ端書ハ斷罪ノ資料トスルニハ之ヲ被告ニ示シ且ツ辯解セシムルコトヲ要スルハ勿論尙ホ文書トシテ其内容ヲ證據トスルニハ其證據調ハ朗讀ノ手續ヲ經サルヘカラス然ルニ一審二審共ニ曾テ之レヲ被告ニ示サス又朗讀ヲ經サルニ拘ハラズ之ヲ斷罪ノ資料トセルハ刑事訴訟法ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ該手紙ハ讀聞ケ辯解セシメタル旨記載アレハ本論旨ハ謂レナシ

元一郎友吉辯護人岡本宏擴張書第一ハ原院判決ニハ被告元一郎友吉カ信一郎ト金圓騙取ヲ共謀セル旨事實ヲ認定セラレタルモ其共謀セルコトニ付之レカ證據トシテ明示セラレタルモノニアラス其證據書類トシテ舉ケラレタルモノ多クハ信一郎一人カ奇貨措クヘシトシテ恐喝シテ金圓ヲ取得セント企テ行動シタルコトヲ知り得ヘキモノニ過キサルノミ被告元一郎友吉ニ關スルモノトシテハ「信一郎ト共ニ元一郎友吉モ逸見方ニ到リシ事」信一郎カ自己ニ受取リシ文言是レアルノミ然レトモ是亦元一郎友吉

ニ幾分ヲ與ヘシコト」ノ記載ハ素ヨリ被告元一郎友吉ノ非認セサル事實ニシテ而カモ其趣旨タルヤ「信一郎ニ頼マレ平井カ己ムナク告發スルニ立到リシヲ知ラシメノ爲メニ行キシ」ト云フニ止マリ恐喝取財ノ手段トシテ然リシ意味且又ハ金圓ヲ得ル目的ニテ然リシ意味ノ文言トハ斷定シ難ク以テ金圓騙取共謀ヲ認定スル爲メノ證據トシテ舉ケラレタルモノト見ルニ由ナシ又金ヲ受取リシコトモ「逸見ヨリ恐喝シテ得タル事情ヲ告ケス自己ノ金トシテ自己ノ顔ヲ立テ吳レシ禮ヲスルト云フ意味ニテ信一郎自身ヨリ進ンテ與ヘ吳レシ」意味ノモノニ外ナラスシテ是亦逸見ニ對スル恐喝取財的金圓ヲ分與セリトノ文言ニアラス他ニモ遂ニ金圓騙取ヲ共謀セルノ證據ノ明示アラス以テ共謀點認定ノ證據明示トシテ見ルヘキモノ之レナキナリ是レ證據ノ明示チ欠ク違法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ列舉シタル諸般ノ證據ニ依リ被告等カ共謀シテ恐喝取財ノ犯罪行為ヲ爲シタル事實ヲ認メタル事ハ判文上明白ナリ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ判斷ヲ非難スルニ過キザレハ上告ノ理由ナシ

第二ハ原院判決ハ「茲ニ被告三名ハ才藏ニ對シ出金セサレハ曲事ヲ暴露シ隨テ壯士團體モ不穩ノ舉動ニ出ツルモ知ルヘカラスト恐喝シ金圓ヲ騙取セントシテ共謀シ」ト認定セラル此トキ茲ニ初メテ被告元一郎友吉カ信一郎ト金圓騙取ノ共謀ヲ爲シタル如ク見ユルモ然カモ其前ノ方ニ「偶マ被告信一郎ニ會合シ右事情ヲ告ケタルニ信一郎ハ万事自分ニ任セヨト云ヒ夫レヨリ平井及被告才藏等ニ對シ壯士鎮

撫ノ名ヲ以テ出金セシムル所アラントセシモ云々トアリテ此場合已ニ共謀アリト認定セラレタルモノノ如ク見ユ其執レノ場合何レノ人ニ對スル恐喝的金圖騙取ノ共謀ヲ爲セシト云フニ在ルヘキカ事實理由ノ不備ヲ致セル判決ナリト思フト云フニ在レトモ○右論旨ノ後段ニ引用シタル原判文ノ場合ニ於テハ未タ共謀アラスシテ前段ヲ引用シタル「共謀」トアル場合ニ於テ才藏ニ對シ恐喝センコトヲ共謀シタルコトハ判文上明白ナルヲ以テ理由ノ不備アル裁判ト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年五月二十六日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○謀殺ノ件

明治三十五年(レ)第六八六號  
 明治三十五年五月二十六日宣告

○判決要旨

一豫審終結決定書ノ正本ニ形式上ノ瑕疵アルモ爲メニ決定ノ確定ヲ妨クルモノニ非ス

第一審 千葉地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 鈴木治助

辯護人 高野金重

外二名

右謀殺被告事件ニ付明治三十五年三月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告三名ヨリ上告ヲ爲シテ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
 被告治助ノ上告趣意書ハ原判決ハ理由不備且違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○其違法ナリトスル點ヲ指示セサルヲ以テ説明ヲ與フルニ由ナシ

被告清次郎ノ上告趣意書ハ要スルニ第一被告等ハ被害者ニ對シ殺意ヲ有セス然ルニ被害者ハ兇器ヲ携ヘ暴行ヲ爲スニ因リ防禦ノ爲メ應戰シタルノミ然ルニ原院カ故殺トシテ處斷シタルハ不當ナリ況ンヤ被告ハ現ニ鬭争ニ加功セサルニ於テオヤト云ヒ」第二本件ノ自訴者タル鈴木治助ノ申立ハ眞實ニ非ス然ルニ原院カ之ヲ證據トシタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○證據ヲ取捨シテ事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ其取捨認定ヲ非難シテ上告ノ理由トナスヲ得ス

豫審終結決定正本ノ瑕疵

被告長吉ノ上告趣意書ハ要スルニ被告ハ闘争ノ際多人數ニ打交リタルハ事實ナルモ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺傷シタルモノニアラス然ルニ第一審第二審ノ判決ニ於テ手ヲ下シタルカ如ク認定シタルハ不當ナリト云ヒ」其擴張書ハ前後三回ニ渉ルモ要ナルニ被告ハ中林幸治ヲ殺害シタルモノニアラス然ルニ原院カ鈴木治助ノ虚偽ノ申立ヲ信シ被告ヲ故殺罪ニ問擬シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○是亦原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ナシ

被告治助ノ擴張辯明書ハ要スルニ辯護人ノ擴張書第五點ト同一趣旨ナルヲ以テ其説明ハ後ニ讓ル

辯護人高野金重、擴張書第一點ハ原判決ニハ「被告清次郎治助長吉ハ幸治ノ逃ルヲ視テ之ヲ殺シ後日ノ患ヲ除カント決意シ云々」ト判示シ被告三名カ殺意ヲ決シタルコトハ認定シアルモ被告三名カ幸治ヲ殺害センコトヲ共謀シタルノ事實ヲ認定シタルコトナシ已ニ共謀ニ非ストセハ何人カ如何ナル創傷ヲ負ハシメタルヤヲ判定シ尙何人ノ負ハシメタル創傷ニ因リテ被害者カ死亡シタルヤヲ判定シタル後ニ非サレハ被告等ニ謀殺已遂ノ刑ヲ科スルコトヲ得サルヤ勿論トス然ルニ原判決ハ「治助ハ銃ヲ發シテ幸治ノ右胸ヲ射中シ云々幸治カ倒レタルニ乘シ清次郎長吉ハ仕込杖ヲ以テ幸治ヲ斬リ云々所々ニ合計十箇ノ重傷ヲ負ハセ亡血ノ爲メニ即時死ニ至ラシメタルモノナリ」ト判示シ何人ノ負ハシメタル創傷ニ因リ被害者ノ死ヲ生シタルヤヲ判定スルコトナク共謀ノ關係ナキ被告等三人ニ全部ノ責任ヲ負ハシメ謀殺既遂ヲ以テ論シタルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル理由不備ノ不法アルモノト信スト云

フニ在レトモ○原院ハ被告等ノ所爲ヲ以テ故意ヲ以テ人ヲ殺シタルモノト認メ刑法第二百九十四條ニ依リ處斷シタルモノニシテ謀殺既遂ヲ以テ論シタルモノニアラス而シテ原判決ニ依レハ「家ヲ圍ミ雨戸ヲ破壊シ銃ヲ放テ闘ヲ挑ミ幸治カ急遽脱出シ圖リ屋外ニ出ツルヤ被告清次郎治助長吉ハ幸治ノ逃ルヲ視テ之ヲ殺シ後日ノ患ヲ除カント決意シ云々」ト判示シアリテ被告等カ共通ノ意思ヲ以テ各手ヲ下シテ幸治ヲ殺害シタルコト明カナレハ被告等三人ハ共ニ故殺罪ノ責ヲ免カレサルヲ以テ原院カ各被告ノ負ハシメタル創傷ヲ一々區別セザリシトテ理由不備ト論スルヲ得ス

同第二點ハ原判決ニハ被告等ハ田口初太郎方ニ押寄せ家ヲ圍ミ雨戸ヲ破壊シタルトノ事實ヲ認定セリ然ルニ其雨戸ヲ破壊シタルトノ點ニ付キ何等ノ判決ヲ爲スコトナシ是即チ刑事訴訟法第二百六十九條第七ニ所謂請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サ、ルモノニシテ同法則ニ背キタル不法ヲ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ右雨戸ヲ破壊シタル點ニ付テハ檢事ノ起訴ナキヲ以テ原院カ判決ヲ爲サ、リシハ相當ニシテ不法コアラズ

同第三點ハ原判決主文ニハ押收ノ銃丸二箇ハ沒收スヘキ旨ヲ判示セリ而シテ原院ノ公判始末書ヲ見ルニ檢事ハ沒收ノ刑ニ對スル法律適用ニ付キ意見ヲ陳述シタル旨ノ記載ナシ左レハ原判決ハ刑事訴訟法第二百二十條ニ違背セル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ檢事ハ被告等ノ控訴ハ棄却セラルヘキモノナリ云々ト述ヘタル旨ノ記載アリ而シテ第一審判決ニ於テ右物件ハ沒

收スル旨言渡シタルモノナレハ檢事ノ意見ハ沒收ノ點ニ及ヒタルヤ明カナルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

同第四點ハ原判決カ證據ニ採用シタル杉本喜太郎ノ聽取書ハ我孫子警察分署長警部徳元初太郎カ其職務ニ因リ作成シタルモノナルモ同書類ニハ書記巡查増淵末吉ト記載アリテ警部自身ノ署名シタルモノニアラスシテ全部即チ警部ノ署名ヲモ同巡查ノ筆記シタルモノナル事其書類ニ徴シ明白ナリトス左レハ右聽取書ハ官吏ノ作成ニ係ルモ作成者タル警部ノ署名ナキモノニシテ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ノ書類ナルニ原判決カ採テ證據ニ供シタルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ○右聽取書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ作成スヘキ書類ニアラサルヲ以テ假ニ所論ノ如ク同法第二十條ノ規定ニ適合セサル所アリトスルモ無効ノ書類ト云フヘカラス故ニ原院カ之ヲ證據ト爲シタルモ不法トセス

同第五點ハ本件被告鈴木治助ニ送達セラレタル豫審終結決定書正本ニハ千葉地方裁判所書記秦野健ニト記載シ其名下ニ書記ノ印ノ押捺アリ而シテ同氏ハ書記ニ非スシテ豫審判事タリシコトハ本件記録ニ徴シ明白ナル事實ニシテ同正本ハ書記ノ認證ナキ無効ノモノナリトス左レハ結局治助ニ對シテ豫審終結決定書ノ送達ナカリシモノコシテ刑事訴訟法第七十一條ニ違背シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○豫審終結決定書ノ正本ニ所論ノ如キ形式上ノ瑕疵アルモ爲メニ右決定ノ確定ヲ妨クルモノニアラス而シテ豫審終結決定ハ已ニ確定シタルモノナレハ之ヲ非難シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十六日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十五年(九)第七二一號  
明治三十五年五月二十六日宣告

○判決要旨

一 刑事訴訟法中證人ノ訊問調書及ヒ宣誓書ニ被告事件ヲ明記スヘキ旨ノ特別規定アルコトナシ從テ其記載ナキモ無効ニ非ス

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 長屋 豪善

辯護人 岡崎正也

右詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十五年三月二十四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ノ理由ニ依レハ長瀧寺境内ニ存在セシ立木ハ明治三十二年四月火災ノ際伐木シタルモノニシテ其際阿名院迄歸來シタル被告カ之ヲ知了セサル筈ナケレハ被告ハ金員騙取ノ目的ヲ以テ現存セサリシ立木ヲ賣却スルノ契約ヲ結ビタルモノト推定スルニ足レリト云フニ在リ然リト雖モ火災ノ際伐リ倒セシ事實ハ木ノ存否ニ關係ナク後日三島榮太郎ニ於テ被告ニ何等ノ報告スル所ナクシテ之ヲ他ニ賣却シタルヲ以テ存在セサルニ至リタルハ一件記録ノ表明スル所ナリ果シテ然ラハ存在セサル木ヲ賣却スルノ契約ヲ結ビタルト云ハント欲セハ三島等カ之ヲ他ニ賣却シタル事實及被告カ之ヲ知了スルノ事實證據ヲ舉示セサルヘカラサルハ視易キ道理ナルコト付原院ノ判決カ說明ノ此處ニ及ハサリシ

ハ理由不備ノ判決タルヲ免カレサルモノト思料スト云フニアレトモ○右ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ニ對シテ不服ヲ申立ツルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス辯護人岡崎正也上告趣意擴張書ハ本件原裁判ノ引用セシ證人三島榮太郎豫審訊問調書ニハ被告事件ノ記載ナク又其宣誓書ニモ其記載アルコトナシ如此調書ハ如何ナル事件ノ證人調書ナルヤヲ確ムルニ由ナキヲ以テ無効ノ調書ナルコトハ先例ニ於テ定メラレタル所ナリトス(明治二十九年四月九日大審院判決同年第二九八號)故ニ原裁判ニ於テ右調書ヲ採用シ本件犯罪事實認定ノ材料ニ供シタルハ全ク違法ノ裁判ナリト信スト云フニアレトモ○證人三島榮太郎豫審調書並ニ其宣誓書ニ被告事件ノ記載ナキコトハ所論ノ如シト雖モ同人ハ本件被告ノ詐欺取財事件ニ付キ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ宣誓ノ上供述ヲ爲シタルモノニシテ原審ニ於テ援用シタル豫審調書ハ即チ其供述ヲ錄取シタルモノナルコトハ豫審調書ノ記載ニ徴シテ明カナルノミナラス刑事訴訟法中證人ノ訊問調書及ヒ宣誓書ニ被告事件ヲ明記スヘキ旨ノ特別規定ナケレハ三島榮太郎ノ調書及ヒ其宣誓書ニ被告事件ノ記載ナケレハトテ其調書ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得ス但シ辯護人ノ援用セル當院明治二十九年四月九日ノ判決ニハ所論ノ如キ判旨アレトモ右ノ判例ハ其後ノ當院ノ判例ニ依テ變更セラレ當院ハ新判例ヲ維持スルヲ相當ナリト認ム故ニ原院カ該調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス



明治三十五年五月二十六日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

○商法違反ノ件

明治三十五年(戊辰)第七二二號  
明治三十五年五月二十六日宣告

○判決要旨

一 商法施行法第九十四條ハ同法第九十三條ノ例外規定ナリトス從テ私設鐵道株式會社ニ舊商法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ場合ニ於テ其行爲カ私設鐵道條例改正以前ニ生シタルモノナルトキハ右例外規定タル第九十四條ニ依リ舊商法ヲ適用スヘキモノニシテ第九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス(判旨第一點)

(參照) 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス(商法施行法第九十三條)

私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス(商法施行法第九十四條)

一 豫審終結決定書ノ前書ニ被告人一同ノ氏名ヲ登載シアルモ其決定書ニシテ檢事ノ抗告ニ係ル被告人中ノ一人ニ對スル決定ヲ更正シタル新決定書ナルコト明カナル以上ハ該抗告ニ關係ナキ被告ニ對シ何等ノ效力ヲモ有セス(判旨第三點)

私設鐵道株式會社ノ商法違反○豫審終結決定書ノ更正

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 青樹 英二 辯護人 高木益太郎  
外二名

右商法違犯被告事件ニ付明治三十五年三月十七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ノ第一ハ法律適用ノ部ニ於テ商法施行前舊商法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルヲ以テ商法施行法第九十三條ニ依リ舊商法第二百六十二條ヲ適用シ被告等ヲ各罰金ニ處ストノ判決ハ不法ナリ何ントナレハ私設鐵道株式會社ニ關シテハ商法施行法第九十四條ニ依リ舊商法ヲ適用ス

判旨第一點

ヘキモノニシテ商法施行法第九十三條ヲ適用スヘキモノニアラサレハナリト云フニ在リ〇依テ按スルニ商法施行法第九十三條ハ商法施行前ニ生シタル行爲ニシテ舊法中會社ニ關スル罰則ニ觸ルモノニ付テハ一般規定ニ屬シ同第九十四條ハ商法施行ノ前後ヲ問ハス又ハ罰則ニ觸ルモノナルト否トヲ論セス私設鐵道條例改正以前ニ生シタル行爲ニシテ特ニ私設鐵道株式會社ニ關スルモノニ付テハ特別規定ナリトス乃チ第九十四條ハ第九十三條ノ例外ニ屬スルヲ以テ私設鐵道株式會社ニ付テハ第九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ本件ノ如ク商法施行前ニ生シタル行爲ニシテ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキモノニ該當シ第九十三條ノ規定ニ適合スル場合ト雖モ其行爲カ私設鐵道條例改正以前ニ生

シ且私設鐵道株式會社ニ關スルモノニシテ同時ニ第九十四條ニ適合スルニ於テハ特別規定タル第九十四條ニ依リ舊商法ヲ適用セサル可カラズ而シテ私設鐵道條例ハ明治三十三年法律第六十四號鐵道法ヲ以テ改正セラレ同法ハ同年十月ニ至リ施行セラレタルモノニシテ本件ノ行爲ハ私設鐵道條例改正以前ニ在ルヲ以テ原判決ハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ不法タルヲ免レス

第二ハ舊商法第二百六十二條ニ於テ罰スル所ノ虛偽ノ報告ハ會社財産ノ現況ニ關シ又ハ業務ノ實況ニ關スル場合ニ限ル其他ノ虛偽ハ虛偽ト雖モ同條ニ依リ罰セサルナリ故ニ同條ヲ適用スルニハ會社財産ノ現況ニ關シテ虛偽ノ報告ヲ爲シタルカ又ハ業務ノ實況ニ關シテ虛偽ノ報告ヲ爲シタルカノ明示ナカ  
ルヘカラス然ルコ原判決ニハ株主總會ニ對シ事實相違ノ報告ヲ爲シタリトノミニシテ前記二個ノ虛偽何レノ虛偽報告ヲ爲シタルヤノ明示ナキハ全ク法律適用ニ付理由ヲ附セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ〇然レトモ原判文ニ依レハ被告榮次郎等ハ其家族ノ名義トナシ置キタル空株等合計九百二十三株ハ第一回株金拂込ノ時ヨリ曾テ拂込ミタルコトナキニシテ假裝シ第一回乃至第三回ノ全部及ヒ第四回ノ幾分ヲ拂込ミタル旨株主總會ニ報告シタルトノコトナルヲ以テ所謂會社財産ノ現況ニ關シ不實ノ報告ヲ爲シタル事實明白ナリトス故ニ原判決ハ其理由ニ於テ欠クル所ナシ

辯護人高木益太郎辯明書第一點ハ本件記録ヲ精査スルニ明治三十四年四月二十五日豫審判事津末有隣其終結決定ナシ之ヲ被告ニ送達シタリ而シテ同月二十七日檢事佐々木盛ヨリ相被告山内民三郎ノミ

判旨第三點

ニ對シテ抗告ヲ爲シタルニ豫審判事津未有隣ハ同月二十九日更正權ナキ他ノ被告ニ對シテモ其終結決定ヲ更正シタリ是明ニ刑事訴訟法第二百九十六條ニ違背セル不法ノ更正ナリ且ツ豫審判事ハ其更正決定書ヲ山内民三郎ノミニ送達シテ相被告タル上告人等ニ送達セサルハ刑事訴訟法第七十一條ニ違背シタルモノニシテ本決定ハ送達ヲ受ケサル上告人等ニ對シテハ何等效力ナキモノナリ從ツテ公判裁判所カ右決定ノ送達アリタルモノト誤解シ公訴ヲ受理審判シタルハ法則ニ違反セリト云フニ在リ

〇依テ四月二十九日附ノ豫審決定書ヲ閱スルニ其前書ニ被告青樹英二等ノ氏名ヲ登載シ一見同人等ニ對スル決定ノ如クナリト雖モ右ハ檢事ノ抗告ニ係ル山内民三郎ニ對スル決定ヲ更正スルニ當リ民三郎ニ對スル新決定書トシテ之ヲ作成シタルモノニシテ該抗告ニ關係ナキ英二等ニ對シテハ何等ノ效力アルモノニ非ス則チ英二等ニ對スル決定ハ四月二十五日附決定書ハ送達ニ依リ既ニ確定シタルモノニシテ第一審裁判所ハ此決定ニ依リ公訴ヲ受理シタルモノナリ又第二決定ハ英二等ニ關係ナキ以上ハ之ヲ同人等ニ送達セサルハ當然ナルヲ以テ上告論旨ハ理由ナキモノトス

第二點ハ本件ニ就テハ刑事訴訟法第二百十八條ニ違背スル不法アリ津末豫審判事ノ更正シタル終結決定ノ違法無效ナルハ前段第一ニ論述スル所ナリ然ルニ第一審公判始末書明治三十四年十二月十一日ノ部分ヲ視ルニ「檢事ハ本年四月二十九日附豫審終結更正決定書ニ記載ノ通り被告事件ノ陳述ヲナシ舉證ス」トアレトモ被告ニ送達セラレ且ツ檢事ヨリ抗告ナカリ明治三十四年四月二十五日附上告人ニ

對スル豫審終結決定書ニ就テハ被告事件ノ陳述ヲナシタル事跡ナシ即チ第一審裁判所ニ於テハ前記ノ法條ニ違反シタル事跡アルニモ不拘原院カ之ヲ是認シテ控訴棄却ヲ言渡シタルハ不法ヲ裁判ナリト云フニ在リ

〇然レトモ四月二十五日附決定書ト四月二十九日附決定書トヲ對照スルニ其記載事項ハ何レモ上告人等ニ對スル被告事件ニシテ唯前者ニ在テハ山内民三郎ニ對スル被告事件ノ罪證ヲ十分ナラストシ後者ニ在テハ之ヲ十分ナリトスル外二者毫モ異ナル所ナシ左レハ民三郎ニ對シテモ罪證十分ナリトシ合セテ上告人等ノ被告事件ヲ陳述スル場合ニ於テハ其實實ハ當然後者即チ更正決定書ノ如クナラサルヲ得サル筋合ナリトス是蓋始末書ニ「檢事ハ更正決定書記載ノ通被告事件ノ陳述ヲ爲シ」云々トアル所以ニシテ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ

第三點ハ原院裁判ハ不法ノ第一審判決ヲ認可シテ上告人孫一郎鐵藏ノ控訴ヲ棄却シタリ第一審公判始末書ヲ查スルニ明治三十四年十二月十一日及十八日ノ兩回公判ヲ開廷シタルモノ、如シ然ルニ其第二回公判期日ハ第一回公判閉廷ノ際之ヲ告知セス又タ其後公判開廷ノ通知ヲ爲サスシテ直チニ公判ヲ開廷シタルヲ以テ辯護人ノ出廷ナシ是即上告人等ノ辯護權ヲ蹂躪シタルモノナリ然ルニ原院ハコノ違法ヲ看過シテ上告人等ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

〇原院公判始末書ニ依レハ本件ノ辯論ハ十二月十一日ニ於テ既ニ終結シタルモノニシテ同月十八日ニ在テハ單ニ判決ヲ言渡シタルニ過キス而シテ辯護人ヲ用ユルノ要ハ專ラ辯論ノ爲メナルコト刑事訴訟法ノ明示スル所ナルヲ以テ既ニ

辯論ヲ終結シタル以後ニ在テハ法律上辯護人ヲ用ユルノ要ナク從テ其以後ニ於ケル開廷ノ期日ヲ辯護人ニ通知セサルヲ得サルモノニ非ス故ニ第一審判決ハ相當ナルヲ以テ原院カ控訴ヲ棄却シタルハ不法ニ非ス

第四點ハ原院公判始末書ノ冒頭ヲ見ルニ「問如何ナル點カ不服ナリヤ被告三名ハ何レモ原判決中三名共謀ト認メタル點カ不服テ控訴シマシタト答述シタリ」トアリ是明ニ上告人等ハ本點ニ限リテ控訴シタル一部控訴ナリト言ハサルヲ得ス然ルニ原院カ其全部ヲ審判シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第七ニ該當スル不法アリト云フニ在レトモ○本件控訴ハ原判決ノ全部ニ對スルモノナルハ控訴申立書ニ依リ明白ナルノミナラス右共謀ノ點カ不服ナリトノ陳述ハ控訴ノ理由ニ外ナラス要スルニ本論旨ハ判決ノ一部全部トハ如何ナルモノナルヤヲ辨セサルニ因ルモノニシテ固ヨリ上告ノ理由トナルヘキモノニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ上告趣意第一點ニ基キ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同第二百八十七條ニ依リ本院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

右

青 樹 英 二

深 山 孫 一 郎

大 橋 鐵 藏

原院ノ認定・タル事實ニ基キ之ヲ法律ニ照スニ英二ノ所爲ハ商法施行法第九十四條舊商法第二百六十二條第一項第一號ニ該當シ孫一郎鐵藏ノ所爲ハ前示ノ法條及ヒ舊商法第二百六十二條第二項ニ該當ス依テ英二ヲ罰金四百圓ニ處シ孫一郎鐵藏ヲ各罰金三百圓ニ處ス押收シタル書類ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ差出人ニ還付ス公訴裁判費用金五圓ハ刑法第四十五條及ヒ第四十七條ニ依リ被告ニ於テ連帶負擔スヘシ

明治三十五年五月二十六日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○詐欺取財及附帶私訴ノ件

明治三十五年(也)第八六七號  
明治三十五年五月二十七日宣告

○判決要旨

一 檢證調書ハ豫審判事ノ作成スヘキモノニシテ書記ハ之ヲ錄取スル  
モノトス(刑事訴訟法第百三條)從テ書記カ判事ノ口述ニ基キ該調書  
ヲ作成スルハ當然ナリトス

(參照) 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ  
模樣ニ付キ調書ヲ作ル可シ又被告人ノ利益ト爲ル可キ模樣ヲモ記載ス可シ(刑事訴訟  
法第百三條)

第一審 和歌山地方裁判所

第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 石橋 吉松

公訴上告人 崎 中 善楠

辯護人 今村力三郎

私訴被上告人 岡本伊左衛門

右吉松善楠ニ對スル詐欺取財事件及ヒ附帶ノ私訴ニ付明治三十五年四月一日大阪控訴院ニ於テ言渡シ  
タル判決中被告吉松ハ公私訴ノ判決ニ對シ又被告善楠ハ公訴判決ニ對シ各上告ヲ爲シタリ  
被告吉松、善楠公訴判決ニ對スル上告趣意書ハ原判決ハ理由ヲ付セサル不法アリ原判決事實ノ摘示中

「被告徳松、吉松、善楠ハ共謀シテ」云々「被告共ハ騙取ノ目的ヲ遂ケタリ」トアリ而シテ其事實ヲ認定  
セラレタル理由ハ第一岡本伊左衛門ノ豫審調書ヲ援用セラレ第二鑑定人ノ鑑定ヲ援用セラレタル外何  
等ノ證據ナク而モ右援用セラレタル證據中上告人ニ關スル何等ノ事項ナキニ拘ハラス漫然以テ上告人  
ノ共謀セシトノ事實ヲ認定セラレタルハ證據ニ據ラスシテ事實ヲ確定セラレタルモノニシテ即チ理由  
ヲ付セサルニ歸ス右ハ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ該當セル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ  
○證據ノ趣旨ヲ解釋シ依テ以テ犯罪事實ヲ認定スルハ原承審官ノ自由判斷ニ屬スルモノナレハ其證據  
ノ多寡或ハ證據ノ效力如何ヲ論據トシ事實ノ認定ヲ論争スルヲ得ヘキモノニアラス故ニ本論旨ハ理由  
ナシ  
被告吉松私訴判決ニ對スル上告趣意書ハ詐欺取財公訴事件第二審判決ハ理由ヲ付セサル違法アル而已  
ナラス上告人ハ犯罪事實ニ加功シタル事ナキヲ以テ私訴ノ請求ニ應スヘキ理由ナシト云フニ在レトモ  
○公訴上告趣旨並ニ擴張書ニ對シ説明スル如ク公訴ノ上告ニシテ理由ナキ上ハ從テ私訴上告モ其理由  
ナシ又後段ノ論旨ハ全ク原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ論難スルモノナレハ素ヨリ上告ノ理由トナ  
ルヘキモノニアラス

辯護人今村力三郎上告趣意擴張書ノ第一點原判決事實ノ末段ニ即日前記能澤方ニ於テ内金四百圓同月  
十日登記結了後同家ニ於テ殘金二百圓合計金六百圓ヲ伊左衛門ヨリ受取リ以テ被告等ハ騙取ノ目的ヲ

遂ケタリトアリテ何人カ伊左衛門ヨリ受取リタルヤチ明示セス若上告人吉松カ之レヲ受取リタリトセ  
 ハ吉松ハ伊左衛門ニ對スル直接ノ債務者ナルヲ以テ之ヲ受取ルハ當然ニシテ他ノ被告タル上告人善楠  
 等ニ之レカ共犯タル責任ヲ負ハシメンニハ更ニ善楠カ責任ヲ負フヘキ他ノ事實(例之ハ共犯加功者ノ  
 ハ賊金ノ分配等)ナカルヘカラス然ルニ原判決ハ更ニ上告人善楠カ是等ノ行為アリタルヤ否ヲ明示セ  
 ス理由不備ノ判決タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判文ヲ查スルニ本件詐欺ノ手段タル地所抵當ノ  
 名義人ハ被告吉松ニシテ其判文ノ末尾ニ「被告吉松ハ云々前記熊澤方ニ於テ内金四百圓同月十日登記  
 結了後同家ニ於テ殘金二百圓合計金六百圓ヲ伊左衛門ヨリ受取リ云々」トアレハ其金員ヲ受取リタル  
 ハ吉松ナルコト知ルヘシ而シテ其事實理由ノ冒頭ニ「被告德松吉松善楠ハ共謀シテ云々伊左衛門ヲ欺  
 キ金員ヲ騙取セント欲シ云々」ト掲ケアリテ被告等ハ各其分擔スル所ヲ實行シタルニ過キサルモノナ  
 レハ被告善楠ニ共犯タル責任ヲ負ハシムルニ付時ニ加功等ノ事實ヲ明示セサルヲ以テ理由不備ノ判決  
 ト云フヲ得ス」第二點消費貸借等民法上ノ法律行為ノ外形ヲ裝ヒ詐欺取財罪ヲ犯シ得サルニアラスト  
 雖モ斯ル犯罪ノ成立ニハ必ツ民法上ノ辨濟義務ヲ負擔セルモノニ於テ行為ノ當時全然辨濟ノ意志ナキ  
 ナ要ス債務者ニ於テ抵當物件ノ價格ヲ誇張シ若クハ數量、目的物等ニ關シ眞實ニアラサル陳述ヲナス  
 モ債務履行ノ意志アル時ハ未タ以テ詐欺取財トナスニ足ラサルナリ本件原院ノ認定ハ唯抵當物件ニア  
 ラサル地所ヲ指示シ被害者ヲ錯誤ニ導キタリト云フニ止リ債務者タル吉松ニ辨濟ノ意思ナキ事實ヲ認

メス或ハ既ニ騙取トアル以上ハ辨濟ノ意思ナキハ勿論ナリト説明スルモノアラシクナレトモ辨濟ノ意  
 思ナキコトヲ認メテ後騙取ト云フヲ得ヘク換言スレハ騙取ハ辨濟ノ意思ナキヨリ生スル斷定ニ過キサ  
 レハ原判決ノ如ク債務者ニ辨濟ノ意思アリシヤ否ヲ認定セスシテ消費貸借タル法律行為ヲ騙取ノ所爲  
 ナリト斷定スル能ハサルナリ故ニ原判決ハ騙取ノ意思ナキモノニ對シ詐欺取財ノ刑ヲ適用シタルモノ  
 ニシテ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ冒頭ニ於テ被告等ハ共謀シテ本件地所ヲ欺罔手段  
 ノ材料トナシ伊左衛門ヲ欺キ金員ヲ騙取セント企テタル事實ヲ認メ其以下之レヲ騙取スルノ手段方法  
 ヲ説示シアレハ債務者ノ名義主タル吉松ハ勿論善楠ニ於テモ辨濟ノ意思ナキコト即チ騙取ノ意思アル  
 ナ説示シアルコトハ明白ニシテ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ」第三點本件第一審判決ハ上告人等ハ岩  
 崎八助和田德太郎ト共謀シテ詐欺取財罪ヲ犯シタリト認定シ第二審判決ハ前記兩名カ上告人等ノ詐欺  
 取財罪ニ共謀加功シタリトノ證據十分ナラスト認定セリ抑共犯人ノ數ハ第一犯罪ノ構成ニ關シ第二犯  
 罪ノ情狀ニ關シ最重要ナル事實トス加之上告人等ハ公訴セラレタル事實ハ八助、德太郎ト共謀シテ  
 詐欺取財罪ヲ犯セリト云フニ在レハ八助德太郎カ共犯者ニアラスト、判決ハ上告人等カ訴追セラレタ  
 ル公訴ノ事實ニ變更ヲ與ヘタルモノトス如斯第二審ノ判決ハ第一審判決ト事實ノ認定ヲ異ニシ而モ其  
 事實ハ重要ナルコト拘ハラス第一審判決ヲ取消サ、ルハ違法ナリト確信スト云フニ在レトモ○共犯者ノ  
 多寡ハ被告ノ犯罪成立ニ何等ノ關係ヲ有セザレハ原院カ被告ノ共犯者トシテ第一審カ認メタル八助、

德太郎ノ兩名ヲ無罪トセシトテ爲メニ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ故ニ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却セシハ相當ナリトス』第四點第一審判決ニ採用シ斷罪ノ證憑ニ供シタル豫審判事ノ檢證調書ハ左ノ四個ノ理由ニ依リ違法無効ノモノトス(一)豫審判事カ臨檢地ニ於テ訊問シタル證人岡本伊左衛門ニ對シ刑事訴訟法第百十條第百二十二條ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメサル事(二)豫審判事ハ證人岡本伊左衛門ニ對シ刑事訴訟法第百二十三條ノ證人タル資格ニ關スル訊問ヲナサ、ルコト(三)豫審判事ハ證人ニ對シ刑事訴訟法第百三十一條ニ從ヒ岡本伊左衛門ニ調書ノ讀聞ケヲ爲サ、ルコト(四)臨檢地ニ於テ作成シタル調書ニアラサルコト證人岡本伊左衛門カ唯檢證ニ立會ヒタルニ止マラス證人トシテ事實上ノ訊問及供述ヲ爲シタルコトハ檢證調書ノ記載ト同人カ證人トシテ署名捺印セルニ依テ明白ナリ果シテ然ラハ豫審判事ハ一般ノ規定ニ從ヒ前段摘示ノ法條ヲ遵守セサル可ラサルニ總テ是等手續ノ欠如セルハ該檢證調書ノ無効ノ理由トシテ最顯著ナルモノナリト信ス又調書ハ總テ訊問ノ場所又ハ檢證若クハ差押ノ場所ニ於テ作成スヘキモノタルコトハ調書ノ性質ヨリ推理スルモ亦刑事訴訟法第九十二條ノ法文ヨリ解釋スルモ明白ニシテ疑ヲ容レズ然ルニ本件檢證調書ハ海草郡西和佐村役場ニ於テ判事ノ口述ニ依リ此調書ヲ作成ストアリテ判事ノ記憶セル事項ヲ臨檢地以外ニ於テ書記ノ錄取シタル一ノ聽取書ニ過キス檢證調書トシテ效力アルモノニ非ス第一審判決ハ此違法ノ檢證調書ヲ採用シ(記錄三七四裏ヨリ三七五表ニ涉ル)上告人等ノ有罪ヲ認定セル資料ニ供セリ故ニ原判決ハ結局被告ノ控訴ヲ理由アリトシテ一

審判決ノ取消ヲナスヘキモノナルニ控訴棄却ノ判決ヲナシタルハ刑事訴訟法第二百六十一條後段ノ規定ニ背キタル判決ナリト云フニ在レトモ○岡本伊左衛門ナルモノハ明治三十四年一月二十四日本件ノ證人トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ式ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタルモノナリ而シテ今論難スル所ノ檢證調書ハ其以後二月六日ノ作成ニ係ルモノナルコトハ彼此ノ文書ニ徴シ明白ノコトナリトス論旨ニ基キ該檢證調書ヲ查スルニ伊左衛門ヲシテ證人トシテ記名捺印セシメタルハ同人カ疑キニ證人トシテ供述シタル事實ニ基キ檢證ヲ爲シタルヨリ斯クノ措置ニ出テタルモノニ過キスシテ其實同人ヲ立會人トシテ實地ノ臨檢ヲ爲シタルニ外ナラサルナリ故ニ前示第一乃至第三ノ手續ヲ履行セサルヲ以テ不法ト云フヲ得ス第四即チ臨檢地ニ於テ調書ヲ作成セサルノ點ヲ論難スル所アルモ臨檢地ニ於テ調書ノ作成ヲナシ能ハサル場合尠ナカラサルモノニシテ必シモ臨檢地ニ於テノ作成ヲ要スヘキモノニアラス故ニ檢證ヲ了リタルト同時ニ其場所ニ接スル村役場ニ於テ該調書ヲ作成シタルハ不法ニアラフ又該調書ハ判事ノ口述ニ依リ作成シタルトノ點ニ對シ論難スル所アルモ刑事訴訟法第百三條第一項ニ豫審判事ハ犯罪ノ性質云々調書ヲ作ルヘシトアリテ此規定ニ依レハ檢證調書ハ豫審判事ノ作成スヘキモノニシテ書記ノ作成スヘキモノニアラス書記ハ唯タ之レヲ錄取スルニ過キサルモノナレハ書記カ判事ノ口述ニ依リ此調書ヲ作成セシハ當然ハコトニシテ之レヲ以テ該調書ハ效力如何ヲ論争スルヲ得ヘキモノニアラス以上說明スル如ク本件檢證調書ハ適式ニ作成セラレタルモノナルニ付第一審裁判所カ採テ以テ罪證ニ供シタ

ルハ不法ニアラス從テ原院カ此點ニ付第一審判決ヲ取消サ、ルハ相當ニシテ論旨ハ何レモ其理由ナシ  
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公私訴ノ上告ハ共ニ之レヲ棄却ス  
訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十五年五月二十七日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○證書騙取ノ件

明治三十五年(七)第七四三號  
明治三十五年五月二十九日宣告

○判決要旨

一 預リ證書中保證債務ヲ證スヘキ一部ヲ騙取シタル事實ヲ認メナカ  
ラ證書全部ヲ被害者ニ還付スヘキモノト判決シタルハ擬律錯誤ノ  
不法アルモノトス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 小原倉之助

右證書騙取被告事件ニ付明治三十五年三月十八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上  
告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原院ハ自分ニ對シ證書ヲ騙取シタリト事實ヲ認定シテ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ蓋シ事  
實審理ヲ盡サ、ル不法ノ判決ナリ何ントナンハ自分ニ於テ證書ヲ騙取セス承諾上之ヲ授受シタルコト  
ハ該一件記録全部ニ徴シテ知ルヘキナリ況ンヤ自分ハ豫審以來騙取ノ事實ヲ否認シアルニ拘ハラズ漫  
然有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ト思量スト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スル  
ニ證據ニ依リ被告ノ犯罪事實ヲ認メタル理由ハ之ヲ明示シアリ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル  
事實ノ認定證據ノ收拾ヲ論難スルニ過ギサルヲ以テ上告ノ理由ナシ

一部騙取ノ證書ノ還付



辯護人ノ擴張書第一點ハ原判決事實認定ニヨレハ被告倉之助ハ高橋多藏ニ對シ金二百圓貸與スルノ條件ヲ以テ瀬川儀藏武田儀濟ノ兩名ガ倉之助ヨリ負ヒタル金五十五圓ノ債務ニ對シ保證債務ヲ負擔シタルモノナリ換言スレハ本件ノ保證ハ任意上成立シタル一種ノ條件附契約ニシテ當然倉之助ノ手裡ニ歸スヘキ證書ニ保證セシメタルニ過キサリナリ果シテ然ラハ多藏ニ於テ倉之助ニ對シ其約旨ニ基キ條件タルヘキ金二百圓ノ貸出ヲ請求シ得ヘク其果シテ應セサルニ至リテ始メテ保證契約ノ解除ヲ請求シ得ヘシ即チ何レモ民法上ノ法律關係ニ不外何等刑法上ノ責罰ヲ受クヘキ謂レナキニ證書騙取ヲ以テ處刑セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云ヒ」第二點ハ假リニ原院ノ如ク處罰セントセハ倉之助カ右證書ヲ受取りタル後ニ於テ尙且金二百圓ヲ多藏ニ貸與セザリシ事實ヲ認メサルヘカテサルニ事茲ニ出テザルヲ以テ果シテ欺罔ノ手段タル金員貸與シタルヤ否知ルニ由ナク從テ前掲證書ノ授受ハ所謂騙取トナルヤ否ヤ知ルヲ得サルナリ即チ原判決ハ理由不備ノ失當アリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ高橋多藏カ金二百圓借用ノ申込ヲ爲シタルヲ奇貨トシ瀬川儀藏等カ被告ニ對スル金五十五圓ノ債務ニ付保證人トナルニ於テハ金二百圓ヲ貸與スヘシト眞ニ之ヲ貸與スルモノ、如ク多藏ヲ欺キ儀藏カ右金五十五圓ノ預リ證書ノ書換ヲ爲スニ當リ多藏ヲシテ該證書ノ末尾ニ保證名義ヲ記入セシメ之ヲ騙取シタル事實ナレハ被告ハ固ヨリ金二百圓ヲ多藏ニ貸與スルノ意思ナク從テ之ヲ貸與セザリシコトハ判文上明瞭ナリトス故ニ多藏カ保證債務ノ證書ヲ被告ニ差入レタルハ即チ詐欺ノ手段ニ依リ騙取セラレタルモノニシテ任意ニ保證債務ヲ負擔シタルモノニアラサルハ勿論原判決ハ理由不備ノ點ナキヲ以テ右論旨ハ孰レモ其理由ナシ

レタルモノニシテ任意ニ保證債務ヲ負擔シタルモノニアラサルハ勿論原判決ハ理由不備ノ點ナキヲ以テ右論旨ハ孰レモ其理由ナシ

同第三點ハ原判決ハ「現在ノ贓品タル金五十五圓ノ保證人付預リ證書ハ刑法第四十八條ニ依リ被害者ニ云々還付スヘク」ト判定セラレタリ然レトモ刑法第四十八條ニ依リ被害者ニ還付スヘキ贓物ハ被害者一己ノ資格ヲ以テ自由ニ處分シ得ヘキ物件ナラサルヘカテ本件ノ預證書ハ主タル債務者瀬川儀藏ヨリ倉之助ニ宛タルモノニシテ多藏ハ單ニ保證人トシテ記名シタルニ過キサレハ之レカ還付ヲ受クルコトアルモ自由ニ處分シ得サルモノナリ又儀藏ト倉之助間ニ眞正ニ成立シタル證書ニ對シ欺キテ保證ヲナサシメタリトテ證書全部ヲ其保證人ニ還付スルモノトセハ儀藏ニ對シ後日請求シ得ヘキ證據物ヲ失フノ結果ヲ見ルニ至ルヘシ然レトモ儀藏倉之助間ニ於テ有效ニ成立シタル證書ニ對シ假令欺キテ保證セシメタルモノトスルモ之レカ爲メ證書全部ヲ倉之助ノ手裡ヨリ脫離シテ保證人一己ニ歸セシムルノ理ナシ故ニ本件ノ如ク單ニ「保證人」タルノ記名ヲナサシメタル場合ハ刑法第四十三條第三號ノ「犯罪ニ因テ得タル物件」ニ該當スルモノナルヲ以テ其保證人トシテ記入シタル部分ハ之レヲ沒收シ其他ノ部分ハ差出人タル上告人倉之助ニ還付スヘキモノナルニ然ラスシテ前掲ノ如ク判決セラレタルハ失當ヲ免レスト信スト云フニ在リ○因テ原判決ヲ査閱スルニ本件被告カ高橋多藏ヲ欺キ騙取シタルモノハ金五十五圓ノ預リ證書中多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分ニ限リ證書全部ニアラサルヤ明カナリ何ト

ナレハ、瀬川儀藏カ主タル債務ヲ證スヘキ部分ハ、正當ニ儀藏ヨリ差入レタルモノナルヲ以テ被告カ之ヲ騙取シタルモノニアラサルコト固ヨリ論ヲ竣タサレハナリ故ニ右證書中多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分即チ該證書ノ末尾ニ多藏カ保證名義ヲ記入シタル一部ハ之ヲ多藏ニ還付スヘキモ其他ノ部分ハ之ヲ差出人ニ還付セサルヘカラス然ルニ原院カ其全部ヲ被害者高橋多藏ニ還付スヘキモノトシテ控訴ヲ棄却シタルハ擬律錯誤ノ失當アルモノニシテ本論旨ハ結局其理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

右

小原倉之助

原判決ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該リ再犯ニ付第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ其刑期範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス金五十五圓ノ預リ證書中高橋多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分ハ被告カ騙取シタルモノニシテ且被告ノ手ニ現存スルヲ以テ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ被害者高橋多藏ニ還付シ同證書中其他ノ部分竝ニ他ノ押收物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ刑法第四十五條ニ依リ被告ノ負擔トス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使ノ件

明治三十五年(七)第七四六號  
明治三十五年五月二十九日宣告

○判決要旨

一 辯護人トシテ出廷シ被告ノ爲メニ辯論ヲ爲スニ當リ被告ヨリ何等ノ異議ヲ主張セザリシ場合ニ在テハ其届出ナキ場合ト雖モ被告ハ其辯護人ノ立會ヲ承諾シタルモノト認ム

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院

被告人 岩崎菊次郎 辯護人 廣岡宇一郎

右私印盗用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年四月七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人廣岡宇一郎上告趣意書ハ原判決ハ偽造任切書ノ行使ニ付テ「辯護士江面島造方ニ持參シ同人ニ交付シテ行使シ」ト爲シ之ヲ以テ行使ノ所爲ト爲セリ然レトモ訴訟代理人タル辯護士ハ交付スルハ直ニ其偽造證書ノ效用ヲ致サシムルモノニアラサルヲ以テ之ヲ行使ナリトシテ處罰スルハ不法ナリ其他原判決ハ不法ニ事實ヲ確定シ法律ニ違背シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○苟クモ偽造證書ヲ真正ナル證書トシテ他人ニ示スニ於テハ偽造證書ノ行使アルモノニシテ其相手方ノ第三者タルト代理人タルトハ之レヲ問フノ要ナシ故ニ原院カ本件ノ任切證ハ被告ヨリ其訴訟代理人タル辯護士ニ交付シタル

ノ事實ヲ認メ被告ニ證書偽造行使ノ所爲アリトシテ刑ヲ適用シタルハ相當ニシテ上告前段ノ論旨ハ理由ナク其後段ハ原判決ノ不法ニ事實ヲ確定シ法律ニ違背シタル點ヲ明示セサルヲ以テ之レニ對シテ辯明ヲ爲スノ要ナシ

同上告趣意擴張書ノ第一ハ原判決ハ審理手續ニ反シタル違法ノ判決ナリ本件ハ第二審ニ於テ被告ハ辯護士江面島造ヲ辯護人ニ撰定シ之レカ届出ヲ爲シタリ而シテ第一回公判始末書ニハ同辯護人出廷シタル旨記載アリ言渡調書ニハ辯護人江面島造ハ出廷セストアリテ本件控訴審理ノ辯護人ハ江面島造ナルコト明カナルニ拘ハラス第二回公判始末書ニハ辯護人平野鹿之助出廷スト記載アルモ江面島造ノ出廷シタル旨ノ記載又ハ出廷セサル儘審理スルモ異議ナキ旨ノ記載ナシ而シテ平野鹿之助ナル者ハ曾テ辯護人ニ撰定シタルコトナキ者ナレハ結局第二回ノ審理ニ於テハ辯護人ナシテ辯護セシメスニテ審理ノ終結ヲ告ケタルコトニ歸シ刑事訴訟法第七十九條ニ於テ與ヘシレタル被告人ノ辯護權ヲ故ナク行使セシメサル違法アルト同時ニ他方ニ於テハ訴訟無關係者ノ干與シタルノ違法アリ刑事訴訟法第二百五十七條ニ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發スル旨ノ規定アルニ徴スルモ無關係者ノ其訴訟ニ干與スルヲ許サル法意タルヤ明ナリ此違法ノ審理手續ニ基キタル原判決モ亦違法タルヲ免レサルモノナリト云フニアリ○依テ一件記録ヲ調査スルニ被告カ辯護人江面島造ヲ其辯護人ニ撰定シタル旨ノ届出ヲ爲シタルコト同辯護人ハ原審第二回ノ審理ノ際出廷セスニテ平野鹿之助ナル者カ辯護人トシテ辯論ニ立會

且ツ辯護人トシテ出廷シタル平野鹿之助ハ被告ヨリ豫シメ撰定ノ届出ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ所論ノ如シ然レトモ右第二回ノ公判開廷ノ際江面島造ニ對シテ豫シメ呼出狀ヲ發シタルコトハ一件記録ニ添附シアル送達證書ニ徴シ明確ニシテ辯護人江面島造ハ適法ノ呼出ヲ受ケタルニモ拘ハラズ出廷セザリシモノナレハ原院カ同人ノ立會ナクシテ審理ヲ續行シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク被告人ノ辯護權ヲ故ナク行使セシメサルノ違法アルモノニアラス又平野鹿之助ハ被告ヨリ特ニ撰定ノ届出ヲ爲シタルモノニアラサルモ同人カ現ニ被告ノ辯護人トシテ出廷シ被告ノ爲メニ辯論ヲ爲スニ當リ被告ヨリ何等ノ異議ヲ主張セザリシコトハ原審公判始末書ニ徴シ明カナレハ被告ハ被告事件ノ審理ニ付キ同人ノ立會ヲ甘諾シタルモノト認メサルヲ得ス而シテ辯護人ハ被告ノ利益ノ爲メニ辯論ヲ爲スモノニシテ其撰定ハ被告ノ自由ニ一任シアル次第ナレハ被告人カ辯護人ノ立會ヲ甘諾シタル以上ハ後ニ至リ其辯護人ハ被告ヨリ進ンテ撰定ヲ爲シタルモノニアラサルヲ理由トシテ其立會ヲ違法ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス故ニ本論旨ハ理由ナシ

其第二ハ原判決ハ法則ヲ適用セサルノ違法アリ本件檢事ノ豫審請求書及豫審終結ニ關スル檢事ノ意見書並ニ檢事ノ公判開廷請求書ト控訴申立書トハ全然其筆跡ヲ異ニセルコトハ一件記録ニ徴シテ明白ナレハ其控訴申立書ノ代筆ナル點ハ顯著ナル事實ナリトス而シテ刑事訴訟法第二十條ニ依レハ官吏ノ作ルヘキ書類ニハ署名スルコトアラサレハ其效ナキモノナレハ結局本件ニ付テハ控訴申立ナキコトニ歸着スルニモ拘ラズ其控訴ヲ受理シテ審理判決シタルハ違法ナリト云フニアレトモ

○檢事ノ控訴申立書ハ他人ノ代筆ニ係ルモノト認メ難キヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

同辯明書ハ原判決ヲ見ルニ明治三十三年十月三日辯護士ヲシテ本件仕切書ヲ下妻區裁判所ニ提出セシメタル事實ヲ認メ其理由トシテ「口頭辯論調書ニ石油代金仕拂濟ノ立證トシテ乙一號證ヲ提出シタル旨ヲ記載アルニ徴シテ明白ナリ」ト説明セリ然レトモ乙第一號證ハ果シテ本件偽造證書ナリヤ否ヤハ記録中之ヲ見ルヘキモノナキヲ以テ此點ヲ明白ニセサルハ結局理由ヲ付セサルニ同シキノミナラス右乙第一號證ヲ被告ニ示シテ辯解セシメサルヲ以テ何レヨリスルモ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ

○被告カ辯護士ヲシテ下妻區裁判所ニ仕切書ヲ提出セシメタル事實ハ被告カ該仕切書ヲ辯護士ニ交付シテ行使シタル犯罪成立以後ノ事ニ屬シ被告ノ犯罪ニ何等ノ影響ヲ及ボサルヲ以テ該事實ノ認定上所謂ノ如キ違法ノ廉ノリトスルモノ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキ上告ノ理由トナスコトヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○誣告ノ件 明治三十五年(レ)第八〇〇號  
明治三十五年五月二十九日宣告

●判決要旨

一 被告ニ代リテ爲シタル辯護人ノ上訴ハ被告ノ上訴トシテ被告事件  
ヲ上級審ニ繫屬セシムルニ止マリ獨立シタル辯護人ノ上訴トシテ  
特ニ上級審ノ審理判決ヲ受クルノ效力ヲ發生スルモノニ非ス從テ  
辯護人ノ控訴申立ニ對シ單ニ被告ヨリ控訴申立ヲ爲シタルモノト  
シテ審理判決シタルハ相當ナリトス

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 齋藤 傳藏 外一名 辯護人 (野副重一 高木益太郎)

右誣告被告事件ニ付明治三十五年三月二十八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等辯護人  
野副重一ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
辯護人野副重一ノ上告趣意書ハ被告人兩名カ阿部藤三郎ニ於テ之ヲ偽造シタリト爲シ同人ニ對シ告訴  
ヲ爲シタル所ノ養子縁組届書ハ原院ノ事實上ノ認定竝ニ一件記録ニ依リテ明カナル如ク被告人阿部  
カ亡夫福太郎カ其死亡ノ後ニ於テ被告人チカト共ニ阿部茂吉ヲ養子トスルコトヲ届出テタル書面ナリ

トス而シテ養子ノ縁組ハ民法第八百四十七條第七百七十五條ニ依リ明カナル如ク戸籍吏ニ届出ツルニ  
因リ其效力ヲ生スルモノナルヲ以テ亡福太郎ノ死後ニ於テ其名ヲ以テシタル本件ノ縁組届ハ法律上無  
效ナルモノト言ハサルヘカラス果シテ然ラハ被告人阿部チカニ於テ任意上此届書ニ連印シタリトスル  
モ此行爲ハ以テ届書ノ效力ヲ發生セシムルノ效ナキト勿論ナリトス前述ノ如ク被告訴人阿部藤三郎  
ニ於テ眞實告訴狀記載スル如キ行爲アリタリトスルモ同人ハ刑事上ノ制裁ヲ受クル理由ナキヲ以テ被  
告人共ノ行爲ハ罪トナラサル事實ヲ以テ人ヲ告訴シタリト言フニ歸着シ誣告ノ責任ナキモノト信スト  
云フニ在リ○依テ原判文ヲ見ルニ「被告チカハ云々茂吉ヲ養子ト爲ス旨ヲ記シタル養子縁組届書ヲ作  
製シ自カラ其名下ニ捺印シタル外當時尙ホ福太郎生存セルカ如ク裝ヒ其氏名ヲ記シテ亦チカ自カラ福  
太郎名下ニ其生前使用シ居レル印章ヲ捺捺シ云々福島町戸籍吏ニ之レヲ提出シ養子縁組ノ旨ヲ届出テ  
タリ然レトモチカノ弟ナル被告傳藏ハ云々竊カニチカニ説クニ云々之ヲ爲スノ方法ハ茂吉ノ父阿部藤  
三郎ナル者竊カニ「チカ」ノ印影ヲ盜捺シテ養子縁組届書ヲ偽造シ其旨ヲ届出テタリトノ事ヲ構造シ告  
訴スルニアリトノ事ヲ以テシタルヨリ「チカ」ハ遂ニ其言ニ從ヒ意ヲ決シ辯護士丹野潔ヲ代理ト爲シテ  
傳藏ノ指教セルト同趣旨ナル虛構事實ヲ掲ケタル告訴狀ヲ明治三十四年九月六日福島地方裁判所檢事  
局ニ提出シ以テ藤三郎ハ私印盗用及私書偽造行使ノ罪ヲ犯セシ者ナリト誣告セリ」トアリ原院ハ被告  
「チカ」カ被告傳藏ノ教唆ニ應シ阿部藤三郎カ「チカ」ノ印ヲ盗用シテ養子縁組届書ヲ偽造行使シタルモ

辯護人ノ上訴ノ效力

ノトシテ同人ヲ誣告シタルノ事實ヲ認メタルコト明カナリ而シテ右届書ニ署名捺印アル福太郎ハ其當時既ニ死亡シタルコトハ原院ノ認ムル所ノ事實ナレハ死亡者福太郎ノ名義ヲ以テ提出シタル届書ハ養子縁組届トシテ法律上其効チ生セサルコトハ所論ノ如シト雖モ少クモ「チカ」カ養子縁組届ノ形式ヲ以テ茂吉チ養子ト爲スノ意志ヲ表示シタル書面トシテハ其効チ生スヘキモノナレハ若シ阿部藤三郎ニ於テ「チカ」ノ印ヲ盗用シテ右届書ヲ偽造行使シタルモノトセハ私印盗用私書偽造行使罪ハ成立スヘキ筋合ナレハ原院カ被告「チカ」ニ於テ現ニ養子縁組届ヲ作成シタルニ拘ハラヌ阿部藤三郎カ其印ヲ盗用シテ之レヲ偽造行使シタルトノ告訴ヲ爲シタルノ事實ヲ認メ教唆者タル傳藏及正犯タル「チカ」ヲ誣告罪ニ問擬シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

辯護人高木益太郎辯明書ハ本件記録ヲ精査スルニ上告人阿部チカノ控訴ハ前審辯護人渡邊留藏丹野潔ノ兩人ヨリ爲シタルモノニシテ決シテ上告人ヨリ爲シタルモノニアラス抑モ辯護人ハ被告人代理行爲トシテ上訴チナスモノナリト雖其後被告人カ上訴ヲ爲サ、ル以上ハ辯護人ノ上訴トシテ生存スルモノニシテ上訴期間ノ經過後被告人カ公判廷ニ於テ其上訴チ是認シタレハトテ被告人ノ上訴アリト言フチ得ス何トナレハ上訴ヲ適式ニ爲サント欲スレハ一定ノ期間ト一定ノ方式ヲ要スレハナリ論者或ハ曰ハシ辯護人上訴チナシ被告人出頭シタルトキハ別ニ上訴ヲ爲サスト雖モ對席判決ヲ言渡スヘキモノナルヲ以テ辯護人ノ申立ハ被告ノ控訴トナルモノナリト是レ控訴ノ生滅轉變ト其控訴ノ效力トヲ混同セシ

認論ナリ抑々辯護人ノ上訴ノ滅亡又ハ轉變スル場合ハ(一)取下(二)被告人カ反對意見ヲ表示シタル時(三)被告人ノ適式ナル上訴アリタル時ナリトス由之觀是以上ノ事實發生セサル以上ハ辯護人ノ上訴ハ獨立シテ生存スルモノニシテ裁判所ハ之ヲ審理判定スル權義チ有スルモノナリ而シテ本件ハ前陳ノ如ク辯護人ヨリ控訴チナシタルモノニシテ上告人タル被告チカハ其期間經過後ノ控訴公判廷ニ於テ控訴シマシタト陳述セルノミ從テ裁判所ハ辯護人ノ控訴ヲ審理判決セサルヘカラサルニモ不拘被告人ノ控訴チ審理判決シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第七ニ適合スル違法アルモノナリト云フニ依テ審按スルニ刑事訴訟法第二百四十三條ニ「辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ辯護人ハ自家固有ノ權利トシテ上訴ヲ爲スノ權チ授與セラレタルニアラスシテ唯被告ノ代理人トシテ上訴ヲ爲スコトヲ許サレタルニ過キサルモノト解釋スルチ相當トス辯護人ニシテ既ニ上訴ニ關シテ被告チ代理スルノ權限チ授與セラレタルモノニ過キサルモノトセハ被告ニ代リテ爲シタル辯護人ノ上訴ハ代理ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ常ニ被告ノ利益ニ於テ其効チ生シ被告ノ上訴トシテ被告事件チ上級審ニ繫屬セシムルニ止マリ獨立シタル辯護人ノ上訴トシテ特ニ上級審ノ審理判決ヲ受シルノ效力チ發生スルコトナカルヘキハ敢テ説明チ要セサル所ナリ果シテ然ラハ本件ニ於テノ被告阿部「チカ」ニ代リテ爲シタル辯護人渡邊留藏丹野潔ノ控訴申立ニ對シ原院カ單ニ被告「チカ」ヨリ控訴申立チ爲シタルモノトシテ審理判決チ爲シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

同上告追申書ハ第一審判決ニ對シテ同裁判所檢事ヨリ獨立ノ控訴申立アリシニモ不拘原院ハ本案審理ノ起頭ニ於テ該控訴申立ノ要旨ヲ聽カサリシハ口頭審理ノ定則ニ違反セリ（戸田善藏件判例援用）ト云フニアリ○按スルニ檢事ヨリ獨立ノ控訴申立アリタルトキハ控訴審ニ於ケル公判開廷ノ際本案審理ノ起頭ニ於テ其趣旨ヲ陳述スルコトハ控訴審ニ於テ遵守スルコトヲ要スル普通ノ手續ナルコトハ毫モ疑チ容レス然レトモ此手續ノ遺漏カ控訴ノ審理ニ如何ナル影響チ及ホスヤノ問題ニ付キテハ一ノ區別チ爲スコトヲ要ス即チ控訴裁判所カ檢事ノ控訴ノミニ依リテ事件ノ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ヨリ控訴ノ主旨ヲ演述シタル後ニアラサレハ本案ノ審理ニ着手スルコト能ハサルヲ以テ檢事ノ陳述ヲ俟タスシテ爲シタル裁判所ノ審理ハ總テ無効トナルノ結果ヲ生スヘシ何トナレハ口頭審理ノ原則上檢事ハ口頭ヲ以テ控訴ノ主旨ヲ演述スルコトヲ必要トスルカ故ニ此演述ナキニ拘ハラス審理ヲ開始スルハ何等控訴ノ申立ナキニ事件ノ審理ヲ爲シタルモノトナルヘケレハナリ然レトモ被告事件ニ付キ檢事並ニ被告人ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタルトキハ檢事カ公判ノ起頭ニ於テ控訴ノ趣旨ヲ演述セザルモ裁判所カ被告ノ控訴ニ基ツキテ本案ノ審理ヲ開始スルコトヲ妨ケサルヲ以テ檢事カ普通ノ順序ニ從ヒ起頭ニ於テ公訴ノ主旨ヲ演述セザリシナ理由トシテ其審理手續ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス而シテ本件ニ在テハ原院ハ被告並ニ檢事ノ控訴ニ依リテ事件ノ審理ヲ爲シタルモノナルコトハ一件記録ニ徴シテ明カナレハ前掲後段ノ場合ニ該當シ上告論旨ハ理由ナシト辯護人ニ於テハ本院戸田

善藏上告事件ノ判例ヲ援用シテ其主張ノ論據トナスモ該事件ニ付キ本院ノ下シタル判決ハ控訴審カ檢事ノ控訴ノミニ依リテ控訴ヲ受理シ公判廷ニ於テ檢事ノ申立ナキニ拘ハラス事件ノ審理判決ヲ爲シタル場合ニ付キ控訴審ノ訴訟手續ニ違法アリトシテ原判決ヲ破毀シタルモノニ係リ本件ノ如ク被告並ニ檢事ヨリ控訴ノ申立アリタル場合ニ付キテ判決ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ該事件ノ判文ニ徴シテ明カナレハ之レナ本件ノ場合ニ援用スルノ失當タルハ説明ヲ要セスシテ明カナリ辯護人野副重一上告趣意擴張辯明書ノ第一ハ原判決ヲ閱ミスルニ其判文ノ後段ニ「被告チカチ重禁錮四月十五日罰金三圓ニ處シ被告チカチ重禁錮四月十五日罰金三圓ニ處ス」トアリ而シテ右文言中初段ノ「處シ」トアル「シ」ノ字以下ノ文字ニハ皆抹削ノ意ヲ以テシタラン如キ加點アリト雖モ其中「告」ヲ「錮」五「圓」ノ數文字ニ付キテハ右ノ加點ニ對シテ認印アルコトナキヲ以テ此等ノ文字ハ法律上削除シアラサルコトニ歸ス可ク（刑訴第二十一條）從ツテ原院ハ一個ノ行爲ニ付キ法律ニ反シテ二個ノ刑ヲ言渡シタルカ又ハ何等ノ意味ヲ爲サ、ル判決ヲ爲シタル不法アルモノト思料ス但右引用シタル文字ノ上欄外ニ「被ヨリ處スマテ二十字削除」ノ記載アルモ此部分ニ於テモ亦何等ノ押印ナキヲ以テ此等ノ文字ハ元來記載ナカリシト同一ニ歸着ス可キモノトスト云フニアレトモ○刑事訴訟法第二十一條ニ則トリ削除シタル文字ニ認印ヲ施スニハ削除シタル各個ノ文字ニ付キ一々認印ヲ押捺スルコトヲ必要トセス其削除セラレタル文字ナルコトヲ示スニ足ルヘキ方法ヲ以テ文字ノ削除ヲナシタル箇所ニ認

印ヲ押捺スルヲ以テ足レリトス而シテ原判文ヲ見ルニ其主文中「罰金三圓ニ處ス」トアル以下二十字ニハ加點ノ外ニ合計五個ノ押印アリテ其押印ノ配置ニ依リ該二十字ハ總テ削除シタルモノナルコトヲ知り得ヘケレハ刑事訴訟法第二十一條ニ定ムル認印押捺ノ要件ヲ充タシタルモノト認メ得ヘク且ツ其欄外ニ於テ「被ヨリ處スマテ二十字削除」ト記載シ削除ノ字數ヲモ記載シアレハ其削除ハ有效ナリ尤モ欄外ノ文字ニハ認印ナキモ既ニ本文ニ於テ適當ニ認印ヲ施シアル以上ハ字數ノ記載ニ認印ヲ押捺スルノ要ナシトス果シテ然ラハ原判文ニハ所論ノ如キ不法ナキコト明カナレハ本論旨ハ理由ナシ

其第二ハ原院ニ於テ作製セラレタル公判始末書ヲ檢スルニ活字ヲ以テ印刷シタル部分アリ而シテ公判始末書ハ裁判所書記ノ記載ス可キモノニシテ印刷ス可キモノニアラサルヲ以テ右ノ始末書ハ刑事訴訟法第二百八條ニ違背シタル無効ノ書類ナリト云フコトヲ得可ク原院カ適法ノ手續ニ依リテ判決ヲ爲シタルコトハ之ヲ證スルノ途ナキニ至ル不法アルモノト思料スト云フニアリ○依テ審按スルニ原院公判始末書ニ活字ヲ以テ印刷シタル部分アルコトハ所論ノ如シ蓋シ此部分ハ公判廷ニ於テ被告事件審理ノ都度常ニ顯出フル事實ヲ表示シタルモノニシテ書記カ其筆記ニ代ヘテ豫シメ之ヲ印刷ニ付シ置クモノニ外ナラス而シテ書記ハ右印刷シタル用紙ヲ利用シテ公判始末書ヲ作成スルニ當リ審理手續實際ノ經過如何ニ從ヒ印刷シタル部分ヲ其儘ニ存置シ若クハ之レヲ變更スルノ完全ナル自由ヲ有スルモノナレハ此方法ニ依リ作成シタル始末書ハ敢テ刑事訴訟法第二百八條ノ規定ニ違背スルモノト謂フコトヲ得

ス何トナレハ其始末書ハ書記ノ作成シタル書類タルコトヲ失ハサルノミナラス印刷シタル部分ハ書記ノ爲メニ單ニ筆記ノ勞ヲ省クニ止マリ公判廷ノ出來事ヲ證スルノ效力ニ至テハ書記カ自身ニ筆記ヲ爲シタルト毫モ異ナルコトナケレハナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

其第三ハ原院ハ被告人兩名並ニ第一審檢事ノ控訴ニ對シテ判決ヲ與ヘタリト云フト雖モ被告人「チカ」ハ自ラ控訴申立ヲ爲シタルコトナク其辯護人ヨリ之ヲ提起シタルアルノミナリトス即チ原院ハ右辯護人ノ爲シタル控訴ニ對シ判決ヲ與ヘサル不法アルモノト思料スト云フニアレトモ○既ニ辯護人高木益太郎ノ辯明書ニ付キテ説明スル所ノ如クナルヲ以テ重ネテ辯明ヲ爲スノ要ナシ

其第四ハ原院ハ「チカ」ノ所爲ハ刑法第三百五十五條第二百二十條第二號ニ依リ傳藏ノ所爲ハ同第五百條及ヒ第三百五十五條第二百二十條第二號ニ依リ罰スヘキモノ」ナリト判決シタルモ刑法第二百二十條ニハ第一項ノ内ニ第二號ナルモノアルモ直チニ第二號ト稱ス可キモノナキヲ以テ原院ノ此ノ點ニ於ケル説明ハ如何ノ意味ヲ有スルヤ知リ難キ不法アルモノト思料スト云フニアレトモ○刑法第二百二十條ハ單ニ一項ノミヨリ成立シ而シテ同條所掲ノ一乃至三號ノ規定ハ之レニ附隨スルモノナレハ原判文ノ所謂ル刑法第二百二十條第二號ハ同條第一項第二號ナルコトハ自カラ明白ニシテ其間ニ疑ヲ挾ムノ餘地ナク所論ノ如ク疑似ニ涉ルヲ廉ナケレハ本論旨モ亦タ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ判決スル左ノ如シ



本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○冒認ノ件

明治三十五年(レ)第八一二號  
明治三十五年五月二十九日宣告

○判決要旨

一 附帶控訴ニ關シテハ別ニ其申立ノ方式ヲ限定シタル法則ナシ從テ  
附帶控訴ヲ爲サントスル控訴ノ相手方又ハ檢事ハ公判廷ニ於テ口  
頭ヲ以テ其申立ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小池友四郎 辯護人 高木益太郎

右冒認被告事件ニ付明治三十五年四月二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲  
シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ不法ニ法則ヲ適用シテ事實ヲ確定シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○  
其違法アリトシテ攻撃スル點ヲ明示セサルヲ以テ之ニ對シテ辯明ヲ爲スノ要ナシ

辯護人高木益太郎辯明書ハ原院ハ檢事谷野格ノ附帶控訴アリトシテ第一審ノ刑ヨリ重キ刑ヲ上告人ニ  
科シタリト雖モ檢事谷野格ノ附帶控訴狀ナシ抑モ附帶控訴モ控訴ノ一種ニシテ控訴ノ申立書ノ提出ヲ  
要スルハ刑事訴訟法第二百五十四條ノ明定スル所ニシテ之ニ反スル控訴ノ成立セサルヤ疑ナシ然ルニ  
原院カ之ヲ看過シ然モ被告ニ不利益ノ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條同第二百九十一條ニ

違背セル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

依テ審按スルニ訴訟關係人カ第一審ノ判決ニ對シテ獨立セル控訴ノ申立ヲ爲スニハ刑事訴訟法第二百五十四條ノ規定ニ從ヒ其申立書ヲ原裁判所ニ提出スルコトヲ要スルヲ以テ控訴狀ノ提出ハ獨立セル控訴ノ成立要件タルハ毫モ疑ナシト雖モ附帶控訴ニ關シテハ同法第二百五十九條ニ「控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得」トアルハミニテ法律ハ別ニ申立ノ方式ヲ限定セザルヲ以テ附帶控訴ヲ爲サントスル控訴ノ相手方又ハ檢事ハ口頭審理ノ原則ニ從ヒ公判廷ニ於テ口頭ヲ以テ其申立ヲ爲スノミヲ以テ足り獨立セル控訴ニ於ケルカ如ク特ニ書面ヲ以テ申立ヲ爲スノ必要ナキモノト解釋セザルヲ得尤モ控訴ノ相手方又ハ檢事カ附帶控訴ヲ爲サントスルニ臨ミ申立ノ主旨ヲ明確ナラシムルカ爲メ特ニ書面ヲ提出スルハ申立ノ方式ヲ限定セザル我刑事訴訟法ノ解釋上固ヨリ妨ケナシト雖モ書面ヲ提出スルト否トハ一ニ訴訟當事者ノ任意ニ在ルヲ以テ之ヲ提出セザレハトテ附帶控訴ハ全然成立セザルモノト主張スルコトヲ得蓋シ獨立セル控訴ハ被告事件ヲ第二審ニ繫屬セシムルヲ以テ目的トシ第二審ノ公判ヲ待テ申立ツヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ書面ヲ提出シテ申立ヲ爲スコトヲ必要トスルモ附帶控訴ハ控訴ノ判決アルマテハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ヘク公判ノ辯論進行中ニ其申立ヲ爲ストキハ其旨ヲ公判始末書ニ掲クルノミヲ以テ足ルモノニシテ特ニ書面ヲ以テ之レヲ明確ニスルハ必要ナシ故ニ獨立セル控訴ノ申立ニ關スル第二百五

十四條ノ規定ハ之ヲ附帶控訴ノ場合ニ適用スルコトヲ得サルモノトス而シテ原院公判始末書ヲ見ルニ檢事谷野格カ第一審判決刑期ハ被告ノ犯情ニ比シ輕キニ失スルヲ以テ原判決ヲ取消シ更ニ重ク處罰セラレタシト附帶控訴ヲ爲シタル旨記載アルヲ以テ原院カ右檢事ノ附帶控訴ニ基ツキ被告ニ不利益ナル刑ヲ科シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

○國稅徵收法違犯ノ件

明治三十五年(九)第九二七號  
明治三十五年五月三十日宣告

○判決要旨

一 國稅代納義務者カ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニ財産ヲ藏匿脱漏シタルトキト雖モ其後滯納者ト爲リタル以上ハ國稅徵收法第三十二條ヲ適用シ處斷スヘキモノトス

(參照) 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス(國稅徵收法第三十二條)

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 野尻徳次郎  
外三名

右國稅徵收法違犯事件ニ付明治三十五年四月十四日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告四名ノ上告趣意書ハ被告徳次郎カ所有財産ノ賣買其他ノ處分ヲ爲シタルハ法律上滯納者タル身分

ナリシヤ否ヤヲ審究スルヲ要ス然ルニ本件第一審裁判所カ認定セラレタル如ク第一審相被告ナル瀬井辰熊カ酒類造石稅滯納セシモ被告徳次郎ハ只タ納稅保證人ニシテ第二ノ義務者タル資格ニ止マリ未タ直接納稅義務アルニアラス假リニ一步ヲ讓リ直接納稅ノ義務アルモノトスルモ未タ被告徳次郎ニ對シ國稅徵收法第六條ノ告知ヲ爲サルヘカラス此ノ告知ヲモ受ケサル以前ニ於テ保證人タル第二義務者ナ直ニ滯納者ナリト論斷スルヲ得ス果シテ然ラハ滯納者タル身分ニアラサル被告徳次郎カ其財産ヲ賣買隱匿シタリトスルモ罪トナルヘキモノニアラス況ンヤ被告眞振惟徳常五郎ノ如キ知情賣買隱匿セリトスルモ犯罪ヲ構成スヘキ理アルヘカラス故ニ原院ノ判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトスト云フニ在レトモ○國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅者カ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ罰スルモノナリ而シテ其危害ハ納稅者カ滯納者トナリタル時ニアラサレハ生セサルヲ以テ本條ノ適用ハ常ニ納稅者カ滯納者トナリタル以後ニアリ是レ法文ニ滯納者トアル所以ニシテ滯納者トナリタル後ノ行爲ノミヲ罰スルノ法意ニアラス何トナレハ右藏匿脱漏ノ行爲カ納期前ニ在ルトキト雖モ滯納スルトキハ徵稅上危害ヲ加フルモノナレハナリ故ニ被告徳次郎ハ元來納稅本人ニアラス第一審ノ相被告タル瀬井辰熊ノ保證人ニシテ本件ノ行爲ハ代納義務者トシテ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニアルモ徳次郎ニ於テ其後滯納者トナリタル上ハ原院カ其行爲ヲ同條ニ問擬シ又之レヲ幫助シタル被告眞振、惟徳、常五郎ヲ同條第三項ニ依リ處罰シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其

理由ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○故殺ノ件

明治三十五年(九)第九三一號  
明治三十五年五月三十日宣告

○判決要旨

一 檢事カ證據搜查ノ爲メ醫師ノ陳述ヲ聽キ其書面ヲ差出サシメタルニ過キサルトキハ其書面ハ刑事訴訟法ニ所謂鑑定書ニ非ス

第一審 松江地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 細田長兵衛 辯護人 中村福太郎

右故殺被告事件ニ付明治三十五年四月二十六日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ヲ要スルニ原院判決書中ニ殺害セント決意シ直チニ産所ニ於テ兩手ヲ以テ該嬰兒ノ頸部ヲ壓シ窒息死ニ至ラシメタルモノナリト記載アレトモ右ハ決シテ殺害シタルニ非ス死産シタル者ナルヲ以テ原院ノ判決ハ不法ノ裁判ト思料スト云フニ在レトモ○全ク原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニ對シ批難ヲ試ムルニ外ナラスシテ上告適法ノ理由ナシ』辯護人中村福太郎擴張第一點ハ明治三十五年一月二十日松江地方裁判所檢事ノ作成セル實況見聞書ト題スル書面ニ於テ是熊義郡安本町醫師野阪賢之丞ヲシテ外表ヲ検査シ局部ヲ解剖セシメ生産ナリヤ否生産ナリトセハ死因生息ノ時間死後經過ノ時間ヲ

檢事ノ徴シタル鑑定書

鑑定セシメ鑑定書ヲ差出サシムトノ記載アリテ松江地方裁判所檢事ハ非現行犯ナルニモ拘ハラス犯所ニ臨檢シ鑑定人ヲ任命シ其供述ヲ聞キタルモノナリ而シテ鑑定書ハ之レカ供述ノ筆記ヲ鑑定書ニ變ヘタルニ過キス換言スレハ該鑑定書ハ醫師ノ任意ニ提出セシモノニ非スシテ檢事ヨリ鑑定ヲ命セラレ其鑑定ヲ命セラレタル事項ヲ書面ヲ以テ答ヘタルモノナレハ醫師ノ鑑定書ハ檢事ノ越權ノ所爲ニ依リ作成セラレタル無効ノ文書ナリ然ルニ原院カ之レヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ刑訴第四百四十四條ニ違背シタルモノナリト云フニ在レトモ○該鑑定書ノ如キハ檢事カ證據搜查ノ爲メ醫師ハ陳述ヲ聽キ其書面ヲ差出サシメタルニ過キスシテ刑訴訴訟法ノ所謂鑑定書ニ非ス即チ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ同第二點ハ原判決中證據明示ノ部ニ「右事實ハ當公廷ニ於テ被告ノ自白シタル所ナルノミナラス」トアルモ被告ノ如何ナル自白ニ依リタルモノナルヤヲ示サ、ルハ證據ニ依リテ認メタル理由ノ明示ヲ欠キタルモノニシテ刑訴第二百三條ニ違背セシモノナリ假リニ被告ノ當公廷ニ於ケル自白トハ冒頭ニ右ノ事實ハトアルヲ以テ原判文中事實ノ部ニ記載シタルト同一ノ事實ヲ自白シタルモノト解釋センカ第二審ノ公判始末書ニハ原判文事實ノ部ニ掲ケタル事實ノ訊問ヲ爲シタル記載ナケレハ其訊問事項ニ對シテ爲シタル自白ノ記載モナシ尤モ右公判始末書ニハ裁判長ハ前判決ニ掲ケタル犯罪事實ヲ舉示シテ仔細ニ被告人ヲ訊問シタルニ被告人ハ訊問ノ事實ヲ全然認メタリトノ記載アレトモ到底如何ナル問ヲ發シテ如何ナル自白ノ答ヲ得タルヤヲ知ルヘカラサルヲ以テ公判始末書ヲ以テ被告カ第二審公廷ニ於テ原

判文ニ記載セル事實ヲ自白シタルモノト認メカタシ從テ原裁判ハ證據ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ論旨ノ引用スル如ク裁判長ハ前判決ニ掲ケタル犯罪事實ヲ舉示シ仔細ニ被告人ヲ訊問シタルニ被告人ハ訊問ノ事實ヲ全然認メタリトノ記載アリテ其間ハ第一審判決ニ掲ケタル犯罪事實ニ在ルヤ明カニシテ其答ハ右事實ノ自認ニ在ルコト亦明カナレハ原判決ハ毫モ所論ノ如キ不法ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑訴訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長 判事 原田種成

部員

判事 小松弘隆

判事 永井岩之丞

判事 伊藤悌治

判事 井原師義

判事 末弘嚴石

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

刑事判事氏名表

大阪控訴院

長崎控訴院

函館控訴院

廣島控訴院

第二刑事部

裁判長

部長 判事 長谷川 喬

部員

判事 岩田武儀

判事 木下哲三郎

判事 鶴 丈一郎

判事 鶴 見守義

判事 横田秀雄

本部ノ開廷

月曜日

刑事判事氏名表

木 曜 日

本部ノ所管

東京控訴院

名古屋控訴院

宮城控訴院

總目録

刑法

私印偽造罪ノ偽造ノ程度ノ事……………一六

證書ノ偽造ト變造トノ區別ノ事……………四二

本夫カ姦所ニ於テ豫謀ニ出テタル殺傷ヲ行ヒタル場合ノ事……………五二

數人共謀シテ誣告ヲ爲ス場合ノ責任ノ事……………六二

恐喝手段ヲ用ヒ債務ノ辨濟ヲ強制シタル所爲ノ事……………七三

官文書ノ意義ノ事……………一〇六

官文書作成ノ目的及ヒ其本來ノ效用以外ニ使用シタル所爲ノ事……………一〇六

強盜共犯者ノ一人カ傷人行爲ヲ爲シタル場合ノ擬律ノ事……………一〇八

自己ノ振出シタル郵便爲替金ヲ騙取シタル場合ノ被害者ノ事……………一三〇

官吏ノ職務ニ對シ形容ヲ以テ侮辱シタル所爲ノ事……………一三五

裁判所構内辯護士控所ニ於テシタル演說ノ事……………一三五

訟廷ニ列席セル判事檢事ニ對スル侮辱罪ノ事……………一三五



目的タル行為ハ罪トナラサルモ其手段ニシテ犯罪ヲ構成スル以上ハ之ヲ  
處罰スルハ勿論ナリトノ事……………一四〇

刑事ノ裁判ニ關シ(刑法第二百八十六條)ノ意義ノ事……………一六〇

印影ニハ必スシモ氏名ヲ表彰スルノ要ナシトノ事……………一六六

強奪ノ所爲ヨリシテ人ヲ傷シタル場合ノ擬律ノ事……………一八〇

刑事訴訟法

審理更新前ニ爲シタル證據調決定ノ效力ノ事……………一

挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セストノ事……………一

公判始末書ニ決定ヲ爲シタル旨ノ記載ナキ場合ノ事……………一

官署ノ印ノ押捺ナキ文書ノ效力ノ事……………九

法律適用ノ部ニ誤記アル判決ノ事……………一四

重罪トシテ豫審ヲ終結シタル事件カ第二審ニ繫屬シタル場合ノ事……………二六

二審判決ニ於テ一審判決以外ノ犯罪行為ヲ認メタル場合ノ當否ノ事……………二八

裁判費用負擔言渡ノ當否ノ事……………三三

瑕瑾アル第一審公判手續ノ事……………三八

公訴權消滅ノ原因タル確定判決ノ意義ノ事……………四九

控訴裁判所カ缺席判決ヲ爲ス場合ノ事……………五五

臨檢ノ場合ニ於ケル證人訊問ノ當否ノ事……………五九

豫審ニ於テ免訴ヲ言渡シタル事實ヲ審理判決シタル處措ノ事……………六六

支部ノ豫審判事カ依嘱ヲ受ケ作成シタル證人調書ノ效力ノ事……………七二

作成場所ノ記載ナキ判決原本ノ事……………七七

再開廷願ハ一ノ嘆願ニ過キサレハ決定ヲ與フルノ要ナシトノ事……………八七

自己ノ利害ニ關係ナキ還付處分ノ當否ヲ論争スルヲ得ストノ事……………八七

檢事正ノ爲シタル控訴申立ノ事……………九三

官廳ノ内達慣例等ニ基キ作成スヘキ書類ノ官文書ナリヤ否ヤノ認定ノ事……………一〇六

稅務管理局長ハ刑事訴訟法第二十條ニ所謂官吏ニ非ストノ事……………一三三

證人ノ一度爲シタル宣誓ノ效力ノ事……………一五〇

事實裁判所ノ犯罪事實認定ノ資料ノ事……………一五六

委託物費消罪ニ付キ親族ナルコトヲ認メナカラ其親等ヲ明示セスシテ刑

ヲ科シタル判決ノ事.....一六四

不法ノ點ヲ指示セサル上告趣意書ノ效力ノ事.....一六六

辯護人ニ呼出狀ヲ送達セスシテ開廷シタル公判ノ事.....一七五

證人調書ノ署名捺印ノ事.....一八〇

雇主カ雇人ノ爲メ證言スル場合ノ事.....一八八

官印ノ押捺ナキ告訴調書ノ效力ノ事.....一九三

公訴權發生時期ノ事.....一九六

檢事カ間接國稅犯則者ニ對シ公訴ヲ提起スル場合ノ事.....二〇〇

裁判所構成法

判事カ法律ノ規定ニ基キ檢事ノ代理ヲ爲ス場合、代理權證明ノ事.....九

判事カ檢事ノ職務ヲ行フ場合ノ所屬官署ノ事.....九

戶籍法

虛偽ノ届書ヲ戶籍吏ニ提出シタル所爲ノ事.....一四

間接國稅犯則者處分法

間稅官吏カ間接國稅犯則者ニ對シ告發ヲ爲ス場合ノ事.....二〇〇

明治二十五年勅令第六號

大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スル時期ノ事.....九

事件目錄

事件	關係事項	宣月日	番號	訴訟關係人	丁數
恐喝取財ノ件	審理更新前ノ證據決定、挿入字數ノ誤記、退延ノ決定	二六日	三十五年 九七〇號	被告 篠原仙松 外一名	一
森林竊盜及附帶私訴ノ件	代理權ノ證明、所屬官署ノ國ノ代表者ノ指定時期、官署ノ印ノ押捺ナキ文書	二六日	三十五年 九七五九號	被告 中村榮次 被告 藥科鎮衛 被告 梁城初次 外五名	九
私印私書偽造行使ノ件	戶籍ニ關スル詐欺ノ届書、誤記ノ列文	二六日	三十五年 九七六二號	被告 大井眞操	二
公文書偽造行使公印盗用詐欺取財ノ件	第二審ノ重罪事件	二六日	三十五年 九八三三號	被告 高橋利作	三
私印私書偽造行使ノ件	公訴事實ト犯罪行為、私印偽造罪ノ成立	二六日	三十五年 九八一七號	被告 大友良亮	三
委託金費消撈帶ノ件	裁判費用ノ負擔	二六日	三十五年 九八三二號	被告 三宅治郎吉	三
私書偽造行使詐欺取財ノ件	一審公判手續ノ瑕疵	三六日	三十五年 九七七八號	被告 小野寺隆助 被告 寺崎寅五郎 外一名	四
約束手形偽造行使詐欺取財ノ件	偽造變造ノ區別	五六日	三十五年 九七七六號	被告 佐藤嘉助	五
森林法違犯ノ件	公訴權消滅ノ確定判決	五六日	三十五年 九八四一號	被告 佐藤嘉助	五
謀殺ノ件	姦所ノ豫謀殺傷	六六日	三十五年 九八六六號	被告 佐藤嘉助	五
偽證ノ件	關席判決	六六日	三十五年 九八六七號	被告 佐藤嘉助	五

刑事事件目錄



いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從ヒ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サルハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用非ス○頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラス入ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ハナホウニ入ルカ如シ

[イ]

一審公判手續ノ取環

第一審公判手續ノ取環ハ第二審ニ於テ之ヲ更正スルヲ以テ足ル從テ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス

委託物費消

(親等ノ明示。參看)

違法ノ公判

(辯護人ノ呼出狀。參看)

判事代理權ノ證明書

(代權權ノ證明。參看)

判文ノ誤記

(誤記ノ判文。參看)

犯罪行為ノ認定

(公訴事實ト犯罪行為。參看)

判決ノ取消

(一審公判手續ノ取環。參看)

判決原本作成場所ノ記載

刑事いろは索引

丁數

三

二

一

九

八

七

六

五

[ほ]

判決原本作成ニ付テハ刑事訴訟法第二百五條ノ特別規定アリテ別ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘシトノ規定ナキヲ以テ其記載ナキハ當然ナリ

法律ノ規定ニ基ク代理權

(代理權ノ證明。參看)

法令ニ基キ作成スル書類

(官文書ノ意義。參看)

騙取

(債務辨濟ノ恐喝。參看)

辯護士控所ノ演説

裁判所構内辯護士控所ニ於テ辯護士新聞記者廷丁給仕傍聽人等數十名居合セタル際暗ニ檢事ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放チ大聲演述シタル所爲ハ刑法第四百一十一條第二項ニ所謂公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタルモノトス

辯護人ノ呼出狀

辯護人ニ對シ適法ノ呼出狀ヲ送達セスシテ

丁數

九

一〇

三

二

一

公判ヲ開廷シ辯護人ノ出廷ナキニ證人ノ訊問ヲ爲シタルハ違法ナリ

〔ち〕

調印 (相濟ト刻シタル印頭。參看)

調書ノ署名捺印

調書ニ署名捺印セシムルハ供述者ナシテ其供述ノ録取ニ相違ナキコトヲ認承セシムルカ爲メナリトス從テ何等ノ供述ヲ爲サトル被告ニ對シ證人調書ニ署名捺印セシムルノ要ナシ

〔り〕

臨檢證人訊問 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトシ受命判事ナシテ臨檢ノ處分ヲ爲スコトヲ許シタル以上(刑事訴訟法第二百三十八條)ハ其臨檢處分ノ必要上證人ヲ訊問スルハ違法ニ非ス

毆打ノ意思ナキ傷人 (強奪行爲ニ因ル傷人。參看)

賄賂收受 (刑事ノ裁判ニ關シノ意義。參看)

確定判決 (公訴權消滅ノ確定判決。參看)

〔か〕

〔わ〕

〔を〕

〔り〕

〔二〕

姦所ノ豫謀殺傷 刑法第三百十一條ノ「直チニ」ナル語ハ「姦所ニ於テ」ノ語ヲ承ケタルモノトス從テ本夫力姦通ノ現場ニ於テ直チニ殺傷ヲ爲シタルトキハ其豫謀ニ出テタル場合ト雖モ同條ノ宥恕ヲ受クヘキモノトス

間稅官吏ノ告發時期

間稅官吏カ間接國稅犯則者ニ對シ告發ヲ爲スニハ間接國稅犯則者處分法第十一條ノ通告ヲ爲シタル後犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セサルトキニ限ル

間接國稅犯則者ニ對スル檢事ノ公訴提起

檢事ハ間接國稅犯則者ニ對シテハ間稅官吏ノ告發ヲ待ツニ非サンハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

豫謀殺傷

(姦所ノ豫謀殺傷。參看)

呼出狀ノ本人送達 (國席判決。參看)

豫審決定書ノ送達 (國席判決。參看)

〔よ〕

〔二〕

豫審免訴ノ事實ノ判決

豫審終結決定書ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シタル事實ニ對シ審理判決シタルハ不法ナリ

退廷ノ決定

公判廷ニ於テ證人訊問ノ際刑事訴訟法第九十七條ニ依リ被告入ヲ退廷セシムルニハ裁判所ノ決定ヲ要スルモノトス然レトモ公判始末書ニ其決定ヲ爲シタル記載ナキノ故ヲ以テ決定ヲ爲サ、リシモノト云フヲ得ス

代理權ノ證明

判事カ法律ノ規定ニ基キ檢事ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ特ニ其代理權アルコトヲ證明スヘキ書面アルヲ要ス

代表者ノ指定時期

(國ノ代表者ノ指定時期。參看)

第二審ノ重罪事件

豫審終結決定ヲ以テ重罪公判ニ付セラレタル事件ハ縱令第一審判決カ輕罪ノ刑ヲ言渡シタルトキト雖モ更ニ第二審ニ繫屬シタル場合ニ於テハ輕罪公判ニ付セラレタルモノト爲ズヲ得ス從テ重罪事件ニ關スル手續ヲ

刑事いろは索引

〔れ〕

〔そ〕

〔つ〕

〔な〕

〔む〕

〔う〕

踐行スヘキモノトス

嘆願

(再開廷願ノ決定。參看)

例規ノ存否 (官文書ノ認定。參看)

挿入字數ノ誤記

挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス(刑事訴訟法第二十一條)從テ其字數ノ記載ニ誤謬アルモ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ナリ罪トナラサル行爲ノ手段タル犯罪

(目的ト手段。參看)

内達慣例等ニ依リ作成スル書類

(官文書ノ認定。參看)

無効ノ上告趣意書

上告ノ理由ハ趣意書ヲ以テ明白ニ指示スヘキモノトス從テ單ニ法律ヲ不當ニ適用シ及ヒ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリトシ記載シ其不法ノ點ヲ指示セサル上告趣意書ハ無効ナリ

訴ナキ事件

(公訴事實ト犯罪行爲。參看)

〔九〕 國ノ代表者ノ指定時期

大林區署長方國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ  
明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制  
限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リ  
タル前ナルト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノ  
トス

官署ノ印ノ押捺ナキ文書

大林區署長方國ノ代表者ヲ指定シタル指定  
書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スル文書  
ニ非サルヲ以テ官署ノ印ヲ押捺セサルモ無  
效ニ非ス

國ノ代表者ノ指定書

(官署ノ印ノ押捺ナキ文書。參看)

管轄邊ノ言渡

(公訴權消滅ノ確定判決。參看)

還付處分ノ當否

還付處分ニ付キ失當ノ點アリトスルモ自己  
ノ利害ニ關係ナキ被告ハ之ヲ論争スルヲ得  
ス

官文書ノ意義

刑法第二百三條ニ所謂官文書トハ官吏方其  
職務ノ執行上法令其他所屬官廳ノ職務規定  
ニ基キ作成スル書類ヲ總稱ス

〔八〕 雇主ノ證人資格

刑事訴訟法第二百三條ハ雇主ノ雇主ノ爲  
メ證言スル場合ニ證人タルノ資格ナシトノ  
規定ニシテ雇主方雇主ノ爲メ證言スル場合  
ヲ規定シタルモノニ非ス

〔七〕 検事ノ職務ヲ行フ判事ノ所屬官署

(所屬官署。參看)

關席判決

刑事訴訟法第二百二十七條ハ被告本人ヲシ  
テ事件方某裁判所ノ公判ニ付セラレタルコ  
トヲ確知セシムルノ趣旨ナリトス從テ控訴  
裁判所方關席判決ヲ爲スニハ豫審終結決定  
書ノ本人送達アリタルトキト雖モ更ニ呼出  
狀ノ本人送達ヲ爲シタルコトヲ要ス而シテ  
被告方第二審ノ公判ニ付セラレタルコトヲ  
確知セル場合ニ於テハ特ニ其必要ナシ

検事正ノ控訴申立

検事正ハ裁判所構成法第三十三條ノ司法行  
政ニ關スル事務ヲ取扱フノミナラス同法第  
八十三條ニ依リ檢事ニ關スル一般ノ職務ヲ  
自ラ取扱フノ權限ヲ有ス從テ檢事正ノ爲シ  
タル控訴申立ハ適法ナリ

刑事いんば索引

官文書ノ認定

官廳ノ内達慣例等ニ依リ作成スヘキ書類ニ  
關シ其例規ノ存在スルヤ否ヤハ一ノ事實問  
題ナリトス從テ裁判所ハ各種ノ證據方法ニ  
依リ其存否ヲ認定シ官文書ナルヤ否ヤヲ解  
決スヘキモノトス

官文書本來ノ目的效用以外ノ使用

官文書作成ノ目的及ヒ其本來ノ效用如何ニ  
拘ハラズ之ヲ他ノ目的ニ使用シ本來定マレ  
ル效用以外ノ效用ヲ致サシムルコトヲ得從  
テ此場合ニ於テモ官文書偽造行使罪ヲ構成  
ス

官吏侮辱

(形容ノ侮辱。辯護士控所ノ演說。參看)

官憲ニ對スル侮辱

(訟廷列席ノ判檢事ニ對スル侮辱。參看)

官吏侮辱罪ノ被害者

(訟廷列席ノ判檢事ニ對スル侮辱。參看)

官署ノ印ナキ告訴調書

告訴調書ハ刑事訴訟法第五十一條ニ依リ作  
成スヘキ書類ナリトス從テ其調書ニシテ官  
印ノ押捺ナキ以上ハ無効ナリ

形容ノ侮辱

公廷内ニ於テ立會檢事ノ職務ニ對シ侮辱ヲ  
加フル目的ヲ以テ檢事ニ面シタル儀故ラニ  
兩手ニテ顔ヲ撫テ大ナル咳嗽ノ聲ヲ發シ  
雙手ヲ高ク差伸シ大聲ヲ發シタル所爲ハ刑  
法第四百一十一條第一項ニ所謂形容ヲ以テ侮  
辱シタルモノトス

刑事ノ裁判ニ關シノ意義

刑法第二百八十六條ニ刑事ノ裁判ニ關シト  
アルハ公訴ノ提起後ハ勿論其以前ト雖モ苟  
クモ公訴ト爲ルヘキ事柄ニ關スル總テノ場  
合ヲ包含スルモノトス

檢事ノ公訴權

(公訴權發生時期。參看)

不利益ノ變更

(公訴事實ト犯罪行為。參看)

不法ノ審理判決

(豫審免訴ノ事實ノ判決。參看)

誣告ノ共謀

數人共謀シテ誣告ヲ爲ス場合ニ在テハ共謀  
者中一人ノ犯罪行為ノ實行ハ共謀者全體ノ  
行為ト看做スヘキモノトス

五

四

文書偽造行使

(官文書本来ノ目的效用以外ノ使用。参看)

不法ノ點ヲ指示セサル上告趣意書

(無効ノ上告趣意書。参看)

公判始末書ノ記載

(退廷ノ決定。参看)

戸籍ニ關スル詐欺ノ届書

正當ニ入籍ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ爲メ虚偽ノ事實ヲ記載シタル隱居届及ヒ入夫婚姻届ヲ戸籍吏ニ提出シタル所爲ハ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐欺ノ届出(戸籍法第二百十五條)ヲ爲シタルモノトス

誤記ノ判文

判文法律適用ノ部ニ第一ニ刑法ヲ適用シ第二ニ戸籍法ヲ適用シ次ニ數罪併發例及ヒ裁判費用ノ點ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ同法第何條トアリテ文理上戸籍法ヲ承ケタルカ如キモ其前ニ掲ケタル刑法ナル文字ヲ指シタルコト明カナルトキハ判文妥當チ欠クモ以テ原判決ヲ破毀スルニ足ラス

公訴事實ト犯罪行為

一〇六

一〇七

一〇八

一〇九

一一〇

一一一

一一二

一一三

一一四

一一五

一審判決ニ於テ認メタル六箇ノ犯罪行為ヲ

二審判決ニ於テハ十二箇ノ犯罪行為ナリト

認定スルモ其事實ニシテ公訴事實ノ範圍内ナルトキハ之ヲ以テ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シ若クハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

公判手續ノ瑕瑾

(二審公判手續ノ瑕瑾。参看)

公訴權消滅ノ確定判決

公訴權消滅ノ原因タル確定判決トハ被告ノ罪責ノ有無ヲ定メタル判決ヲ謂フ從テ公訴不受理ノ言渡若クハ管轄違ノ言渡ハ之ヲ包含セシ

公訴不受理ノ言渡

(公訴權消滅ノ確定判決。参看)

控訴申立

(檢事正ノ控訴申立。参看)

告發書

(稅務管理局長ノ告發書。参看)

強盜傷人ノ共犯

二人以上共謀シテ強盜ヲ行ヒ其強奪ノ際傷人ノ行為アリタルトキハ縱令其傷人ハ他ノ

一〇六

一〇七

一〇八

一〇九

一一〇

一一一

一一二

一一三

一一四

一一五

一一六

一一七

一一八

一一九

〔乙〕

文書偽造行使

(官文書本来ノ目的效用以外ノ使用。参看)

不法ノ點ヲ指示セサル上告趣意書

(無効ノ上告趣意書。参看)

公判始末書ノ記載

(退廷ノ決定。参看)

戸籍ニ關スル詐欺ノ届書

正當ニ入籍ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ爲メ虚偽ノ事實ヲ記載シタル隱居届及ヒ入夫婚姻届ヲ戸籍吏ニ提出シタル所爲ハ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐欺ノ届出(戸籍法第二百十五條)ヲ爲シタルモノトス

誤記ノ判文

判文法律適用ノ部ニ第一ニ刑法ヲ適用シ第二ニ戸籍法ヲ適用シ次ニ數罪併發例及ヒ裁判費用ノ點ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ同法第何條トアリテ文理上戸籍法ヲ承ケタルカ如キモ其前ニ掲ケタル刑法ナル文字ヲ指シタルコト明カナルトキハ判文妥當チ欠クモ以テ原判決ヲ破毀スルニ足ラス

公訴事實ト犯罪行為

一人ノ行為ナリトスルモ共犯者ハ共ニ強盜傷人罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

公然ノ演說

(辯護士控所ノ演說。参看)

強奪行為ニ因ル傷人

強盜ヲ行フニ當リ其強奪ノ行為ヨリシテ人ヲ傷シタルトキハ毆打ノ意思ノ有無ヲ論セズ強盜傷人罪ヲ構成ス

告訴調書

(官署ノ印ナキ告訴調書。参看)

公訴權發生時期

檢事ノ公訴權ハ犯罪アルト同時ニ發生ス從テ公訴提起ノ當時ニ在テ既ニ犯罪ニ着手シタル以上ハ公訴提起後ニ至リ其目的ヲ遂行シタル場合ト雖モ公訴ノ効力ニ何等ノ影響ナシ

告發時期

(間接官吏ノ告發時期。参看)

公訴提起

(間接國稅犯則者ニ對スル檢事ノ公訴提起。参看)

演說ノ侮辱

〔あ〕

(辯護士控所ノ演說。参看)

相濟ト刻シタル印類

印影ニハ必スシキ氏名ヲ表彰スルノ要ナシ從テ「相濟」ト刻シタル印類ト雖モ押捺者ノ承諾ヲ證スル爲メ其名下ニ押捺スルニ於テハ調印ニ外ナラス

詐偽ノ届書

(戸籍ニ關スル詐欺ノ届書。参看)

裁判費用ノ負擔

相被告ト連帶負擔セシムヘキ裁判費用ナルモ相被告ニ其半額ノ負擔ヲ命ジタル第一審判決ノ確定シタル場合ニ於テ他ノ被告ニ對シ他ノ半額ノ單獨負擔ヲ命ジタル第二審判決ハ相當ナリ

作成場所ノ記載ナキ判決原本

(判決原本作成場所ノ記載。参看)

再開廷願ノ決定

一旦結審ヲ宣告シタル後被告ノ提出シタル再開廷願ハ一ノ噸願ニ過キサレハ之ニ對シ決定ヲ與フルノ要ナシ

債務辨濟ノ恐喝

恐喝手段ヲ用ヒ財物ヲ交付セシメタル所爲

一一六

一一七

一一八

一一九

一二〇

一二一

一二二

一二三

一二四

一二五



[a]

ハ恐嚇取財罪ヲ構成ス而シテ恐嚇者カ被恐嚇者ニ對シ債權ヲ有セシヤ否ハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ

偽造ノ程度  
(私印偽造罪ノ成立。參看)  
偽造變造ノ區別

新ニ證書ヲ作成シ又ハ既存ノ證書ヲ利用シ其記載ヲ増減變更シテ新ナル權利關係ヲ證スヘキ證書ヲ作成シタル所爲ハ證書偽造ナリ而シテ既存ノ證書ノ記載ヲ増減變更スルモ單ニ其證書ノ效力ヲ變更スルニ過キサル所爲ハ證書變造ナリ

既存證書ノ増減變更

(偽造變造ノ區別。參看)

共犯ノ責任

(強盜傷人ノ共犯。參看)

既知ノ事實

(心證判斷ノ資料。參看)

供述者ノ署名捺印

(調書ノ署名捺印。參看)

宥恕

(姦所ノ豫謀殺傷。參看)

三 四 五 六 七 八 九

[b]

郵便爲替金騙取ノ被害者

自己ノ振出シタル郵便爲替金ト雖モ詐欺ノ所爲ヲ以テ之ヲ騙取シタルトキハ郵便局ニ被害ナシト云フヲ得ス

審理更新前ノ證據決定

審理更新前ニ爲シタル證據調ノ決定ハ其更新ニ依リ消滅スルモノニ非ス從テ第一回公判ニ於テ爲シタル證人喚問ノ決定ニ基キ第二回公判ニ於テ其證人ノ取調ヲ爲シタルハ當然ノ措置ナリトス

證據決定

(審理更新前ノ證據決定。參看)

字數ノ誤記

(挿入字數ノ誤記。參看)

所屬官署

刑事カ檢事ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ其所屬官署ハ檢事局ナリトス

指定時期

(國ノ代表者ノ指定時期。參看)

自己ノ利ヲ圖リ(戶籍法第二百十五條)ノ意義

(戶籍ニ關スル詐欺ノ屈害。參看)

一 二 三 四 五 六 七 八 九

重罪事件ノ下調

(第二審ノ重罪事件。參看)

私印偽造罪ノ成立

私印偽造行使罪ノ成立スルニハ偽造ニ係ル印章カ入テシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足ル而シテ其眞印ノ眞印ニ酷似スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

證人訊問

(臨檢證人訊問。參看)

事務補助ノ依囑

豫審判事ハ其所屬支部ノ豫審判事ニ事務ノ補助ヲ依囑スルコトヲ得而シテ此場合ハ刑事訴訟法第百三十二條ニ基ク囑託ニ非サルヲ以テ支部豫審判事ノ作成シタル證人調書ト雖モ無効ニ非ス

證人調書

(事務補助ノ依囑。參看)

執務規定ニ基キ作成スル書類

(官文書ノ意義。參看)

事實問題

(官文書ノ認定。參看)

刑事いゝは索引

三 四 五 六 七 八 九

自己振出ノ郵便爲替金ノ騙取

(郵便爲替金騙取ノ被害者。參看)

訟廷列席ノ判檢事ニ對スル侮辱

訟廷ニ列席セル判檢事等ニ對シ單一ノ行爲ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ則チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行爲ニシテ各人ニ對スル每一ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ審理ノ結果被害者ノ數ヲ増減スルモ之カ爲メ殊別ノ判決ヲ爲スノ要ナシ

證人宣誓ノ效力

(宣誓ノ效力。參看)

心證判斷ノ資料

事實裁判所ハ犯罪事實ヲ認定スルニ當リ既知ノ事實ニシテ間接ニ犯罪事實ヲ推定スルニ足ルモノハ總テ之ヲ心證判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得

親等ノ明示

委託物費消罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族ナルトキハ其罪ヲ論セサルモノトス(刑法第三百九十八條)從テ被告ハ被害者ノ親族ナルコトヲ認メナカク如何ナル親等ノ親族ナルカヲ明示セスシテ刑ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

一 二 三 四 五 六 七 八 九

証人資格

(宿主ノ証人資格。參看)

被告人退廷ノ決定

(退廷ノ決定。參看)

費用ノ負擔

(裁判費用ノ負擔。參看)

被告ノ利害ニ關係ナキ還付處分

(還付處分ノ當否。參看)

目的ト手段

目的タル行爲ニシテ罪トナラサルモ其目的ヲ達スル手段ニシテ犯罪ヲ構成スル以上ハ之ヲ處罰スヘキハ勿論トス

稅務管理局長ノ告發書

稅務管理局長ハ刑事訴訟法第二十條ニ所謂官吏ニ非ズ從テ其作成スル告發書ニシテ同條第一項ノ規定ニ違背スル所アルモ無効ナリト云フヲ得ス

宣誓ノ效力

公廷ニ於テ證人ノ一度爲シタル宣誓ハ後日證人ニシテ民事原告人トナリ證人ノ資格ヲ喪失スルモ直ニ其效力ヲ失フモノニ非ズ從テ證人カ私訴ヲ取下ケ證人資格ヲ回復シ

〔九〕

タル場合ニ於テハ此ニ爲シタル宣誓ニ基キ之ヲ訊問スルコトヲ得

數人共謀ノ誣告

(誣告ノ共謀。參看)

法 文 表

刑法

一四一條	三五
二〇三條	一〇六
二八六條一項	一六〇
三一一條	五二
三七七條	一六四
三九八條	一六四
刑事訴訟法	
二〇條	一三三
二一條	一
五一條	一五五
一一三條四號	一八八
一一三條	七二

丁數

一九七條

二〇五條

二二七條一項

二三八條

裁判所構成法

三三條

八三條

戶籍法

二一五條

間接國稅犯則者處分法

一一條一項

一二條

一三條

丁數

月日目錄

六月二日	三十五年 れ七〇〇號	棄却	東京	一
六月二日	三十五年 れ七五九號	棄却	宮城	九
六月二日	三十五年 れ七六一號	棄却	東京	四
六月二日	三十五年 れ八〇二號	破毀	東京	六
六月二日	三十五年 れ八一七號	棄却	東京	元
六月二日	三十五年 れ八二一號	棄却	宮城	三
六月三日	三十五年 れ九七八號	棄却	大阪	三
六月五日	三十五年 れ七七六號	棄却	宮城	四
六月五日	三十五年 れ八四一號	棄却	東京	四
六月六日	三十五年 れ八九六號	棄却	大阪	五
六月六日	三十五年 れ九六七號	棄却	大阪	五
六月六日	三十五年 れ九八一號	棄却	廣島	五

刑事月日目錄

宣告月日

番號

判決結果

原審

丁數



人名音字目錄

人名	番號	原審	丁數
飯山延太郎外二名 <small>被告</small>	三十五年 れ八六四號	東京	一〇六
岩城 逆 <small>被告</small>	三十五年 れ一一四八號	大阪	一八
波多野直養外一名 <small>被告</small>	三十五年 れ八七七號	宮城	一七五
富名善 吉外二名 <small>被告</small>	三十五年 れ九一八號	名古屋	一五
大井真 操 <small>被告</small>	三十五年 れ八〇二號	東京	一六
大友良 亮 <small>被告</small>	三十五年 れ八二一號	宮城	一三
小野寺隆助外一名 <small>被告</small>	三十五年 れ七七六號	宮城	一四
大野久太郎外四名 <small>被告</small>	三十五年 れ八五六號	東京	一五
小川 至 <small>被告</small>	三十五年 れ八八六號	東京	一三
大久保哲 造 <small>被告</small>	三十五年 れ一〇四三號	廣島	一四
齋科 鎮衛 <small>私訴被告</small>	三十五年 れ七五九號	宮城	九
高橋利 作 <small>被告</small>	三十五年 れ八一七號	東京	一六

刑事人名音字目錄

田中正 造告	三十五年	れ一〇二三號	東京	一三五
田村力太郎 告	三十五年	れ一一〇八號	大阪	一六六
鶴田太 作告	三十五年	れ九八四號	東京	一八一
塚本榮 助告	三十五年	れ九一六號	宮城	二〇〇
中村榮 次告	三十五年	れ七六一號	東京	一四
栗城初 次外五名公訴私訴 上告人	三十五年	れ七五九號	宮城	九
國弘 團 藏外二名告	三十五年	れ九八一號	廣島	五九
楠 偕 率告	三十五年	れ一〇九三號	大阪	一六〇
山澤小平 太告	三十五年	れ八二四號	宮城	八七
小島久 吉外三名告	三十五年	れ九三〇號	長崎	六
小松喜 助告	三十五年	れ九七六號	大阪	七
寺崎寅五 郎告	三十五年	れ八四一號	東京	四九
有家嘉 吉告	三十五年	れ九一五號	東京	一六
佐藤嘉 助告	三十五年	れ八九六號	大阪	五一
佐藤熊治 郎告	三十五年	れ九六七號	大阪	五

齋藤平 吉告	三十五年	れ九六〇號	東京	一三〇
佐藤金五 郎外二名告	三十五年	れ八一六號	宮城	一五〇
木下政治 郎告	三十五年	れ一一四九號	大阪	一三
三宅治郎 吉告	三十五年	れ九七八號	大阪	六
篠原仙 松外一名告	三十五年	れ七〇〇號	東京	一
新行内定 吉告	三十五年	れ七七二號	東京	七
志田兵四 郎告	三十五年	れ九六四號	宮城	一六
島田林次郎外二名告	三十五年	れ一一一〇號	廣島	一六
森田 愿外一名告	三十五年	れ一一六九號	大阪	一六

# 大審院刑事判決錄

第八輯

第六卷

## ○恐喝取財ノ件

明治三十五年(レ)第七〇〇號  
明治三十五年六月二日宣告

### ○判決要旨

- 一 審理更新前ニ爲シタル證據調ノ決定ハ其更新ニ依リ消滅スルモノ
- ニ 非ス從テ第一回公判ニ於テ爲シタル證人喚問ノ決定ニ基キ第二回公判ニ於テ其證人ノ取調ヲ爲シタルハ當然ノ措置ナリトス(判旨第五點)
- 一 挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス(刑事訴訟法第二十一條)從テ其字數ノ記載ニ誤謬アルモ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ナリ(同上)

審理更新前ノ證據決定○挿入字數ノ誤記○退廷ノ決定

審理更新前ノ證據決定○挿入字數ノ誤記○退廷ノ決定

二

(參照) 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル可シ(刑事訴訟法第二十一條)

一 公判廷ニ於テ證人訊問ノ際刑事訴訟法第九十七條ニ依リ被告人ヲ退廷セシムルニハ裁判所ノ決定ヲ要スルモノトス然レトモ公判始末書ニ其決定ヲ爲シタル記載ナキノ故ヲ以テ決定ヲ爲サ、リシモノト云フヲ得ス(判旨第六點)

(參照) 裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判所ハ證人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス(刑事訴訟法第九十七條)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 篠原 仙松  
外一名

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十五年三月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ不當ニ事實ヲ確定シ且ツ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト思料スト云フニ在リテ○其不法ナリトスル點ヲ摘示セサルヲ以テ論旨ノ當否ヲ判スルニ由ナク結局本論旨ハ上告ノ理由トナラス

辯護人ノ擴張書ヲ要スルニ原判決ノ事實ニ依レハ被告等カ被害者富澤唯次郎ニ對シテ有スル債權ハ當事者間ノ賭博ニ依リ生シタルモノニシテ唯次郎ハ之ニ對シ辨濟ノ意思ナカリシニ被告等ハ共謀シテ唯次郎ヲ恐喝シ其辨濟ヲ受ケタルモノナリ然ルニ刑法第三百九十條ノ犯罪ヲ構成スルニハ第一人ヲ欺罔恐喝スルコト第二財物ヲ騙取スルノ二條件ヲ要ス假令恐喝ノ所爲アリトスルモ騙取ノ所爲ナシトセハ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非ス而シテ本案ニ於テハ恐喝ノ所爲アリトスルモ騙取ノ所爲ナキモノトスルヲ相當トス抑モ騙取ナルモノハ其財物ノ交付ヲ受クヘキ權利ナキニ不拘之ヲ受ケタルノ所爲ナルヲ以テ正當ニ之カ交付ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノニ於テ其交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ固ヨリ騙取ニ非ス何トナレハ其財物ノ交付ヲ受ケタルハ權利ノ實行ニアレハナリ而シテ賭博ニ基ク債權ハ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非サルハ勿論ナルモ當事者ニ於テ之カ辨濟ヲ爲スハ固ヨリ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ示談上其支拂ヲ受ケル場合ニ於テハ適法ナル債權ト同一ニシテ被告等ノ所爲タル其辨濟ヲ受ケタル手段方法ニ不法ノ所爲アリタルニ止リ騙取ナケレハ刑法第三百九十條ノ犯罪ヲ構成セスト云フニ在レトモ○原判決ニ認ムル如ク唯次郎ニ於テ返金ノ模様ナキヨリ被告等ハ同人ヲ恐喝シ金圓ヲ騙取セ

審理更新前ノ證據決定○挿入字數ノ誤記○退廷ノ決定

三



ント企テ遂ニ恐喝ノ手段ヲ用ヒ素ヨリ出金ノ意ナカリシ唯次郎ヲシテ金圓ノ交付ヲ爲スニ至ラシメタルモノナレハ其金圓ノ交付ハ名ハ債務ノ辨濟ニアリト雖モ其實ハ恐喝ノ結果唯次郎ヨリ止ムヲ得ス交付シタルモノニ外ナラサレハ即チ騙取ノ所爲アルモノニシテ原院カ刑法第三百九十條ニ依リ處斷シタルハ不法ニアラス

第二點ハ原判決ニ依レハ「唯次郎ニ向ヒ先年篠原仙松へ差入レタル五十圓證書ハ仙松ノ親分高崎惣ノ手ニ現有シアル故財産差押へ杯受ケサル内幾分ノ出金ヲナシ示談シテハ如何博徒ハ惡シキ者故闘打テモ爲サレテハ困ル可シト云ヒ」トアリ即チ此事實ヲ以テ恐喝ナリト認メアルモ其財産差押ハ民事訴訟法ニ於テ吾人ノ有スル權利ナルヲ以テ債權者ヨリ債務者ニ對シ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ財産差押ヲナスヘシト云ヒタリトスルモ固ヨリ恐喝ニ非サルコト敢テ論ナシ左レハ原判決ハ被害者唯次郎ノ恐怖ヲナシタルハ此差押云々ニ依リタルモノト認メタルカ將タ又其後段タル博徒ハ惡シキモノ故云々ニ依リタルモノナルカナ明白ナラシメサルヘカラサルニ被害者唯次郎カ前後何レノ事實ニ基キ危懼ノ念ヲ生シタルヤチ知ルニ由ナク而シテ被害者カ前後何レニ依リ危懼ノ念ヲ生シタルカノ事實ハ本案ニ於テ極メテ重要ナル問題即チ有罪無罪ヲ決スヘキ論點タルヲ以テ之ヲ明白ナラシメサル原判決ハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○單ニ財産差押云々ノミナレハ或ハ恐喝ノ意ナシトスルヲ得ヘキモ原院ハ被告長太郎カ唯次郎ニ對シ發シタル五十圓證書ハ仙松ノ親分云々ヨリ博徒云々マテノ言語ノ全部カ出金ヲ肯

セサルニ於テハ危害其身ニ及ハンコトヲ意味スルモノトシ之ヲ恐喝ノ手段ナリト認メタルコト判文上明白ナレハ理由ノ不備ナシ

第三點ハ巡查ニシテ警部代理トナリ司法警察官タルノ職務ヲ執行スルニハ明治十四年司法省甲第五號ノ布達ニ基キ其旨裁判所へ届出ヲ爲スヘキモノニシテ若シ其届出ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ刑事訴訟法第四十七條ニ準據スヘキコト當然ナリ然ルニ本案記録中曾テ其届出ノアリタル旨ノ見ルヘキ書類ナキヲ以テ同巡查カ警部代理ナリト稱シ調製シタル聞取書ハ其職權ニ基キタルモノナリヤ否ヲ認メ得サルヲ以テ司法警察官ノ聞取書ナリトシテ引用シ得ヘキモノニ非ス左レハ之ヲ引用シタル原判決ハ不當ナリト云フニ在レトモ○巡查ニシテ警部代理ヲ爲ス届出ハ各事件ニ付テ爲スモノニアラサレハ訴訟記録ニ添付スヘキモノニアラス然ラハ其記録中ニ届出アリタルコトヲ見ルヘキ書類ナシトテ警部代理ニ非ラスト云フヲ得サレハ本論旨ハ謂ハレナシ

第四點ハ原院ニ於テ富澤唯次郎ヲ證人トシテ取調ヘタルハ不法ナリ隨テ其證言ヲ引用シタル原判決ハ不當トス其理由ハ(第一)該證人ハ明治三十五年二月十二日ノ公判ニ於テ決定セラレタル證人ニシテ同年三月二十六日即チ第二回ノ公判ニ於テハ判事ニ異動アリタル爲メ更新セラレタル新ナル公判タルヲ以テ前回ノ證人決定ハ已ニ其效力ヲ失ヒタルト認ムヘシ左レハ第二回公判ニ於テハ曾テ證人決定ヲナサ、ル證人ヲ取調ヘタルト同一結果アリ(第二)假リニ前段論旨ヲ誤謬ナリト認ムルモ第一回公

ソト企テ遂ニ恐喝ノ手段ヲ用ヒ素ヨリ出金ノ意ナカリシ唯次郎ヲシテ金圓ノ交付ヲ爲スニ至ラシメタルモノナレハ其金圓ノ交付ハ名ハ債務ノ辨濟ニアリト雖モ其實ハ恐喝ノ結果唯次郎ヨリ止ムヲ得ス交付シタルモノニ外ナラサレハ即チ騙取ノ所爲アルモノニシテ原院カ刑法第三百九十條ニ依リ處斷シタルハ不法ニアラス

第二點ハ原判決ニ依レハ「唯次郎ニ向ヒ先年篠原仙松ニ差入レタル五十圓證書ハ仙松ノ親分高崎惣ノ手ニ現有シアル故財産差押ヘ杯受ケサル内幾分ノ出金ヲナシ示談シテハ如何博徒ハ惡シキ者故闇打テモ爲サレテハ困ル可シト云ヒ」トアリ即チ此事實ヲ以テ恐喝ナリト認メアルモ其財産差押ハ民事訴訟法ニ於テ吾人ノ有スル權利ナルヲ以テ債權者ヨリ債務者ニ對シ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ財産差押ヲナスヘシト云ヒタリトスルモ固ヨリ恐喝ニ非サルコト敢テ論ナシ左レハ原判決ハ被害者唯次郎ノ恐怖ヲナシタルハ此差押云々ニ依リタルモノト認メタルカ將タ又其後段タル博徒ハ惡シキモノ故云々ニ依リタルモノナルカヲ明白ナラシメサルヘカラサルニ被害者唯次郎カ前後何レノ事實ニ基キ危懼ノ念ヲ生シタルヤチ知ルニ由ナク而シテ被害者カ前後何レニ依リ危懼ノ念ヲ生シタルカノ事實ハ本案ニ於テ極メテ重要ナル問題即チ有罪無罪ヲ決スヘキ論點タルヲ以テ之ヲ明白ナラシメサル原判決ハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○單ニ財産差押云々ノミナレハ或ハ恐喝ノ意ナシトスルヲ得ヘキモ原院ハ被告長太郎カ唯次郎ニ對シ發シタル五十圓證書ハ仙松ノ親分云々ヨリ博徒云々マテノ言語ノ全部カ出金ヲ肯

セサルニ於テハ危害其身ニ及ハンコトヲ意味スルモノトシ之ヲ恐喝ノ手段ナリト認メタルコト判文上明白ナレハ理由ノ不備ナシ

第三點ハ巡查ニシテ警部代理トナリ司法警察官タルノ職務ヲ執行スルニハ明治十四年司法省甲第五號ノ布達ニ基キ其旨裁判所ヘ届出ヲ爲スヘキモノニシテ若シ其届出ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ刑事訴訟法第四十七條ニ準據スヘキコト當然ナリ然ルニ本案記録中曾テ其届出ノアリタル旨ノ見ルヘキ書類ナキヲ以テ同巡查カ警部代理ナリト稱シ調製シタル聞取書ハ其職權ニ基キタルモノナリヤ否ヲ認メ得サルヲ以テ司法警察官ノ聞取書ナリトシテ引用シ得ヘキモノニ非ス左レハ之ヲ引用シタル原判決ハ不當ナリト云フニ在レトモ○巡查ニシテ警部代理ヲ爲ス届出ハ各事件ニ付テ爲スモノニアラサレハ訴訟記録ニ添付スヘキモノニアラス然ラハ其記録中ニ届出アリタルコトヲ見ルヘキ書類ナシトテ警部代理ニ非ラスト云フヲ得サレハ本論旨ハ謂ハレナシ

第四點ハ原院ニ於テ富澤唯次郎ヲ證人トシテ取調ヘタルハ不法ナリ隨テ其證言ヲ引用シタル原判決ハ不當トス其理由ハ(第一)該證人ハ明治三十五年二月十二日ノ公判ニ於テ決定セラレタル證人ニシテ同年三月二十六日即チ第二回ノ公判ニ於テハ判事ニ異動アリタル爲メ更新セラレタル新ナル公判タルヲ以テ前回ノ證人決定ハ已ニ其效力ヲ失ヒタルト認ムヘク左レハ第二回公判ニ於テハ曾テ證人決定ヲナサ、ル證人ヲ取調ヘタルト同一結果アリ(第二)假リニ前段論旨ヲ誤謬ナリト認ムルモ第一回公

判始末書ニ依レハ其出廷判事ノ記載ノ部ニ於テ中村太郎ノ記載アリ之ヲ抹消シテ其傍ニ澤村勝ノ三字ヲ記載シアルモ其上欄外ノ記載ニハ「右二字入ル四字削ル」トアリ即チ四字削ルハ中村太郎ノ四字ヲ消タルモノナルモ二字入ルトノ意味ハ澤村トノ二字ナリヤ或ハ村勝トノ二字ナリヤ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス何レノ二字トスルモ如斯氏名ヲ有スル者ハ原院判事會テ其人ナキヲ以テ結果判事ノ一名ハ欠缺シタルモノトナスヲ相當トス已ニ一名ノ欠缺アリトセハ其構成ハ固ヨリ無効ナルヲ以テ隨テ該證人決定モ亦無効ナリトスト云フニ在レトモ○審理更新前ニ爲シタル證據調ノ決定ハ其更新ニ依リ消滅スルモノニアラサレハ本件ニ於テ第一回公判ニ於テ爲シタル證人喚問ノ決定ニ依リ第二回公判ニ於テ其證人ノ取調ヲ爲シタルハ當然ノ措置ナリ又第一回公判始末書ニ澤村勝ノ三字ヲ挿入シ欄外ニ二字入ルト記載アルモ刑事訴訟法第二十一條ニ依レハ挿入ニハ字數ヲ記載スルヲ要セサルヲ以テ其字數ハ記載ニ正確ヲ欠クモ既ニ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ニシテ證據決定ヲ爲シタル第一回公判ヲ開キタル公判裁判所ノ構成ニ瑕瑾アリトスルヲ得ス故ニ該決定ハ有效ニシテ上告ハ理由ナシ

判旨第五點

第五點原院公判始末書ニ依レハ「裁判長ハ證人ハ被告ノ面前ニテハ充分ノ答辯ヲナス能ハサルヲ以テ被告兩人ヲ一時退廷セシメタリ」トアリ即チ證人訊問中證人ニ於テ被告等ノ面前ニ於テハ充分ナル陳述ヲナシ得サルモノト認メ裁判長ハ直ニ被告等ヲ退廷セシメタルモノニシテ合議ノ結果之ヲ退廷セシメタルモノニ非サルコト明白ナリ然レトモ裁判長ハ單ニ證人訊問ニ關シ權利ヲ有スルニ止リ被告ヲシ

判旨第六點

テ退廷セシムルノ權利ヲ有スルモノニ非ス刑事訴訟法第九十七條ヲ按スルニ裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲナスコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告ヲ退廷セシムルコトヲ得トアリ而シテ刑事訴訟法ニ於テハ裁判長ノ權利ト裁判所ノ權利トヲ確然區別シ居ルヲ以テ本條ノ裁判所ナル文字ハ裁判長ニ非サルコト敢テ論テ俟タヌ果シテ然ラハ被告人ヲ退廷セシムル場合ニハ合議ニ於テ決定ヲ與ヘ其決定ニ基キ被告ヲ退廷セシムヘキモノナルニ不拘原院ニ於テハ前掲公判始末書ノ如ク裁判所ニ於テ被告ニ退廷ヲ命シタルコトナク該退廷ノ命ハ裁判長ノ命ニシテ裁判所ノ命ニ非サルヲ以テ不當ノ退廷タルヲ免レサルモノトス已ニ退廷ニシテ不當タラハ該證人調ヘハ違法ノモノタルヲ以テ之ヲ證據ニ供シタル原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○公判廷ニ於テ證人訊問ノ際刑事訴訟法第九十七條ニ依リ被告人ヲ退廷セシムルハ裁判長一己ノ職權ニアラスシテ裁判所ハ決定ヲ要スルコトハ論旨ノ如クナルモ決定ヲ爲スハ公廷外ニ於テスルヲ常トスルモノナレハ公廷ニ於テ決定ヲ爲サルトキハ公判始末書ニ其記載ナキハ當然ナリ然ラハ原院公判始末書ニ決定ヲ爲シタル記載ナシトテ裁判長一己ノ處置ニ出テタルモノト云フヲ得ス而シテ論旨ニ引用シタル始末書ノ記載ハ裁判長カ裁判所ノ決定ヲ實行シタルモノト解スヘケレハ此記載ノミヲ以テ裁判長一己ノ意見ヲ以テ被告人ヲ退廷セシメタルモノトスルヲ得ス從テ原審ノ公判手續ニ違法ノ點ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○森林竊盜及附帶私訴ノ件

明治三十五年(九)第七五九號  
明治三十五年六月二日宣告

○判決要旨

- 一 判事カ法律ノ規定ニ基キ檢事ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ特ニ其代理權アルコトヲ證明スヘキ書面アルヲ要セス  
(判旨第三點)
  - 一 判事カ檢事ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ其所屬官署ハ檢事局ナリトス  
(判旨第四點)
  - 一 大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リタル前ナルト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノトス  
(判旨第七點)
- (參照) 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス(明治二十五年勅令第六號第三條)
- 一 大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定シタル指定書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スル文書ニ非サルヲ以テ官署ノ印ヲ押捺セサルモ無効ニ非ス(同上)

代理權ノ證明○所屬官署○國ノ代表者ノ指定時期○官署ノ印ノ押捺ナキ文書

代理權ノ證明○所屬官署○國ノ代表者ノ指定時期○官署ノ印ノ押捺ナキ文書

第一審 福島地方裁判所若松支部 第二審 宮城控訴院

公訴私訴上告人 栗城 初次 辯護人 一松 木 豊

外五名

川島 龜 夫

私訴被上告人 藥科 鎮 衛

右被告等ニ對スル森林竊盜ノ公訴並ニ之ニ附帶ノ私訴ニ付明治三十五年三月十四日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告共ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

各被告ノ上告趣意書第一點ハ自分ハ私有森林ヲ伐リタルモ官林ヲ盜伐シタルニアラサルコトハ一件記録ニ徴シテ明瞭ナリ然ルニ原審ニ於テ架空ニ何等ノ憑據スル所ナク漫然有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ判文ニ列舉シタル各證據ニ據リ被告ハ國有林ノ立木ヲ竊取シタル事實ヲ認メタルコトハ判文上明白ニシテ證據ニ依ラスシテ漫然之ヲ認メタルモノニアラス○第一點ハ前述ノ理由ニヨリ私訴ノ要償ニ應スヘキ義務ナシト云フニ在レトモ○前點説明ノ如クナルヲ以テ本論旨モ其理由ナシ

辯護人松本豊辯明書第一ハ本件公判請求書ハ福島地方裁判所若松支部檢察代理判事篠原豊麿ノ作成シタルモノニシテ是裁判所構成法第六條第四項ニヨリテ代理ヲ命セラレタルモノナルヘシ果シテ然ラハ本件ノ如ク地方裁判所ニ屬スル事件ノ場合ニハ裁判所長其代理ヲ命スルモノナルカ故ニ授權ノ證明ア

判旨第三點

ルヲ要ス何トナレハ普通ノ任官方法ト大ニ異ル一變例タルノミナラス支部ノ判事ニ此權ヲ與フル場合ノ如キハ殊ニ然リト言ハサルヲ得サルニ記録中更ニ授權ノ證ナキハ代理權ナキ檢察代理判事篠原豊麿ノ起訴シタルモノニシテ無効ニ歸スルヲ以テ公訴不受理ヲ言渡スヘキニ被告共ニ刑ヲ科シタル原審判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○右代理ノ如キ法律ノ規定ニ基ケル場合ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ特ニ其代理權アルコトヲ證明スヘキ書面アルヲ要セス何トナレハ此場合ニ於テハ官吏トシテ其當然ノ職務ヲ行フニ外ナラサレハナリ故ニ福島地方裁判所若松支部檢察代理判事篠原豊麿ノ作成シタル公判請求書ハ無効ノモノニアラス○第二ハ第一點所論ノ如ク起訴無効ナルノミナラス本件公判請求書所屬官署印トシテ押捺セルモノヲ見ルニ福島地方裁判所若松支部檢察局ノ印章ナリ抑モ裁判所構成法第六條第四項ニヨリ判事カ檢察ヲ代理スルハ依然裁判所所屬判事ノ資格ヲ以テ單ニ一時檢察ヲ代理スルノミニシテ其職務檢察局ニ屬スト雖モ決シテ判事カ檢察局ノ所屬吏員トナルモノニアラサルハ明カナリ何トナレハ其資格檢察ニ變スルニアラスシテ依然判事タレハナリ夫レ然リトスレハ本件公判請求書ニ押捺スヘキ刑事訴訟法第二十條ニ所謂所屬官署ノ印トハ檢察局ノ印ニアラスシテ裁判所ノ印タルヤ疑ナク從テ裁判所ノ印ヲ欠缺スル起訴狀ハ刑事訴訟法第二十條ニ憑リテ無効ナリト決スヘク裁判所ハ公訴ヲ受理スヘカラサルニ原院カ被告等ニ刑ヲ科シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○判事カ檢察ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ其判事ハ則チ檢察トシテ職務ヲ行フモノナレハ其所屬官署ハ檢察局ナリ

判旨第四點

代理權ノ證明○所屬官署○國ノ代表者ノ指定時期○官署ノ印ノ押捺ナキ文書

トス故ニ檢事代理判事篠原豐麿ノ作成シタル公判請求書ニ檢事局ノ印ヲ押捺シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

辯護人川島龜夫擴張書第一ハ原判決ハ第一審受命判事有泉義行ノ檢證調書ニハ檢事堀江勉作民事原告人齋科鎮衛立會シタル旨記載シアルモ同人ハ立會人トシテ署名捺印セサルヲ以テ無効ノ書類ナリ此無効ノ書類ヲ採テ判決ヲ爲シタルハ不法ナリトスト云フニ在レトモ○該檢證調書ヲ查スルニ右檢證ニ裁判所書記カ立會シタルモノナレハ其裁判所書記カ受命判事ト共ニ署名捺印シタル已上ハ其他ノ者ノ署名捺印ナシトモ其檢證調書ハ無効ニアラサルヲ以テ原院カ該檢證調書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス』第二ハ原判決理由ノ説明ヲ閱スルニ上告人等ハ民有林ト信シテ伐採シタル旨ノ記載アルモ證據上民有林ト認め難キ旨ノ説明ニ止マリ國有林タルコトヲ知テ伐採シタルトノ説明ヲ欠ケリ故ニ原院ノ認メタル事實トスルモ無意ノ行爲ヲ處罰シタリトノ非難ヲ免カレス此點ニ於テ原判決ハ事實理由ノ不備ナル判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ數多ノ證據ヲ援用シテ被告ハ國有林タルコトヲ知リテ立木ヲ竊取シタル事實ノ理由ハ詳細ニ説明シタルコトハ判文上明カナレハ本論旨ハ其理由ナシ私訴擴張書第一ハ民事原告人齋科鎮衛ハ國ノ代表者トシテ指定セラレタレトモ其指定書ニハ官署ノ印ナシ從テ官文書ノ効ナキノミナラス其日附ハ本件ノ起ラサル以前ナル明治三十四年四月八日ナリ一般的指定ヲ爲スニハ其官職又ハ官廳ヲ指定スルハ差支ナキモ其官職ヲ帶フル人ヲ指定センニハ必ス事件

判旨第七點

ノ起リタル以後其事件別ニ指定スヘキナリ然ルニ本件ハ特別指定ノ形式ニヨラスシテ一般的指定ヲ爲シタルハ授權ノ方式ニ違背シタルモノナリ之ヲ以テ民事原告人ノ資格アリトシ判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○大林區署長林務官新井庸虎カ營林主事齋科鎮衛ヲ指定シタルハ明治二十五年勅令第六號第三條ニ依リタルモノニシテ同條ニ於テハ其指定ヲ爲スニ付キ訴訟ノ起リタル前ナルト後ナルトニ付何等ノ制限ナキヲ以テ其時期ハ一ニ官廳ノ意見ニ任セタルモノト認めサレ得ス又其指定書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スル所ノ文書ニアラサルヲ以テ官署ノ印ヲ押捺セサルモ無効ニアラス故ニ原院カ合法ノ民事原告人トシテ判決ヲ與ヘタルハ相當ナリトス第二ハ公訴判決ハ不法ノ判決ナルヲ以テ之ニ基ク私訴ノ判決ハ破毀ヲ免レスト云フニ在レトモ○公訴上告ノ理由ナキコトハ前説明ノ如クナルヲ以テ本論旨モ上告ノ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ上告人等ノ負擔トス明治三十五年六月二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

〇私印私書偽造行使ノ件

明治三十五年(九)第七六一號  
明治三十五年六月二日宣告

〇判決要旨

一 正當ニ入籍ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ爲メ虚偽ノ事實ヲ記載シタル  
隠居届及ヒ入夫婚姻届ヲ戸籍吏ニ提出シタル所爲ハ自己ノ利ヲ圖  
ル爲メ詐欺ノ届出(戸籍法第二百十五條)ヲ爲シタルモノトス(判旨第  
二點)

(參照) 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ  
詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百  
圓以下ノ罰金ニ處セラル(戸籍法第二  
百十五條)

一 判文法律適用ノ部ニ第一ニ刑法ヲ適用シ第二ニ戸籍法ヲ適用シ次  
ニ數罪俱發例及ヒ裁判費用ノ點ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ同法  
第何條トアリテ文理上戸籍法ヲ承ケタルカ如キモ其前ニ掲ケタル  
刑法ナル文字ヲ指シタルコト明カナルトキハ判文妥當ヲ欠クモ以  
テ原判決ヲ破毀スルニ足ラス(判旨第十點)

第一審 水戸地方裁判所下要支部 第二審 東京控訴院

被告人 中村榮次

右私印私書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年四月七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告  
ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
被告ノ上告趣意書第一點ハ凡ソ犯罪ハ訴アルニアラザレハ審理判決セラルヘキモノニアラサルコトハ  
論ヲ俟タス然ルニ本件ハ第一審ニ於テ私印私書偽造行使事件トシテ審理セラレ其結果無罪ノ判決ヲ與  
ヘラレ檢事ノ控訴ニ係ルモノナレハ其控訴事項ニ對シテノミ訴アリタルモノト云フヘキナリ而シテ其  
事項ハ戸籍法違犯トシテ述ヘラレ其他ノ事項ニ對シテハ原院公判始末書ニ明ナル如ク何等ノ論告ナキ  
モノナルニ原院ハ不法ニモ氏名詐稱罪ヲモ構成スルモノトシテ判決セラレタルハ是即チ訴ナキ事實ヲ  
審理判決シタルモノニシテ刑事訴訟法上ノ原則ニ反スル裁判ナリト云フニ在レトモ〇訴訟記録ニ依レ  
ハ檢事ノ控訴ハ第一審判決全部ニ對スル控訴ニシテ第二審判決ハ則チ被告カ八木謙造名義ノ隠居申請  
書上申書謄本下付願書各一通ヲ偽造シ之ニ同人ノ實印ヲ盜捺シテ水戸區裁判所ニ提出シ又同人名義ノ  
隠居届書及ヒ入夫婚姻届書ヲ偽造シ之ニ同人ノ實印ヲ盜捺シテ茨城縣東茨城郡磯濱町戸籍役場ニ提出  
シタリト本件公訴ニ係ル事實ノ全部ニ對スルモノナリトス故ニ原院カ檢事ノ控訴ニ因リ右公訴ニ係  
ル事實ヲ審理シ被告カ八木謙造名義ヲ以テ隠居申請書上申書謄本下付願書ヲ水戸區裁判所ニ提出シタ  
ルハ即チ同裁判所ニ對シ氏名ヲ詐稱シタル行爲ナリト認定シ又被告カ八木謙造名義ノ隠居届書及ヒ入

夫婚姻届書ヲ儀濱町戸籍吏ニ提出シタルハ即チ戸籍法違反ノ行爲ナリト認定シテ判決ヲ爲シタルハ固ヨリ訴ヲ受ケサル事實ヲ審判シタルモノニ非ス而シテ原院公判始末書ニ依レハ檢事ハ法律適用ノ意見ヲ述フルニ當リ論旨ノ如ク被告ノ所爲ヲ以テ戸籍法第二百五條ニ違反スルモノト爲シ氏名詐稱ノ點ニ付別ニ意見ヲ述ヘタル形蹟ナシト雖モ其事實カ控訴中ニ包含スルコトハ前説明ノ如クナルヲ以テ檢事カ之ニ付法律上ノ意見ヲ述フルト否トハ毫モ其公訴事實ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ原院カ其事實ヲ認メテ氏名詐稱罪ナリト判決シタルハ所論ノ如キ不法ノ判決ニアラス

第二點ハ戸籍法違犯罪(同法第二百五條)ヲ構成スルニハ詐欺ノ届出ヲ爲シタルコトノ外ニ自己又ハ他人ノ利益ヲ圖リ若シハ他人ヲ害スル目的ヲ要スルコトハ明瞭ナリ然ルニ原院ハ單ニ漠然詐僞ノ届出又ハ申請ヲ爲シタルコトニ對シテノミ説明セラレ其自己又ハ他人ノ利益ヲ圖ルタメニ爲シタルヤ否ヤノ點ニ對シ毫モ説明セサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇原判決ニ依レハ被告ハ古谷和哥ト結婚セントシタルモ和哥カ戸主ノ身ナルヲ以テ之ヲ娶ル能ハス被告モ亦戸主ニシテ和哥方ニ入夫スル能ハサルヨリ自カラ隱居ヲ爲シ和哥ト婚姻シテ其家ニ入ラントスルニ當リ從來八木謙造ト詐稱シテ營業ヲ爲シ居リタル處ヨリ俄カニ自己ノ本名ヲ顯ハスヲ得サルヲ以テ依然八木謙造ト詐稱シ和哥ト婚姻ヲ爲サンカ爲メ八木謙造名義ノ隱居許可申請書ヲ水戸區裁判所ニ提出シ其許可ヲ得テ八木謙造カ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居スルニ付届出ツル旨虚僞ノ事實ヲ記載シタル隱居届書ヲ儀濱町戸籍吏ニ提

判旨第二點

出シ尙八木謙造三カ和哥ト入夫婚姻ヲ爲スニ付届出ツル旨虚僞ノ事實ヲ記載シタル入夫婚姻届書ヲ同上戸籍吏ニ提出シタル事實ナレハ即チ被告ハ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐僞ノ届出ヲ爲シタルコト明瞭ナルヲ以テ原判決ハ理由不備ニ非ス

被告ノ擴張書第一點ハ第一審檢事ハ被告ニ對シ私印私書偽造行使罪アルモノトシ控訴シタルモノナルニ原院ニ於テハ被告ヲ戸籍法違犯ノ罪アルモノトシ同法第二百五條ヲ適用シタルノミナラス理由ニ「原裁判所ハ被告カ八木謙造ノ私印ヲ盗用シ同人名義ノ私書ヲ偽造シタル事實ヲ認ムヘキ證據不十分ナリトノ趣旨ヲ以テ漫然被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ失當ニシテ檢事ノ控訴ハ理由アルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ヲ適用シテ主文ノ如ク評決シタリ」ト記載セラレタリ果シテ檢事ノ控訴理由アルモノトセハ刑法第二百八條ヲ適用スヘキカ當然ナルニ前記ノ如ク戸籍法第二百五條ヲ適用シナカラ尙私印私書偽造行使ノ罪アルモノトシテ控訴シタル檢事ノ控訴理由アルモノトノ理由ヲ付セラレタルハ理由齟齬ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第九ニ該當スル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇檢事ノ控訴ハ第一審判決ヲ不當ナリトシテ之カ取消ヲ請求シタルモノナレハ其趣旨ノ如何ニ拘ラス苟モ原院ニ於テ第一審判決ノ不當ヲ認メ之ヲ取消シタル以上ハ則チ檢事ノ控訴ハ理由アルモノト云ハサルヘカラス故ニ原判決ノ説明ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ」第二點ハ要スルニ原院カ戸籍法第二百五條ニ依リ本件被告ノ所爲ヲ罰シタルハ違法ナリ何トナレハ同條ハ無籍者カ有籍者ノ如



ク裝ヒテ虚偽ノ届出ヲ爲スカ如キ場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非  
 ス本件ハ被告ト八木謙造トノ合意上ニ出テタルモノニシテ則チ謙造カ届出申請書其他ノ願書ヲ自記シ  
 且捺印シ被告ト共ニ戸籍役場ニ出頭シ其他總テノ手續ヲ爲シタルモノナレハ固ヨリ戸籍法第二百十五  
 條ニ該當スルモノニ非スト云フニ在レトモ〇戸籍法第二百十五條ハ自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他  
 人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ニ適用スヘキ法條ニシ  
 テ必スシモ無籍者カ有籍者ノ如ク虚構シテ届出ヲ爲シタル如キ場合ニ限ルニ非ス而シテ本件被告ノ所  
 爲ハ被告ノ上告趣意書第二點ニ對シ説明シタル如ク自己ノ利ヲ圖ル目的ヲ以テ詐僞ノ届出ヲ爲シタル  
 事實ナレハ原院カ右法條ヲ適用シタルハ相當ナリ而シテ八木謙造カ届出申請書等ヲ調製シテ被告ト共  
 ニ戸籍役場ニ出頭シ其他總テノ手續ヲ爲シタリトノコトハ原判決ノ認メサル所ナルヲ以テ右論旨ハ相  
 立タス

第三點ハ要スルニ原院檢事ハ第一審裁判所檢事ノ控訴セシ私印私書僞造行使ノ事件ハ被告ト八木謙造  
 トノ合意ニ出テタルモノト認メラル、ヲ以テ之ヲ抛棄スル旨明言セラレ而シテ檢事ハ本件ハ戸籍法第  
 二百十五條ヲ以テ論スヘキモノナリト起訴シタルモノナリ然ルニ原院ハ此點ニ付被告ニ對シ何等ノ審  
 問モナク戸籍法違犯者トシテ判決セラレタルハ正式ニ背キタル裁判ナリト云フニ在レトモ〇原院公判  
 始末書ニ依レハ事實並證據調終了ノ後檢事ハ「本件ニ付八木謙造カ承諾上ニ出タルトノコトハ事實ト

認メラル故ニ私印私書僞造トノ原裁判所檢事ノ意見ハ維持セス然レトモ被告人ノ行爲ハ戸籍法第二百  
 十五條違犯トナルニ付此點ニ於テ重禁錮三年ノ刑ニ處罰セラルヘキモノト思料ス」ト述ヘタル旨記載  
 アリテ則チ檢事ハ原院ニ於テ審理シタル事實ニ對シ法律適用ノ意見ヲ述ヘタルモノニシテ戸籍法違犯  
 罪ニ付特ニ起訴シタルモノニ非サルヤ明瞭ナリ而シテ原院ハ已ニ取調ヘタル事實ヲ以テ戸籍法違犯罪  
 ナリト認メタルヲ以テ別ニ取調ヲ爲サ、リシハ當然ニシテ本論旨ハ理由ナシ  
 第四點及ヒ第五點ハ辯護人ノ擴張書第五點ト同趣旨ナルヲ以テ其説明ハ後ニ讓ル

辯護人ノ擴張書第一點ハ原判決ハ法律適用ノ部ニ於テ上告人ノ第二第三ノ所爲ハ戸籍法第二百十五條  
 ニ該當スト斷定セラレタルモ事實ノ認定及ヒ其説明ノ部ニ於テハ單ニ上告人カ詐僞ノ届出ヲ爲シタル  
 ノ事實ニ對シ之カ認定ヲ爲シタルモノニシテ上告人ノ其届出ヲナシタルノ目的ハ同法ノ所謂自己又ハ  
 他人ノ利ヲ圖ルカ爲メニ出ルカ又ハ他人ヲ害スル爲メナルカニ就テハ何等ノ判斷ヲ爲サ、ルヲ以テ上  
 告人ノ所爲カ果シテ同條ニ該當スルヤ否ヤノ法律上ノ理由ヲ知ルコト能ハス是原判決カ理由不備ノ不  
 法ヲ免レサル所ナリト信ス同條ニヨレハ「自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身  
 分又ハ戸籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ云々」ト規定シアリテ同條ハ明カニ自己又ハ  
 他人ノ利ヲ圖ルノ目的ヲ以テ詐僞ノ届出ヲ爲シタル場合及ヒ他人ヲ害スル目的ヲ以テ爲シタル場合ノ  
 二個ノ別異ノ犯罪ヲ規定セリ故ニ苟モ同條ニヨリ處罰セント欲セハ必ラス右二個ノ何レノ場合ニ該當

シ裝ヒテ虚偽ノ届出ヲ爲スガ如キ場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非  
 ス本件ハ被告ト八木謙造トノ合意上ニ出テタルモノニシテ則チ謙造カ届出申請書其他ノ願書ヲ自記シ  
 且捺印シ被告ト共ニ戸籍役場ニ出頭シ其他總テノ手續ヲ爲シタルモノナレハ固ヨリ戸籍法第二百十五  
 條ニ該當スルモノニ非スト云フニ在レトモ〇戸籍法第二百十五條ハ自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他  
 人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ニ適用スヘキ法條ニシ  
 テ必スシモ無籍者カ有籍者ノ如ク虚構シテ届出ヲ爲シタル如キ場合ニ限ルニ非ス而シテ本件被告ノ所  
 爲ハ被告ノ上告趣意書第二點ニ對シ説明シタル如ク自己ノ利ヲ圖ル目的ヲ以テ詐僞ノ届出ヲ爲シタル  
 事實ナレハ原院カ右法條ヲ適用シタルハ相當ナリ而シテ八木謙造カ届出申請書等ヲ調製シテ被告ト共  
 ニ戸籍役場ニ出頭シ其他總テノ手續ヲ爲シタルトノコトハ原判決ノ認メサル所ナルヲ以テ右論旨ハ相  
 立タス

第三點ハ要スルニ原院檢察ハ第一審裁判所檢察ノ控訴セシ私印私書偽造行使ノ事件ハ被告ト八木謙造  
 トノ合意ニ出テタルモノト認メラル、ナ以テ之ヲ拋棄スル旨明言セラレ而シテ檢察ハ本件ハ戸籍法第  
 二百十五條ヲ以テ論スヘキモノナリト起訴シタルモノナリ然ルニ原院ハ此點ニ付被告ニ對シ何等ノ審  
 問モナク戸籍法違犯者トシテ判決セラレタルハ正式ニ背キタル裁判ナリト云フニ在レトモ〇原院公判  
 始末書ニ依レハ事實並證據調終了ノ後檢察ハ「本件ニ付八木謙造カ承諾上ニ出タルトノコトハ事實ト

認メラル故ニ私印私書偽造トノ原裁判所檢察ノ意見ハ維持セス然レトモ被告人ノ行爲ハ戸籍法第二百  
 十五條違犯トナルニ付此點ニ於テ重禁錮三年ノ刑ニ處罰セラルヘキモノト思料ス」ト述ヘタル旨記載  
 アリテ則チ檢察ハ原院ニ於テ審理シタル事實ニ對シ法律適用ノ意見ヲ述ヘタルモノニシテ戸籍法違犯  
 罪ニ付特ニ起訴シタルモノニ非サルヤ明瞭ナリ而シテ原院ハ已ニ取調ヘタル事實ヲ以テ戸籍法違犯罪  
 ナリト認メタルヲ以テ別ニ取調ヲ爲サ、リシハ當然ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第四點及ヒ第五點ハ辯護人ノ擴張書第五點ト同趣旨ナルヲ以テ其説明ハ後ニ讓ル  
 辯護人ノ擴張書第一點ハ原判決ハ法律適用ノ部ニ於テ上告人ノ第二第三ノ所爲ハ戸籍法第二百十五條  
 ニ該當スト斷定セラレタルモ事實ノ認定及ヒ其説明ノ部ニ於テハ單ニ上告人カ詐僞ノ届出ヲ爲シタル  
 ノ事實ニ對シ之カ認定ヲ爲シタルモノニシテ上告人ノ其届出ナシタルノ目的ハ同法ノ所謂自己又ハ  
 他人ノ利ヲ圖ルカ爲メニ出ルカ又ハ他人ヲ害スル爲メナルカニ就テハ何等ノ判斷ヲ爲サ、ルヲ以テ止  
 告人ノ所爲カ果シテ同條ニ該當スルヤ否ヤノ法律上ノ理由ヲ知ルコト能ハス是原判決カ理由不備ノ不  
 法ヲ免レサル所ナリト信ス同條ニヨレハ「自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身  
 分又ハ戸籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ云々」ト規定シアリテ同條ハ明カニ自己又ハ  
 他人ノ利ヲ圖ルノ目的ヲ以テ詐僞ノ届出ヲ爲シタル場合及ヒ他人ヲ害スル目的ヲ以テ爲シタル場合ノ  
 二個ノ別異ノ犯罪ヲ規定セリ故ニ苟モ同條ニヨリ處罰セント欲セハ必ラス右二個ノ何レノ場合ニ該當

スルヤノ判断ヲ下サ、ルヘカラサルニ原判決ハ此點ニ關シ何等ノ説明ヲ爲ス所ナキハ到底理由不備ノ不法ヲ免レサル所ナリト信スト云フニ在レトモ○被告ノ上告趣意書第二點ニ對シ説明シタルカ如ク被告カ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐僞ノ届出ヲ爲シタルコトハ原判文上明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點ハ本件ニ於テ上告人カ八木謙造ト詐稱シ其詐稱シタル八木謙造カ現實ニ隱居ヲ爲シ及ヒ入夫婚姻ヲ爲サンカ爲メ申請又ハ届出ヲナシタルノ事實ハ原院ノ認ムル所ナリ果シテ然ラハ八木謙造ト詐稱シタル上告人ノ隱居ヲ爲シタルノ事實及入夫婚姻ヲ爲シタルノ事實ハ眞實ニシテ詐僞ニアラサルヲ以テ戸籍法第二百十五條ニ該當スヘキ性質ノモノニアラズ唯八木謙造ト詐稱シ來リタル結果其八木謙造ナル名稱ヲ用ヰテ隱居又ハ入夫婚姻ヲ爲シタルノ事實アルニ過キス斯ノ如ク上告人ノ第二第三ノ所爲ハ同條ニ該當スヘキモノニアラサルニ原院カ同條ニヨリ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ八木謙造カ隱居ヲ爲シタルニ非ス又入夫婚姻ヲ爲シタルニ非サルニ拘ハラス八木謙造カ隱居ヲ爲シ且入夫婚姻ヲ爲シタルカ如ク詐僞ノ届出ヲ爲シタル事實ナルヲ以テ本論旨ハ原判決ニ副ハサルモノニシテ上告ノ理由ナシ

第三點ハ原判決ノ如ク第一所爲ニ對シ氏名ヲ詐稱シタルモノナリトセハ先ツ本名ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ヲ見ルニ其冒頭ニ「古谷康高事」「中村榮次」ト記載シアリ而シテ事實認定ノ部ニハ「被告ハ云々」「自己ノ本名ヲ掲ケス特ニ申請人トシテ醫師八木謙造名義ヲ掲載シ同日孰レモ之ヲ水戸區裁判所ニ提出シ云々」トアリ即チ其本名ヲ明示セサルヲ以テ其詐稱シタルト認メラレタル八木謙造ナル氏名ハ果シテ詐稱ナリヤ否ヤ知ルニ由ナキニ直ニ刑法第二百三十一條ニ依リ處罰セラレタルハ理由不備ノ不法アリト信スト云フニ在レトモ○被告ノ本名ハ中村榮次ナルコトハ論旨ニ謂ヘル如ク原判決冒頭ニ古谷康高事中村榮次ト記載シタルニ依リ明カナレハ其八木謙造ト稱シタルハ即チ氏名詐稱ナルコト論ヲ待タサルヲ以テ事實理由ノ部ニ本名ヲ掲ケサルモ理由不備トセス

第四點ハ原判決ハ「自己ノ本名ヲ掲ケス特ニ申請人トシテ醫師八木謙造名義ヲ掲載シ同日孰レモ之ヲ水戸區裁判所ニ提出シ以テ同應ニ對シ「連續」シテ其氏名ヲ詐稱シ第二云々戸籍吏ニ提出シテ詐僞ノ届出ヲ爲シタル云々」「被告カ云々裁判所ニ對シ「連續」ノ意思ヲ以テ其本名ヲ詐稱シテ戸籍吏ニ對シ詐僞ノ届出ヲ爲シタルモノナルコト明白ナリト説明セラレタリ該説明ニヨレハ第一第二ノ所爲ハ意思連續シテ同一目的ニ出テタル所謂連續犯ニシテ一罪ト認メナカラ各別ニ法條ヲ問擬シ由テ以テ二罪トシテ處斷シタルハ理由不備ノ失當アリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ「第一明治三十三年十二月二十七日隱居ヲ許可セラレ度旨ノ隱居許可申請書及該申請ニ付許可ノ決定アリタルトキハ郵便ヲ以テ其謄本ヲ下付セラレ度旨ノ上申書並謄本ヲ下付セラレ度旨ノ謄本下付願書ニ自己ノ本名ヲ掲ケス特ニ申請人トシテ醫師八木謙造名義ヲ掲載シ同日孰レモ之ヲ水戸區裁判所ニ提出シ以テ同應ニ對シ連續シテ其氏名ヲ詐稱シ第二云々虛僞ノ隱居届書ヲ茨城縣東茨城郡磯濱町戸籍吏ニ提出シテ詐僞ノ届出ヲ爲

シ第三云々虚偽ノ事實ヲ記載シタル入夫婚姻届書ヲ同上戸籍吏ニ提出シ以テ詐僞ノ届出ヲ爲シタルモ  
 ノトス」トアリテ氏名詐稱ニ付テハ意思ノ連續ヲ認メタルコト明カナルモ詐僞ノ届出ヲ爲シタル事實  
 ニ付テハ各別ニ之ヲ認メ其間意思ノ連續ヲ認メタルコトナシ而シテ其證據説明ノ末段ニ於テ「裁判所  
 ニ對シ連續ノ意思ヲ以テ其氏名ヲ詐稱シ戸籍吏ニ對シ詐僞ノ届出ヲ爲シタルモノナルコト明白ナリト  
 ス」トアル連續ノ意思ハ裁判所ニ對スル連續ノ意思ニシテ戸籍吏ニ對スル連續ノ意思ニ非サルヤ文理  
 上明カナルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

第五點ハ原判決法律適用ノ部ヲ通覽スルニ數罪俱發ニ關シ刑法第百條ヲ適用セス又餘罪發覺ニ付刑法  
 第百二條ヲ適用セス又公訴裁判費用負擔ニ關シ刑法第四十五條ヲ適用セスシテ右各事項ニ對シ全ク關  
 係ナキ戸籍法第百條同法第百二條同法第四十五條ヲ適用處斷シタルハ明ラカニ擬律ニ錯誤アル不法ノ  
 裁判ナリト信スト云フニアリ〇依テ原判決ヲ閱スルニ「法律ニ照スニ被告ノ所爲中第一ハ刑法第二百  
 三十一條ニ當リ第二第三ハ各戸籍法第二百十五條ニ該當スルモ數個ノ輕罪俱發ニ付同法第百條ニ據リ  
 犯情重キ第三ノ所爲ニ從テ處斷スヘキ處云々私ニ營業ヲ爲ス罪ノ餘罪ニシテ其罪重キモノナルヲ以テ  
 同法第百二條第一項後段ニ基キ更ニ之ヲ論シ云々公訴裁判費用ハ同法第四十五條刑事訴訟法第二百一  
 條第一項ニ則リ被告ノ負擔トシ云々」トアリテ同法トアルハ文理上戸籍法ヲ承クヘキヲ以テ所論ノ如  
 シ戸籍法第百條第百二條第四十五條ヲ適用シタルカ如シト雖モ本件ハ數罪俱發ニ發シ一ノ重キニ從テ處

判旨第十點

斷シ且一罪前ニ發シ既ニ判決ヲ經タル餘罪ニシテ前發罪ヨリ重シトシテ更ニ論スヘキ場合ナレハ固ヨ  
 リ戸籍法第百條第百二條ヲ適用スヘキ筈ナク又裁判費用ノ負擔ヲ命スルニ戸籍法第四十五條ヲ適用ス  
 ヘキ謂ハレナケレハ原判決ニ同法トアルハ戸籍法ニアラスシテ其前ニ掲ケタル刑法ヲ指シタルヤ疑ヲ  
 容レヌ故ニ原判文ハ妥當ナラスト雖モ之レヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラサルモノト  
 ス

第六點ハ原院ハ第一審檢事ノ控訴ニ係ル私印盜用私書偽造行使ノ點ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサルハ即  
 チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ〇原院ハ第一審裁  
 判所檢事カ私印盜用私書偽造行使罪トシテ控訴シタル事實ヲ審理シ之ヲ以テ氏名詐稱竝ニ戸籍法違犯  
 ノ行爲ナリト認メ判決シタルモノナレハ特ニ私印盜用私書偽造行使ノ點ニ付判決ヲ爲スヘキモノニ非  
 ス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

第七點ハ原院ノ公判始末書ヲ查スルニ其斷罪ノ證據ニ供シタル隱居許可申請書同上申書同謄本下付願  
 書隱居届書同入夫婚姻届書ハ公判ノ際證據トシテ被告人ニ讀聞ケヌ又示サ、ルモノナリ最モ公判始末  
 書ニハ何レモ示シタル旨記載シアルモ證據調ナナス以前ニ在テ示シタルモノナレハ證據トシテ示シタ  
 ルモノニアラスシテ單ニ事實ノ審問上示シテ尋ネタルニ過キササルナリ假リニ證據トシテ示シタルモノ  
 トスルモ之ニ對シ辯解セシメサル不法アリ且以上ノ書類ハ刑事訴訟法第九十條末項ノ所謂證據物件